日本インターンシップ学会
創設25周年記念誌

JSI
Japan Society of Internship
and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会

巻頭言

日本インターンシップ学会　会長
吉本　圭一
（滋慶医療科学大学教授、九州大学名誉教授）

日本インターンシップ学会は、1999年創設され、2024年に25周年を迎えました。

学会創設以前は、教育から職業への移行の構造変動・制度改革の始まりの時期でした。新規学卒定期一括採用のもと、訓練可能性による採用が拡がり、銘柄大学卒業者確保のための青田買い早期化と、就職協定の見直しとがくり返されていた時代です。1990年代に入りバブル崩壊と学卒無業問題、日経連の雇用多様化提言、就職協定廃止とともに、1997年に当時の文部省・労働省・通産省の三省合意によるインターンシップ推進が始まりました。中学・高校等でも、脱偏差値とゆとり教育が議論され、阪神淡路大震災後の1998年兵庫県の学外体験活動「トライやる・ウィーク」は全国各地に拡がり、特別活動、総合的な学習の時間、課題研究等によるインターンシップが教育政策の目玉の一つとして取りいれられました。

日本インターンシップ学会は、教育と職業との関わりの暗中模索のなか、高良和武初代会長（東京大学名誉教授）はじめとする有志によって創設されました。設立当初から現在も引き継がれている会則第１条には、「学生等が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」、「学校と企業等との連携により行われる形態を基本とする」という明確な定義あり、これら広範囲の研究課題が集約されています。

教育改善・制度改革への熱意集まる学会活動を経て、2011年には田中宣秀10周年記念事業ワーキンググループ委員長のもと『日本インターンシップ学会～10年の記録～』が刊行されました。その巻頭言で、私は「学の確立」を課題としつつ、学術と実践との往還という学会員の視界を豊かにしていく課題を提示しました。

その後「インターンシップ」という用語は、さまざまの界で多様な「共通感覚」はありながらも一定の市民権を得て、学会規模も拡大しました。他方で文教･労働政策的な見直しも提起され、新たな研究課題も発生しています。

創設25周年を迎え、あらたに2008～2022年度までの期間に焦点をあてた記録編纂を課題とし、2022年８月に江藤智佐子委員長、山口圭介委員、和田佳子委員による25周年記念誌刊行WGを組織し、このたび本誌刊行となりました。また、並行して学会員動向と学会活動への意見を把握するため、亀野淳委員長、髙橋秀幸委員、中島美佐穂委員による会員動向調査WGを立ち上げ、こちらは2023年度から企画研究委員会のもとで調査結果をとりまとめ、別途刊行の予定です。

本誌からWGのみなさんの精力的な資料吟味の跡がうかがわれます。史実から組織として、過去に学び、自らを知り、未来につなぐことの大切さを多く知ることができます。あらためて関係各位のご尽力に感謝したいと存じます。

本学会は、インターンシップと職業統合的学習のこれからの課題と方向の更なる解明を目指します。どうぞよろしくお願いいたします。

目　次

学会創設25周年を迎えて　歴代会長のご挨拶 …… 2

1. 学会組織の記録

1-1. 役員の記録 …… 6
1-2. 委員会の変遷 …… 7
1-3. 委員会・ワーキンググループの記録 …… 8
1-3-1. 年報編集委員会 …… 8
1-3-2. 広報委員会 …… 8
1-3-3. 企画研究ワーキンググループ、企画研究委員会 …… 9
1-3-4. 高良記念研究助成審査委員会、槇本記念賞ワーキンググループ、学会表彰委員会 …… 10
1-3-5. 役員選出規程ワーキンググループ、選挙管理委員会 …… 11
1-3-6. 組織運営ワーキンググループ、本部支部連絡会 …… 11
1-3-7. 記念事業ワーキンググループ …… 12

2. 学会運営の記録

2-1. 会員数の推移 …… 14
2-2. 理事会の記録 …… 15
2-3. 日本インターンシップ学会　会則 …… 17
2-4. 会則改正の記録 …… 22
2-5. 役員選挙の記録 …… 28

3. 学会表彰の記録

3-1. 高良記念研究助成 …… 34
3-1-1. 高良記念研究助成　受賞者一覧 …… 34
3-1-2.「2023年度 高良記念研究助成」募集要項 …… 35
3-2. 槇本記念賞「秀逸なるインターンシップ」 …… 37
3-2-1. 槇本記念賞　受賞校・団体一覧 …… 37
3-2-2. 槇本記念賞「秀逸なるインターンシップ」 選考方法 …… 38

4. 学会大会の記録 …… 40

5. 研究年報の記録

5-1.『インターンシップ研究年報』第11号～第25号 …… 44
5-2.『インターンシップ研究年報』編集規程 …… 54
5-3.『インターンシップ研究年報』研究論文・資料等投稿規程（第26号） …… 55

6. 支部活動／研究会の記録

北海道支部　13年のあゆみ …… 60
東日本支部　12年のあゆみ …… 64
関 西 支 部　18年のあゆみ …… 68
九 州 支 部　15年のあゆみ …… 72

謝　辞 …… 76
編集後記 …… 77

インターンシップ事始めから四半世紀を経て

日本インターンシップ学会　第２代会長
田村　紀雄
（東京経済大学名誉教授、社会学博士）

「コミュニケーション学部」という名の新学部の調査、設計、設立を大学から下命され、この職務に就いたのは1993年であった。大学が創立100周年（2000年）へ向けての大学改革の柱とての大事業である。国内に同名の学部がないため欧米の大学の調査で地球を一周した。米国には1980年代、すでに600大学にコミュニケーション学部があり、フルタイムの教員が１万７千人いて研究教育に携わっていた。主要大学のカリキュラムなど資料を取り寄せると必ずインターンシップ教育がある。何度か訪問調査をして、新学部のカリキュラム案を完成して「学部設置認可申請書」を1994年６月、当時の文部省へ提出した。

ところが、早速文部省からカリキュラムにある「インターンシップとはなにか」という質問がきた。これまで、工学・医看護系などの教育で耳にしたことがあるが、われわれが考える教育分野での具体例を知らなかった。そこでまた米加の主要大学にアポをとって再調査に赴いた。国内では近似的な教育法として教員免許取得上での「教育実習」も研究した。

米加の大学では重要な教科として大学挙げて取り組んでいることもわかった。学生の相談窓口は夏休み中も開いており、企業の側も大学に協力するたんなる「社会奉仕」でなく、従業員の質的向上や企業評価向上、社会貢献の一部として取り組んでいることが判明した。産業界全体としても、従業員募集のようにインターン生の募集枠、職種、賃金の有無、期間等を公示するのが習わしで、全産業あるいは産業ごとの募集リストも何種も発行されていた。たとえばピーターソン社のカタログには例年５、６万社も掲載され内容も詳細であった。

一例を示す。ある年のNYタイムズ社、職種ごとの受け入れ人員、手当、期間等がしめされ、全社で300人の受け入れ、応募者は4000人とある。さすが学生の人気企業である。ワシントンで発行されているタウン誌は従業員はわずか60人なのに毎年インターン希望者は200人いるというのもある。

こんな資料を調査して正規の授業としてのインターンシップを決定､文部省に回答した。もっとも苦労したのは、受け入れ企業の開拓だ。この予約もとり、夏休みを利用したインターン従事、企業側の現場教育と内容、その結果の大学への報告､履修学生には単位認定委員会で２単位の付与等を報告した。授業としても生やさしいものでなく、テマヒマのかかるものだったが、この計画を全学あげてサポートしてくれた。

学部新設が認可されて、1995年に新入生を迎え、彼等にもガイダンスでこの新しい教育方法をすりこみ、翌1996年、最初のインターン生20数人を選抜、応募者は３倍ほどになった。インターンシップ教育のスタートである。担当教員も、サポートする職員も、受け入れ企業も真剣そものだった。なにしろ未知の荒野に乗り出したのだ。インターン生のうち６人ほどをアメリカなど海外３か国のメディアに送った。勿論すべて英語で、篤志の現地アメリカ人の新聞社幹部等の家庭にホームステイの生活であった。

この新しい教育改革は、文部省から国会やメディアに伝わり、労働省など４省の課長代理一行の訪問調査を受けた。NHKや新聞・雑誌報じられ、一気に「インターンシップ」という用語・考え方は広まり、日本の大学の教育改革に貢献したとひそかに誇りにしている。初期にはもっとも苦心したのは受け入れ企業の開拓であった。その後、学会や関係者の努力で社会全体のものになり、経済団体としても積極的にインターンシップ教育の発展を支援するようになった。近年、政府、企業団体も本腰をいれて協力しており、確かな将来になりつつあることは喜ばしいかぎりである。

界を越える対話のアゴラと職業統合的学習の25年

日本インターンシップ学会　第３代・第５代会長
吉本　圭一
（滋慶医療科学大学教授、九州大学名誉教授）

インターンシップは、一言でいえば界を越える対話の学びである。インターンシップに参画する学生・企業・学校、中等教育・第三段階教育・労働市場という場、インターンシップと資格取得実習・アルバイトの目的方法、それぞれの界にそれぞれの「共通感覚」が生まれる。その相互理解と浸透をどのように把握するのか、大きな拡がりを持つ研究領域である。そのためインターンシップが拡がっていく過程では、さまざまの揺らぎがうまれ、また揺らぎはつねとしてある。この多様性と揺らぎをめぐって、政策の世界では、いま、これまでインターンシップを教育目的に特化して提示してきたことを一掃し、その対極として採用目的に特化して理解しようとする動きも見られる。

しかし、日本インターンシップ学会は、学会創設の時から揺らぎなく、会則第１条で「学会のインターンシップの定義は『学生等が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと』と幅広くとらえ、学校と企業等との連携により行われる形態を基本とする」としてきた。私自身は第３代ならびに第５代会長として学術コミュニティづくりを担い、この創設メンバーによる会則第１条の精神に、つねに敬意を払い、そこを原点として学会活動に関わってきた。それは、学生にとっての「専攻」と「キャリア」という目的、「在学」と「就業体験」という学習の方法論、「学校」と「企業」の連携というガバナンス、これらの界を越える対話の学びの精神を提示している。いま、採用目的だけが強調された議論もあるが、その方法のなかにも教育的な意味を、またこれまでも本学会で強調してきた教育目的の活動の中にある採用的意義も評価していくべきところである。

会則について少し補足すれば、ここにもさらなる概念の包括性にむけた再考の余地は残っている。「学生等」というときに、すでに1997年の三省合意以前に展開していた中等教育段階のインターンシップ等や、学校の関わらない採用に特化したいわゆるワンデーインターンシップやアルバイトなど、研究対象として価値あるものが多くある。本学会で、資格取得の実習を含めてこれらさまざまに界を越える対話の学びについての研究が手がけられていることは、学術コミュニティとしての四半世紀の成果のひとつである。

これまでの私の学会活動については、会長挨拶のページに載せてある会長講演（https://www.youtube.com/watch?v=EI6AQ67qAIo）でも説明したが、学会10周年にかかる時期に事務局長として役員選出ルールなどを定め、会長として学術のコミュニティづくりに関わってきた。2010年代に学会英語名称として「work integrated learning（職業統合的学習）」を加え、また日本学術会議協力学術団体の登録を進め、地域支部による現場関係者とともに研究する体制を整え、学会の規模拡大も実現できた。

ひとりひとりお名前をあげられないのが残念だが、学会運営において多くの皆さんにご尽力いただいてきた。大学・短大・専門学校・高校の研究者・実務家・教職員・経営者、企業・経済団体・仲介団体関係者など、異なる「共通感覚」をもつ会員等との対話の場（アゴラ）をつくり、相互信頼の領域を拡大できたことが、学会としての、また私自身の財産である。今後も、この学会が、異なる界のそれぞれの「共通感覚」をしっかり把握し、またそれを尊重するものでありたい。フーゴーやブルデューという古今の学術の先人の知恵を使えば、「異国の中に我が祖国を」、「我が祖国のなかに異国を」見いだす、界を越える対話のコミュニティを築いていくために、次の25年にむかって、私も微力を尽くしていきたい。

日本インターンシップ学会
創設25周年を迎えて

日本インターンシップ学会　第４代会長
折戸　晴雄
（玉川大学 客員教授）

日本インターンシップ学会の25周年記念、おめでとうございます。

私は、2012年の秋以降、理事として学会運営に携わらせていただいた後、2015～2016年度に副会長、2017～2020年度の２期４年、会長を務めさせていただきました。

会長として学会運営に携わった４年間の学会活動が後退することなく、一歩でも前進することができたのであれば、それはひとえに、会員の皆さまの一致団結と先輩諸氏のご協力・ご指導、そして蔭ながら運営を支えてくれた事務局の情熱であると感謝しております。振り返ってみれば、２期目となる２年間は、新型コロナウィルス感染症の大きな影響を受け、全国大会も本学会として初めての全面オンライン開催となりました。理事選挙がオンラインで行われたのも、このときが初めででした。学会運営においても、直接的なコミュニケーションをとることができず、会員の皆さまのニーズを十分に把握することが難しく、正直、活動の在り方に溝ができたこともございました。

このような状況のもと、インターンシップの在り方も大きく変化し、研究の在り方も大きく転換したように思われます。1997年に当時の部省・通産省・労働省の合意により「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」が発表されたことを踏まえ、我が国におけるインターンシップが強く推進されるようになり、1999年、幅広い研究領域にかかわるインターンシップに関心を持つ研究者が集まり、日本インターンシップ学会が設立されて以降、インターンシップの推進の在り方には、さまざまな変革が求められました。まさに、教育界・経済界におけるインターンシップの過渡期であったと言うことができると思います。近年では、企業の「１日インターンシップ」など、「インターンシップ」ということばが広く使用されるようになり、社会におけるインターンシップへの認知が深まったように思われますが、他方で、インターンシップの本来あるべき姿との溝が出来つつあると感じます。

理事を務めさせていただく前年となる2011年に関東支部（現東日本支部）が発足したことは、私にとって、学会運営・研究活動の両面の大きな励みとなりました。関東地区における研究者による研究活動の充実と発展を目指し、日本インターンシップ学会創設より学会活動に尽力されておりました田中宜秀先生（当時副会長）、石田宏之先生（当時常任理事）、太田和男先生（当時常任理事）、故那須幸男先生（当時常任理事）の４名が発起人となり、九州支部、北海道支部、関西支部に続き、２年の準備期間を経て、関東支部を発足させてくださいました。2011年３月11日東北地方太平洋地震を受けた翌日、工学院大学に皆さんが集まり、交通機関がマヒ状態の中、賛同いただいた研究者の方々が参集し、関東支部がスタートしたことが記憶に強く残っております。

その後、関東支部の精力的な活動が周辺地域へと広がり、現在は、支部名称も東日本支部へと変更されています。これは、関東支部・東日本支部の研究活動、さらには、企画・運営に研究者の会員の皆さまのみならず、実務家の会員の皆さまにも企画・運営に積極的に係っていただくことにより、成し遂げられた成果であると思います。このような支部の活動は、支部を超え、学会全体を活性化させたのではないかと考えています。

本学会の研究成果が、今後とも末永く活用され、インターンシップ研究及びインターンシップ教育の発展に寄与できることを祈念いたします。

終わりになりますが日本インターンシップ学会の限りない発展と、会員の皆様のますますのご健勝、ご多幸を心からお祈り申しあげ、思い出の一端とさせて頂きます。

1

学会組織の記録

（2008–2022年度）

1．学会組織の記録

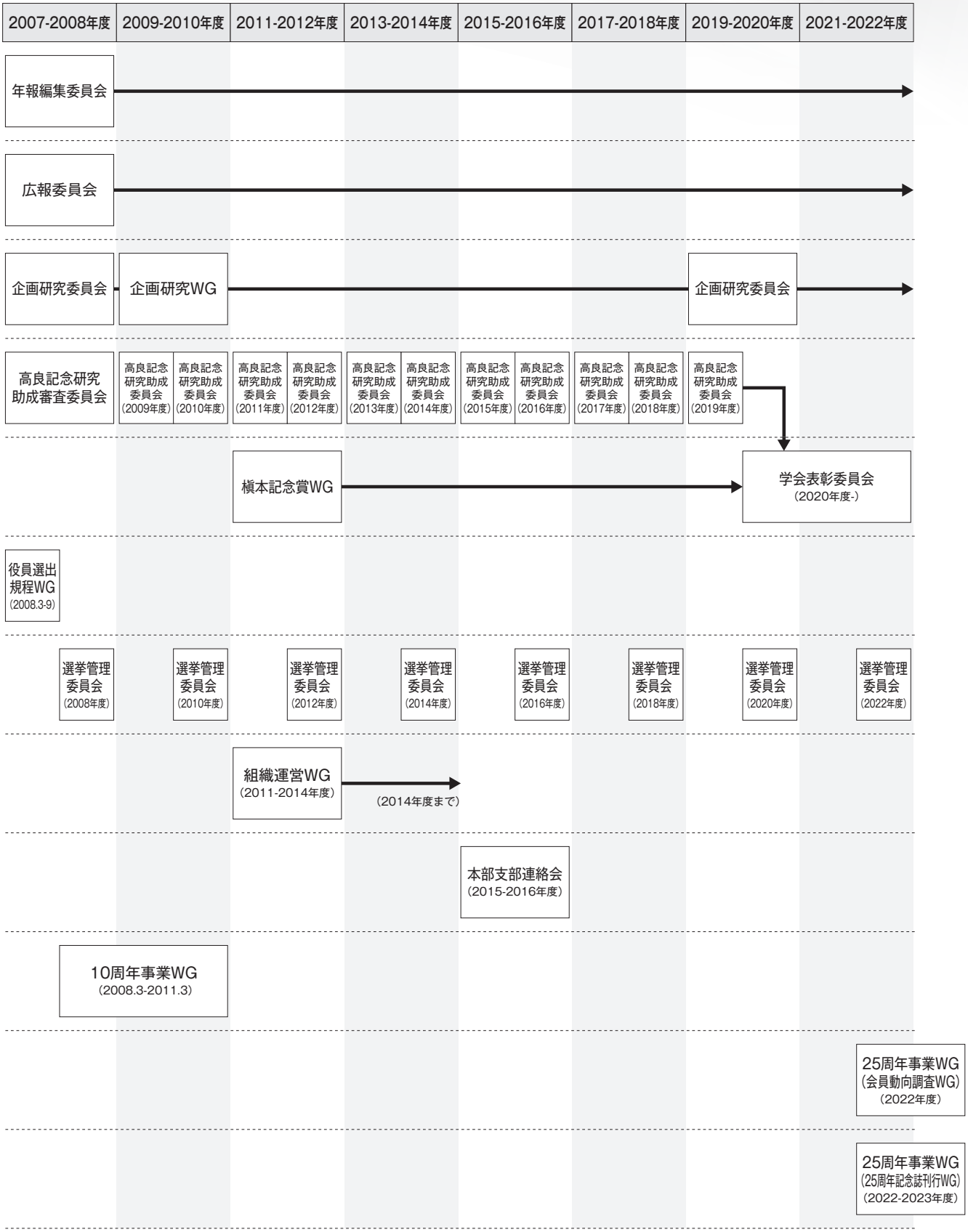
1-1．役員の記録

	2007-2008年度	2009-2010年度	2011-2012年度	2013-2014年度	2015-2016年度	2017-2018年度	2019-2020年度	2021-2022年度
会長	田村紀雄	吉本圭一	吉本圭一	吉本圭一	吉本圭一	折戸晴雄	折戸晴雄	吉本圭一
副会長	加藤敏明 舘　昭 田中宣秀	加藤敏明 舘　昭	太田和男 加藤敏明 舘　昭	安孫子勇一 太田和男 亀野　淳	折戸晴雄 亀野　淳 眞鍋和博	古閑博美 眞鍋和博	安孫子勇一 古閑博美 吉本圭一	古田克利
常任理事	石田宏之 太田和男 小川浩平 亀野　淳 鈴木英雄 那須幸雄 並木榮一 吉本圭一	安孫子勇一 石田宏之 稲永由紀 太田和男 亀野　淳 古閑博美 田中宣秀 那須幸雄	安孫子勇一 石田宏之 稲永由紀 江藤智佐子 亀野　淳 古閑博美 田中宣秀 長尾博暢 眞鍋和博 横山晧一	石田宏之 稲永由紀 江藤智佐子 古閑博美 田中宣秀 椿　明美 長尾博暢 眞鍋和博	岡本信弘 長尾博暢 薬師丸正二郎 和田佳子	牛山佳菜代 江藤智佐子 髙橋秀幸 長尾博暢 松坂暢浩		稲永由紀 小林　純 眞鍋和博
理事	青野友太郎 安孫子勇一 天谷　正 伊藤文男 稲永由紀 川井良介 古閑博美 髙橋保雄 内藤康男 中原淳二 樋口義雄 槇本淳子 松澤孝明 宮原隆史 横山修一	青野友太郎 安部恵美子 伊藤文男 江藤智佐子 見目喜重 沢田　隆 髙橋保雄 椿　明美 中原淳二 長尾博暢 槇本淳子 真鍋和博 横山修一 宮原隆史 横山晧一 渡邊和明	今井久登 牛山佳菜代 折戸晴雄 桂川保彦 見目喜重 沢田　隆 髙橋保雄 田崎悦子 椿　明美 冨田宏治 中原淳二 那須幸雄 横山修一 渡邊和明	安部恵美子 牛山佳菜代 岡本信弘 折戸晴雄 加藤敏明 小林直樹 髙橋秀幸 髙橋保雄 冨田宏治 松高　政 宮川敬子 薬師丸正二郎 横山皓一 和田佳子	安孫子勇一 牛山佳菜代 酒井佳世 坂野慎二 沢田　隆 髙橋哲夫 髙橋秀幸 田中宣秀 那須幸雄 廣瀬幸弘 古田克利 山口圭介	稲永由紀 大島槇子 岡本信弘 髙橋哲夫 薬師丸正二郎 山口圭介 吉田雅也 小林　純 髙橋和実 田村朋子 根木良友 廣瀬幸弘	牛山佳菜代 江藤智佐子 遠藤雅子 小川祐一 上岡史郎 古閑博美 小林　純 酒井佳世 髙橋和実 椿　明美 戸崎　肇 福岡哲朗 二上武生 古田克利 松坂暢浩 薬師丸正二郎 山口圭介	石田麻英子 今永典秀 岩井貴美 江藤智佐子 上岡史郎 見目喜重 古閑博美 古賀正博 髙橋秀幸 手嶋慎介 戸崎　肇 中島美佐穂 見舘好隆
監事	沢田　隆 横山晧一	牛山佳菜代 小川浩平	伊藤文男 小川浩平	伊藤文男 沢田　隆	稲永由紀 古賀正博	横山晧一	沢田　隆 横山晧一	新谷康浩 平尾元彦
事務局長	吉本圭一	亀野　淳	亀野　淳	長尾博暢	岡本信弘	根木良友	根木良友 (2019年度まで) 山口圭介[代行] (2020.5～)	山口圭介
事務局	稲永由紀 江藤智佐子 福岡哲朗 (2007年度) 真鍋和博 (2008年度)	沢田　隆 髙橋秀幸 田崎悦子 椿　明美	岡田敬志 髙橋秀幸 田崎悦子	土肥眞琴 [事務局長補佐]	潘　秋静 [事務局長補佐] 酒井佳世 [事務局長補佐] 坂巻文彩 [事務局長補佐]			江藤智佐子 [事務局次長] 古田克利 [事務局次長]

名誉会長	高良和武	高良和武	高良和武	高良和武	高良和武	高良和武 (2019.1.30逝去)		
顧問	金田昌司 内藤洋介 渡辺三枝子	天谷　正 金田昌司 田村紀雄 内藤洋介	天谷　正 金田昌司 田村紀雄 槇本淳子	天谷　正 金田昌司 田村紀雄 槇本淳子	天谷　正 金田昌司 (2016.12.20逝去) 田村紀雄 槇本淳子	天谷　正 田村紀雄 槇本淳子	天谷　正 (2020.6.9逝去) 田村紀雄 槇本淳子 [名誉会員]	田村紀雄 槇本淳子 [名誉会員]

【注】
1）2008～2009年度：学会年度　4月～3月
2）2010年度（経過措置）：学会年度　2010年4月1日～2011年6月30日
3）2011年度～：学会年度　7月～6月

1-2. 委員会の変遷（※2010年度から学会年度は7月～6月）



1-3．委員会・ワーキンググループの記録

1-3-1．年報編集委員会

※五十音順

	2007-2008年度	2009-2010年度	2011-2012年度	2013-2014年度	2015-2016年度	2017-2018年度	2019-2020年度	2021-2022年度
委員長	石田宏之	安孫子勇一	稲永由紀	稲永由紀	亀野　淳	長尾博暢(*1)	吉本圭一	古田克利
副委員長		稲永由紀	安孫子勇一	亀野　淳	新谷康浩	薬師丸正二郎(*2)	古田克利	牛山佳菜代
委員	安孫子勇一 稲永由紀 太田和男 亀野　淳 見目喜重 舘　　昭 田中宣秀 吉本圭一	石田宏之 伊藤文男 亀野　淳 新谷康浩 舘　　昭 長尾博暢 福岡哲朗	伊藤文男 見目喜重 新谷康浩 長尾博暢 廣瀬幸弘 福岡哲朗	牛山佳菜代 見目喜重 新谷康浩 長尾博暢 廣瀬幸弘 福岡哲朗 古田克利	稲永由紀 牛山佳菜代 見目喜重 坂野慎二 長尾博暢 古田克利 薬師丸正二郎 岡本信弘	新目真紀 稲永由紀 見目喜重 福岡哲朗 見舘好隆 宮田　篤	江藤智佐子 椿　明美 手嶋慎介 山口圭介	井本浩之 岩井貴美 髙橋秀幸
年報発行	第11号 (2008年6月20日)	第13号(*3) (2010年9月25日)	第15号 (2012年11月20日)	第17号(*4) (2014年11月30日)	第19号(*5) (2016年11月20日)	第21号 (2019年3月31日)	第23号 (2020年11月28日)	第25号(*7) (2022年10月28日)
	第12号 (2009年7月30日)	第14号 (2011年12月25日)	第16号 (2013年12月31日)	第18号 (2015年11月20日)	第20号(*6) (2017年12月31日)	第22号 (2019年12月28日)	第24号 (2021年11月30日)	第26号 (2023年10月31日)

【注】1）2017年度のみ委員長　2）2018年度より委員長
3）種別の見直し、「Ⅰ研究論文の部」（査読あり）、「Ⅱ資料の部」（査読なし）の２部構成に変更
4）『インターンシップ研究年報』編集規程　2014年10月１日改訂　5）『インターンシップ研究年報』編集規程　2016年10月１日改訂
6）『インターンシップ研究年報』編集規程　2017年８月10日改訂　7）『インターンシップ研究年報』編集規程　2022年９月19日改訂

1-3-2．広報委員会

※五十音順

	2007-2008年度	2009-2010年度	2011-2012年度	2013-2014年度	2015-2016年度	2017-2018年度	2019-2020年度	2021-2022年度
委員長	槇本淳子	石田宏之	石田宏之	石田宏之	和田佳子	髙橋秀幸	江藤智佐子	眞鍋和博
副委員長		江藤智佐子	江藤智佐子	江藤智佐子 見目喜重	牛山佳菜代 見目喜重	吉田雅也	牛山佳菜代 見目喜重 小林　純	上岡史郎 ［委員長代行］ 見目喜重
委員	中原淳二 横山修一	青野友太郎 見目喜重 古閑博美 中原淳二 槇本淳子 横山修一 渡邊和明	青野友太郎 岡本信弘 見目喜重 小林　純 髙橋秀幸 中原淳二 八木　章	青野友太郎 岡本信弘 古閑博美 小林　純 椿　明美 土肥眞琴	江藤智佐子 小林　純 沢田　隆 廣瀬幸弘 松髙　政 山口圭介	大島槇子 見目喜重 小林　純 山口圭介 古田克利 小嶋紀博	石田麻英子 中島美佐穂 安田麻季代	石田麻英子 中島美佐穂 (2021年度) 宮崎愛弓 (2022年度)

News Letter	2007年度No.1 (2007年5月)(*1) 2007年度No.2 (2007年11月) 2007年度No.3 (臨時号) (2008年3月) 2008年度No.1 (2008年5月) 2008年度No.2 (2008年11月)	2009年度No.1 (2009年5月) 2009年度No.2 (2009年11月)(*2) 2010年度No.1 (2010年5月) 2010年度No.2 (2010年11月) 2010年度No.3 (2011年5月)	2011年度No.1 (2011年11月) 2011年度No.2 (2012年5月) 2012年度No.1 (2012年11月) 2012年度No.2 (2013年5月)	2013年度No.1 (2013年12月)(*3) 2013年度No.2 (2014年5月) 2014年度No.1 (2014年11月) 2014年度No.2 (2015年5月)	2015年度No.1 (2015年11月) 2015年度No.2 (2016年5月) 2016年度No.1 (2016年11月) 2016年度No.2 (2017年5月)	2017年度No.1 (2017年11月) 2017年度No.2 (2018年5月) 2018年度No.1 (2018年11月) 2018年度No.2 (2019年月)	2019年度No.1 (2019年12月) 2019年度No.2 (2020年6月) 2020年度特別号 (高良初代会長追悼) (2020年8月) 2020年度No.1 (2020年12月) 2020年度No.2 (2021年5月)	2021年度No.1 (2021年12月) 2021年度No.2 (2022年5月) 2022年度No.1 (2022年11月) 2022年度No.2 (2023年5月)
web サイト			2011年　新Web サーバーへの移行 2012年　「日本インターンシップ学会～10年の記録～」をWeb掲載				2020年　学会Webサイトトップページに「Web会員名簿（検索システム）」アイコンを掲載	2021年　新Web サーバーへの移行
その他			2012年度No.1より表紙に学会ロゴを掲載					

【注】1）2007～2009年度No.1までのNews Letterは、事務局が編集・発行を担当
2）2009年度No.2よりNews Letterの編集・発行は広報委員会が担当
3）2013年９月、学会英語名称変更に伴うロゴ作成・版権管理

1-3-3. 企画研究ワーキンググループ、企画研究委員会

※五十音順

	企画研究委員会	企画研究ワーキンググループ					企画研究委員会	
	2007-2008年度（*1）	2009-2010年度（*2）	2011-2012年度（*3）	2013-2014年度（*4）	2015-2016年度（*5）	2017-2018年度（*6）	2019-2020年度（*7）	2021-2022年度（*8）
委員長	田中宣秀	吉本圭一	吉本圭一	亀野　淳	安孫子勇一	江藤智佐子	薬師丸正二郎	稲永 由紀
副委員長		加藤敏明	亀野　淳	安孫子勇一	折戸晴雄 古田克利	髙橋哲夫	髙橋秀幸	
委員	加藤敏明 亀野　淳 鈴木英雄 那須幸雄 真鍋和博	稲永由紀 牛山佳菜代 古閑博美 沢田　隆 髙橋保雄 長尾博暢 真鍋和博	稲永由紀 牛山佳菜代 江藤智佐子 折戸晴雄 古閑博美 田崎悦子 高橋保雄 椿　明美 長尾博暢	稲永由紀 折戸晴雄 小林直樹 廣瀬幸弘 松高　政 宮川敬子 薬師丸正二郎 吉本圭一	亀野　淳 古閑博美 古賀正博 髙橋秀幸 薬師丸正二郎 吉本圭一	亀野　淳 古賀正博 小林　純 高瀬和実 松高　政	井本浩之 岩井貴美 髙橋修一郎	岩井貴美 亀野　淳 田中　寧 髙橋秀幸 （2022年度） 平尾元彦 中島美佐穂 （2022年度） 吉本圭一 ［オブザーバー］

【注】

1）６回の研究会を開催（支部との共催分含む）
- 2007年度第１回「派遣型高度人材育成協働プラン」（2007年６月23日、於：桜美林大学新宿第２キャンパス）
- 2007年度第２回「工業高等専門学校におけるインターンシップ・キャリア教育」（2007年12月15日、於：関西学院大学大阪梅田キャンパス／関西支部と共催）
- 2007年度第３回「産学連携教育における企業の役割」（2008年３月22日、於：筑波大学東京キャンパス）
- 2008年度第１回「3-Winのインターンシップ構築を目指して」（2008年６月27日、於：九州大学箱崎キャンパス／九州支部と共催）
- 2008年度第２回「女子大学におけるインターンシップ・キャリア教育」（2008年12月13日、キャンパスプラザ京都／関西支部と共催）
- 2008年度第３回「インターンシップの短期化をどう考え、どう対処するか」（2009年１月14日、於：筑波大学東京キャンパス）

2）会員有志で編成される共同研究活動の支援
- 平成22-24年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B））「インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究」（研究代表者：亀野　淳）
- 平成23-25年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B））「大学から職業への移行を促すインターンシップを軸としたキャリア教育研究」（研究代表者：椿　明美）

3）会員有志で編成される共同研究活動の支援
- 平成23年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業「国内外における産学連携によるキャリア教育・専門教育の推進に関する実態調査」（委託先：九州大学・吉本圭一）
- セミナーの共催。①高等教育国際セミナー「実社会と対話する大学教育―インターンシップから職業統合学習へ」（2012年３月16-17日、於：九州大学西新プラザ／九州大学主催）
- セミナー「日々の実践からの研究企画と論文作成に向けて」（2012年12月22日、於：筑波大学東京キャンパス／年報編集委員会と共催）

4）①日々の実践を学術研究に結びつけていくための方策の検討
- セミナー「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」（2014年11月30日、於：北海道大学／年報編集委員会・北海道支部との共催）

②国際的な活動
- 第19回WACE（世界コーオプ教育協会）世界大会のプレ大会における、JSI関西支部主催のセッションへの協力（2014年８月30日、於：京都産業大学むすびわざ館）

5）①日々の実践を学術研究に結びつけていくための方策
- セミナー「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」（2016年８月10日、於：キャンパスプラザ京都／年報編集委員会・関西支部との共催）
- セミナー「日々の実践からの研究企画と論文作成にむけて」（2016年12月10日、於：九州大学箱崎キャンパス／年報編集委員会・九州支部との共催）

②国際的な活動
- 第19回WACE世界大会（2015年８月19-21日、於：京都産業大学）への学会としての後援

6）研究スタートアップ支援セミナー「高良記念研究助成受賞からその後のキャリア」（2018年11月23日、於：久留米大学福岡サテライト／高良記念研究助成委員会・九州支部との共催）

7）講座「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」（2021年６月21日、Zoom利用によるオンライン開催／東日本支部との共同企画）

8）「『インターンシップ専門人材（仮）』養成」をテーマに、委員による共同研究を実施
- 国内外の「インターンシップ専門人材（仮）」養成プログラムの調査（WACE global WIL module、JASSOなど。The 4th WACE International Research Symposium（2022年８月31日-同年９月２日、オンライン開催、ホスト校：金沢工業大学）への参加を含む）
- 学会創設25周年記念事業会員動向調査WGとの共同による会員動向調査（2023年３月）。なお、会員動向調査WGの髙橋、中島は2022年度のみ企画研究委員も担当。

1-3-4. 高良記念研究助成審査委員会、槇本記念賞ワーキンググループ、学会表彰委員会

※五十音順

	高良記念記念研究助成審査委員会							
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
委員長	那須幸雄	那須幸雄	太田和男	太田和男	椿　明美	冨田宏治	眞鍋和博	牛山佳菜代
委員	安孫子勇一 太田和男 川井良介 栗原眞佐子	安孫子勇一 太田和男 川井良介 椿　明美	川井良介 椿　明美 冨田宏治 那須幸雄	川井良介 椿　明美 冨田宏治 真鍋和博	牛山佳菜代 川井良介 冨田宏治 眞鍋和博	牛山佳菜代 岸本喜久雄 椿　明美 眞鍋和博	牛山佳菜代 岸本喜久雄 冨田宏治 和田佳子	辻　隆久 岡本信弘 和田佳子

	高良記念記念研究助成審査委員会					学会表彰委員会	
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021-2022年度
委員長	岸本喜久雄	岡本信弘	山口圭介	牛山佳菜代	牛山佳菜代	古閑博美	小林　純
委員	牛山佳菜代 辻　隆久 岡本信弘 和田佳子	山口圭介 岸本喜久雄 辻　隆久 和田佳子	辻　隆久 松高　政 和田佳子 岡本信弘	廣瀬幸弘 沢田　隆 松高　政 山口圭介	廣瀬幸弘 沢田　隆 松高　政 山口圭介	小林　純 松坂暢浩 尾崎雅彦 (2020.7～9) 松高　政 (2020.10～) 眞鍋和博	伊藤文男 手嶋慎介 戸崎　肇 古賀正博

2020年度から
【学会表彰委員会】へ

	槇本記念賞ワーキンググループ			
	2011-2012年度	2013-2014年度	2015-2016年度	2017-2018年度
委員長	加藤敏明	田中宣秀	眞鍋和博	松坂暢浩
副委員長	田中宣秀	眞鍋和博	田中宣秀	岡本信弘
委員	安孫子勇一 古閑博美 沢田　隆 高橋保雄 田崎悦子 中原淳二 眞鍋和博	安孫子勇一 岡本信弘 太田和男 加藤敏明 冨田宏治 吉本圭一 和田佳子	酒井佳世 沢田　隆 高橋哲夫 富田宏治 那須幸雄 廣瀬幸弘 吉本圭一	田村朋子 田村朋子 高瀬和実 平尾元彦 松高　政

1-3-5. 役員選出規程ワーキンググループ、選挙管理委員会

※五十音順

	役員選出規程ワーキンググループ
	2007年度
委員	石田宏之 古閑博美 舘　　昭 田村紀雄 吉本圭一

※2年に一度

	選挙管理委員会							
	2009.3.14~ 2008年度	2010年度	2012年度	2014年度(*1)	2016年度	2018年度	2020年度(*2)	2022年度(*3)
委員長	石田宏之	横山晧一	古閑博美	和田佳子	髙橋秀幸	森谷一経	吉田雅也	手嶋慎介
委員	安部恵美子 長尾博暢	伊藤文男 田崎悦子	岡本信弘 小林　純	牛山佳菜代 廣瀬幸弘	新谷康浩 古田克利	髙橋修一郎 安田麻季代	石田麻英子 福岡哲朗 松高　政	椿　明美 山口圭介

【注】
1）役員選出規程の改正により、役員の任期及び再任規程が導入される（2014年９月６日より施行）
2）コロナ対応のためオンライン選挙と郵送の併用
3）選挙管理委員会規程を見なおし、オンライン選挙を実施（一部郵送希望者も対応）

1-3-6. 組織運営ワーキンググループ、本部支部連絡会

※五十音順

	組織運営ワーキンググループ	
	2011-2012年度	2013-2014年度
委員長	舘　　昭	舘　　昭
委員長代行	横山皓一	横山皓一
委員	石田宏之 太田和男 加藤敏明 亀野　淳 沢田　隆 長尾博暢 中原淳二（2011年度） 古賀正博（2012年度） 渡邊和明	石田宏之 太田和男 加藤敏明 亀野　淳 沢田　隆 長尾博暢 古賀正博 渡邊和明

本部支部連絡会
2015-2016年度
岡本信弘
－
安孫子勇一 折戸晴雄 亀野　淳 酒井佳世 髙橋秀幸 根木良友 古田克利 眞鍋和博 吉本圭一

1-3-7. 記念事業ワーキンググループ

※五十音順

	10周年記念事業ワーキンググループ （2007.3.22~2011.3.31）	
	2007-2008年度	2009-2010年度
委員長		田中宣秀
委員	天谷　正 加藤敏明 亀野　淳 田中宣秀 横山晧一	天谷　正 加藤敏明 亀野　淳 田村紀雄 那須幸雄 横山晧一 吉本圭一

	25周年事業 ワーキンググループ 【会員動向調査WG】 （2022.8~2023.9）	25周年事業 ワーキンググループ 【25周年記念誌刊行WG】 （2022.8~2024.6）
	2022年度	2022-2023年度
委員長	亀野　淳	江藤智佐子
委員	髙橋秀幸 中島美佐穂	山口圭介 和田佳子

2

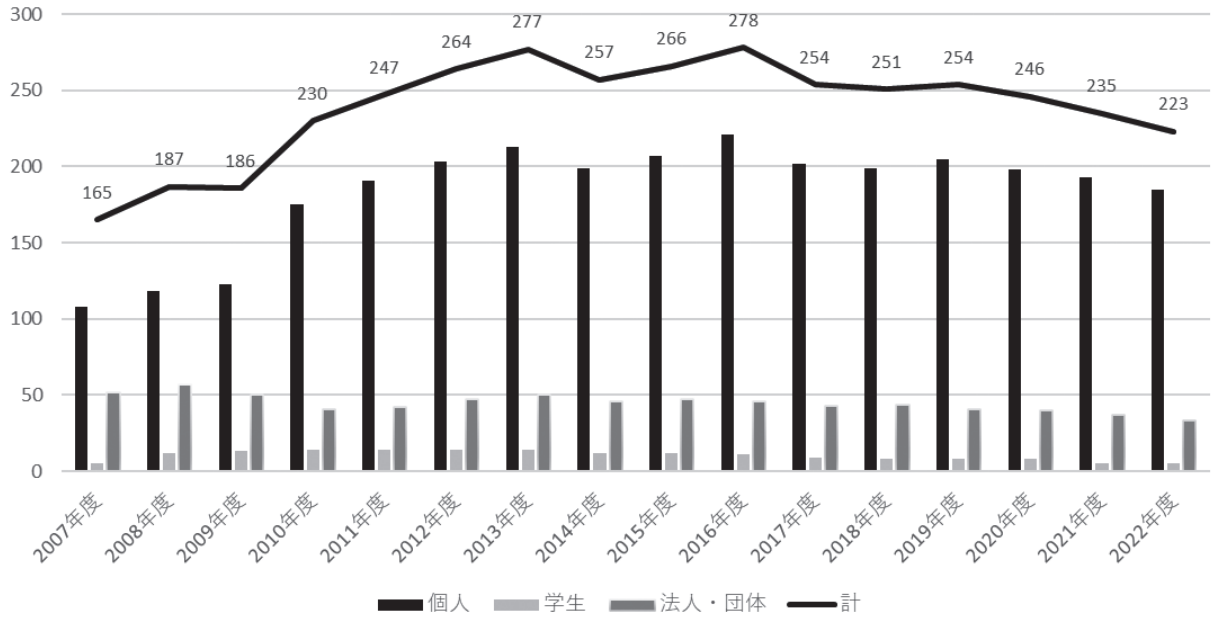
学会運営の記録

（2008–2022年度）

2. 学会運営の記録

2-1. 会員数の推移

	会員数				備考
	個人	学生	法人・団体	計	
2007年度（2008年3月31日時点）	108	5	52	165	
2008年度（2009年3月14日時点）	118	12	57	187	*事業年度：2008年4月1日～2009年3月31日
2009年度（2010年3月6日時点）	123	13	50	186	
2010年度（2011年6月30日時点）	175	14	41	230	*（経過措置）2010年事業年度および会計年度は、平成22(2010)年4月1日～平成23(2011)年6月30日に終わる。
2011年度（2012年6月30日時点）	191	14	42	247	*事業年度：2011年7月1日～2012年6月30日
2012年度（2013年6月30日時点）	203	14	47	264	
2013年度（2014年6月30日時点）	213	14	50	277	
2014年度（2015年6月30日時点）	199	12	46	257	
2015年度（2016年6月30日時点）	207	12	47	266	
2016年度（2017年6月30日時点）	221	11	46	278	
2017年度（2018年6月30日時点）	202	9	43	254	
2018年度（2019年6月30日時点）	199	8	44	251	
2019年度（2020年6月30日時点）	205	8	41	254	
2020年度（2021年6月30日時点）	198	8	40	246	
2021年度（2022年6月30日時点）	193	5	37	235	
2022年度（2023年6月30日時点）	185	5	33	223	



2-2. 理事会の記録

年度	開催日	回	会場	特筆すべき議題	備考
2007	2007年12月15日	第４回	関西学院大学梅田キャンパス	・九州支部設立準備状況報告 ・カシオ財団研究助成の採択について ・日本学術会議の研究協力団体として申請手続き	
	2008年3月22日	第５回	筑波大学東京キャンパス	・「休会」、長期滞納者の取扱について ・研究年報投稿論文規定について ・10周年記念事業ワーキンググループ設置 ・「投稿論文規程」「審査規程」を「編集規程」と「論文投稿規程」に再編成	
2008	2008年6月28日	第１回	九州大学	**・日本学術会議協力学術団体への登録** ・槙本淳子理事から寄付金の寄贈あり ・理事選出のための選挙を行うこととし、会則改正準備に入る	
	2008年8月31日	第２回	キャンパスイノベーションセンター	・役員選出規程WGの提案により会則改正案および理事選出規程を承認	2008年9月27日総会にて会則の一部改訂承認
	2008年12月13日	第３回	京都	・研究年報投稿規程の改正について ・10周年記念事業について	
	2009年3月14日	第４回	筑波大学	・10周年記念事業ワーキンググループから企画提案 ・個人情報保護法の観点から会員名簿の改善	
2009	2009年6月27日	第１回	九州大学西新プラザ	・会計年度の見直しを検討	
	2009年8月29日	第２回	筑波大学	・インターンシップ学会創立10周年記念フォーラム準備	
	2009年10月10日	第３回	嘉悦大学	**・事業年度・会計年度の改正に伴う会則改定（事業年度・会計年度が4～3月⇒7～6月に変更）**	2009年10月10日総会にて会則の一部改訂承認
	2009年12月6日	第４回	立命館大学	・研究年報投稿規定の改正 ・News Letter、ホームページの運用方法の確定 ・北海道支部設立、関東支部設立に向けて ・事務局を九州大学から北海道大学へ移転	
	2010年3月7日	第５回	北海道大学	・高良記念研究助成応募者の増加に伴う委員会の体制検討	
2010	2010年6月19日	第１回	中村学園大学	・研究年報研究論文投稿規定変更に関する提案が承認	**※2010年度（経過措置）学会年度2010年4月1日～2011年6月30日）**
	2010年8月28日	第２回	目白大学	・WACE（The World Association for Cooperative Education）に団体会員としての加盟	
	2010年10月2日	第３回	ハウステンボス		2010年10月2日総会にて会則の一部改訂承認
	2010年12月11日	第４回	関西学院大学		
	2011年3月	第５回	＜書面理事会＞	・東日本大震災の影響により、3/13に開催予定であった第5回理事会を急遽中止し、書面理事会及び常任理事会を開催 **・学会サーバーの移設**	
	2011年6月26日	第６回	札幌エルプラザ	・第16号から投稿規程改正の提案があり承認	
2011	2011年8月23日	第１回	久留米大学サテライトキャンパス	・会則改正案の提案があり、総会に諮ることを承認	
	2011年9月17日	第２回	鳥取大学		2011年9月17日総会にて会則の一部改訂承認
	2011年10月7日	第３回	北海道大学東京オフィス	**・槙本記念賞企画WGと組織運営WGを新設**	
	2012年3月16日	第４回	九州大学西新プラザ		
	2012年6月16日	第５回	北海道大学情報教育館		
2012	2012年6月26日	第１回			
	2012年9月8日	第２回	玉川大学	・短期大学コンソーシアム九州から「大学間連携共同教育推進事業」に係る連携機関として当学会に協定の依頼があり承認	
	2012年11月17日	第３回	九州大学		
	2013年3月24日	第４回	目白大学		
	2013年6月30日	第５回	北海道武蔵女子短期大学	**・学会の英語名称を JapanSociety of Internship から Japan Society of Internship andWork Integrated Learning に変更することについて提案** **・名誉会員制度を創設**	
2013	2013年8月24日	第１回	追手門学院大学大阪梅田サテライト	・事務局の変更に伴う付則の変更 ・組織運営WGの最終答申の報告	
	2013年9月7日	第２回	北海道武蔵女子短期大学	**・学会シンボルマークの変更**について提案	2013年9月7日総会にて会則の一部改訂承認
	2013年11月16日	第３回	九州大学箱崎キャンパス	・実践を研究に結び付けるためのセミナー実施（企画研究WGと年報編集委員会共催） ・2015年のWACE世界大会を念頭にした国際化対応	
	2014年3月15日	第４回	玉川大学	・「秀逸なインターンシップ」成果発表を念頭に該当事例を募る	
	2014年6月8日	第５回	北海道武蔵女子短期大学	・8月30日に京都産業大学で行われる「WACE世界大会in Kyoto プレ大会」についての説明	
2014	2014年8月9日	第１回	大阪府立男女共同参画・青少年センター		
	2014年9月5日	第２回	北九州市立大学		2014年9月6日総会にて会則の一部改訂承認

2. 学会運営の記録

年度	開催日	回	会場	特筆すべき議題	備考
2014	2014年11月28日	第3回	九州大学箱崎キャンパス		
	2015年5月31日	第4回	札幌国際大学		
2015	2015年8月18日	第1回	キャンパスプラザ京都		
	2015年9月11日	第2回	近畿大学	・「最も秀逸な事例」1例と「秀逸な事例」6例を選定	
	2015年12月5日	第3回	九州大学箱崎キャンパス	**・事務局業務の一部を（株）ガリレオに委託することを提案**	
	2016年3月27日	第4回	九州大学東京オフィス		
	2016年5月29日	第5回	北海道大学		
2016	2015年8月11日	第1回	キャンパスプラザ京都		
	2015年9月3日	第2回	目白大学大学	・槇本記念賞運用方法について「秀逸なインターンシップに焦点を当てる」ことの説明があり、承認	
	2015年12月10日	第3回	九州大学箱崎キャンパス	**・日本学術会議に教育学・心理学として学会登録** ・年報の第5号から第15号までをCiNiiで全文公開 ・J-stageへの掲載を検討	
	2016年3月4日	第4回	近畿大学東京センター		
	2016年6月10日	第5回	キャンパスプラザ京都	・**J-stageへの移行・公開**に関する手続きについて	
2017	2017年8月10日	第1回	札幌国際大学/札幌大学短期大学部）		
	2017年8月31日	第2回	札幌国際大学/札幌大学短期大学部）		
	2017年11月18日	第3回	玉川大学大学	・文部科学省からのインターンシップ表彰制度に係る連携依頼があり継続審議となる	
	2018年2月17日	第4回	キャンパスプラザ京都		
	2019年6月16日	第5回	北海道武蔵女子短期大学	・学会会則改訂の提案と承認	
2018	2018年8月4日	第1回	香蘭女子短期大学		
	2018年9月2日	第2回	香蘭女子短期大学		
	2018年12月8日	第3回	文化学園大学	・学会設立20周年の記念事業に関する委員会設立および20年史作成について	
	2019年3月13日	第4回	久留米大学福岡サテライト	・各種表彰などのワーキンググループ統合案および支部活動費補助規程に関する会則改訂	
	2019年6月16日	第5回	札幌国際大学	・隔年で定期的に実施されている槇本記念研究助成のワーキンググループを委員会とし、また高良記念と槇本記念を併せて学会表彰委員会に再編	
2019	2019年8月10日	第1回	近畿大学	・年間5回開催している理事会を3回に削減し、緊急案件が出た場合は常任理事会を開催するという提案がなされ承認	
	2019年8月31日	第2回	近畿大学		
	2019年11月23日	第3回	文化学園大学		
	2020年3月5日	第4回	※書面会議	・コロナウィルス感染防止のため書面審議となった。	
	2020年5月23日	第5回	※web会議	・事務局長の代行が了承された。	
	2020年6月14日	第6回	※web会議		
2020	2020年8月8日	第1回	※web会議		
	2020年10月3日	第2回	※web会議	・高良初代会長追悼記念特集の『NEWS LETTER 特別号』発行	
	2020年11月10日	第3回	※web会議		
	2021年2月6日	第4回	※書面会議		
	2021年5月3日	第5回	※web会議	・顧問・名誉会員である槇本会員より、槇本記念賞の基金として20万円の寄付について報告	
	2021年5月26日	第6回	※web会議	・今回の選挙に限り、理事選挙規程第5条の規定に対する例外措置を認めること（議案2）オンラインによる選挙を実施する場合には、これに関わる詳細（業者の選定や告知開票の方法、投票期間など）の決定を選挙管理委員会に一任することを承認	
2021	2021年8月11日	第1回	※web会議		
	2021年9月15日	第2回	※web会議		
	2021年10月16日	第3回	※web会議		
	2021年12月13日	第4回	※web会議		
	2022年3月17日	第5回	※web会議		
	2022年6月21日	第6回	※web会議	・News Letter、学会ウェブサイト更新、メルマガ発行などの見直しについては、次年度から実施	
2022	2022年8月4日	第1回	※web会議		
	2022年8月25日	第2回	※web会議	**・オンライン化による選挙管理に関する諸規程の改訂** ・25周年記念に関するWGの設置	2022年8月27日総会にて会則の一部改訂承認
	2022年11月20日	第3回	※web会議	・会員名簿の情報を「Web会員名簿（検索システム）」の使用。印刷物による名簿作成の見送り。	
	2023年2月21日	第4回	※web会議	**・オンライン会費徴収システムの導入**	
	2023年5月14日	第5回	※web会議		

2-3. 日本インターンシップ学会　会則

（2022.8.27.現在）

（名称）

第１条　本会は日本インターンシップ学会（The Japan Society of Internship and Work Integrated Learning）と称する。

学会のインターンシップの定義は「学生等が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と幅広くとらえ、学校と企業等との連携により行われる形態を基本とする。

（目的）

第２条　本会は、インターンシップに係わる諸問題の研究の推進・普及、社会に対する啓発・提言、これに携わる産学及びその他関係諸機関の情報連絡、ならびに会員相互の研究上の連絡・交流に寄与することを目的とする。

（事業）

第３条　本会は前条の目的を達するため、次の非営利事業を行う。

① 年次大会及び研究会の開催

② 学会誌その他インターンシップに関する諸問題のための資料作成並びに頒布

③ 内外の関連学会並びに団体等との連絡及び情報の交換

④ その他本会の目的を達成するために必要な事業

（事業年度）

第４条　本会の事業年度は毎年７月１日に始まり、翌年６月30日に終わる。

（会員）

第５条　本会の会員の種類は次の通りとする。

（１）個人会員

① インターンシップに関わる研究ならびに実践活動に携わる者、若しくは関心を持つ者

② 大学院生、研究生等、理事会の承認を受けた個人会員は、学生会員とする

③ その他、理事会において適格者として認められた者

（２）法人・団体会員

インターンシップの研究に賛助する学校、企業、若しくは団体。なお、法人会員･団体会員の扱いは別途理事会で定める。

（入会）

第６条　本会の会員になろうとする者は、本会で定める入会申込書に所定の事項を記載し、個人会員２名の推薦並びに入会を希望する年度の年額会費を添えて入会の申込をしなければならない。

２．前項の入会の申込みがあったときは、理事会においてその諾否を決定する。

３．入会が認められなかった場合は、申込時に納入された年額会費を返還する。

（会費）

第７条　会費の年額は次の通りとする。

（１）個人会員　　年間　　10,000円

但し、学生会員は年額　5,000円とする。

（２）法人・団体会員　年間　一口　20,000円

２．会員は毎年６月末までに当事業年度の年会費を納入しなければならない。

３．事業年度の途中入会は当該年度の年会費を納入しなければならない。

（退会）

第８条　退会を希望する会員は、書面を持って毎年６月末までに理事会に申し出るものとする。

２．３年以上の会費未納の場合は自然退会となる。但し、自然退会者は、２か年を限って未払会費及び会員資格喪失期間中の会費を納入することによって、会員として復活することができる。

（除名）

第９条　会員が本会の目的に反した行為をしたときは、理事会は総会の議を経てこれを除名することができる。

（役員）

第10条　本会に次の役員を置く。

理事　20名以内

うち　会長　１名、副会長　３名以内、常任理事　５名以内

監事　２名

事務局長　１名

（役員の選任）

第11条　理事は、会員による選挙及び会長による指名によって、原則として個人会員の中から選出し、これを総会で承認する。

２．選挙による理事は15名とし、選挙の手続等は別に定める。

３．会長、副会長、常任理事は選挙によって選出された理事の互選とし、その手続等は別に定める。

４．会長指名の理事は若干名とする。

５．監事は、総会において個人会員の中から選任する。

６．事務局長は、会長が指名する。

（役員の職務）

第12条　会長は本会を代表し、会務を統括する。

２．副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代理する。

３．理事は理事会に参加し、会務を審議決定する。

４．監事は、本会の業務及び財産の状況を監査する。

５．事務局長は、会長、副会長、常任理事、理事を補佐する。

（役員の任期）

第13条　役員の任期は２事業年度とする。但し、再任を妨げない。

２．役員の再任は２回を超えないものとし、連続在任期間は３期６事業年度を限度とする。

３．補欠の役員の任期は前任者の残任期間とする。

（顧問）

第14条　理事会の推薦により、総会の決議をもって本会に顧問を置くことができる。

２．顧問は理事会に出席して意見を述べることができる。

（名誉会長）

第15条　理事会の推薦により、総会の決議をもって本会に名誉会長を置くことができる。

２．名誉会長は特に本会に功労があった会長の中からこれを選ぶ。

３．前条第２項の規程は名誉会長にこれを準用する。

（名誉会員）

第15条の２　理事会の推薦により、総会の決議をもって本会に名誉会員を置くことができる。
名誉会員は特に本会に功労があった会員の中からこれを選ぶ。

（会議の種類）

第16条　会議は、総会、理事会及び常任理事会とする。

（総会）

第17条　総会は、通常総会及び臨時総会とし、通常総会は毎事業年度１回、臨時総会は必要あるとき理事会の決議を経て会長が招集する。

２．総会を開催するときは、少なくとも開催期日の２週間前までに、日時、場所及び会議の目的たる事項を記載した書面をもって会員に通知しなければならない。

３．総会の議長には、会長がこれに当たる。会長に事故あるときは、副会長がこれに当たる。

４．総会の決議は出席した会員の過半数の同意をもってし、可否同数のときは議長の決するところによる。なお、委任状による会員の議決権は、これを認める。

５．議事録は、議長による確認・承認を得なければならない。

（総会の議決事項）

第18条　次に掲げる事項は、総会の議決を経なければならない。

（１）会則の変更

（２）役員の選任

（３）年度事業計画及び収支予算

（４）年度事業報告及び収支決算

（５）その他理事会において必要と認められる重要事項

（理事会及び常任理事会）

第19条　理事会は、会長、副会長、常任理事及び理事、事務局長をもって構成し、常任理事会は、会長、副会長、常任理事、事務局長をもって構成し、必要に応じ会長がこれを招集する。

２．理事会及び常任理事会の議長には、会長が当たる。

３．理事会及び常任理事会の議決は、当該会議を構成する者であって当該会議に出席した者の過半数をもってこれを行う。但し、書面による議決権の行使を妨げない。

４．議事録は、理事会による確認・承認を得なければならない。

（理事会及び常任理事会の議決事項）

第20条　次に掲げる事項は、理事会の議決を経なければならない。

（１）総会に提出する議案

（２）諸規約・規程の制定又は改廃

（３）その他会務の執行に関する重要事項

（４）新入会員の承認

２．常任理事会は、会務の運営に当たり、且つ前項の規定による事項のうち緊急を要する事項について審議決定する。

３．常任理事会は理事会より委ねられた事項を決定したときは、理事会の決議があったものとする。

（委員会の設置等）

第21条　本会は、第３条に規定する事業の円滑なる運営を図るため、理事会の議決により、委員会を置くことができる。

２．委員会の委員長は、会員のうちから、理事会が選任する。

３．委員会の委員は、会員のうちから選任し、理事会が承認する。

４．委員会の任務、構成及び運営に関し必要な規程等は、理事会の決議により別に定める。

５．委員会は、理事会の権限である業務の執行の決定をすることはできない。

（支部の設置等）

第22条　本会は、第３条に規定する事業の円滑なる運営を図るため、理事会の議決により、支部を置くことができる。

２．支部の任務、役員及び運営に関し必要な規程等は、支部役員会の決議により別に定める。但し、理事会の承認を得なければならない。

３．支部は、理事会の権限である業務の執行の決定をすることはできない。

（会計）

第23条　本会の経費は会費、寄付金及び雑収入をもって支弁する。

２．寄付金は理事会の議決を経てこれを受理することができる。

３．会長は事業年度終了後２か月以内に、事業報告書、収支計算書を作成し、これを監事に提出しなければならない。

４．監事は、前項に掲げる書類を受理したときは遅滞なくこれを監査し、意見を付して会長に報告しなければならない。

（会計年度）

第24条　本会の会計年度は事業年度と同様とし、毎年７月１日に始まり、翌年６月30日に終わる。

（改正）

第25条　本会則は常任理事会、総会を経て改正する。

（付則）

１．この会則は、令和４年８月27日より実施する。

２．本会の事務局は、以下に置く。

（2021.9.19～）

〒194-8610　東京都町田市玉川学園6-1-1

玉川大学　大学研究室棟内山口研究室

日本インターンシップ学会事務局

（経過措置）

３．2010年事業年度及び会計年度は、平成22年４月１日に始まり、平成23年６月30日に終わる。

2006.9.30　会則の一部改訂
2007.9.29　会則の一部改訂
2008.9.27　会則の一部改訂
2009.10.10　会則の一部改訂
2010.10.2　会則の一部改訂
2011.9.17　会則の一部改訂
2013.9.7　会則の一部改訂
2014.9.6　会則の一部改訂
2017.12.26　会則の一部改訂
2018.9.3　会則の一部改訂
2022.8.27　会則の一部改訂

2-4. 会則改正の記録

	2006.9.30	2007.9.29改訂	2008.9.27改訂	2009.10.10改訂	2010.10.2改訂
（名称） 第1条	本会は日本インターンシップ学会（The Japan Society of Internship）と称する。 学会のインターンシップの定義は「学生等が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と幅広くとらえ、学校と企業等との連携により行われる形態を基本とする。				
（目的） 第2条	本会は、インターンシップに係わる諸問題の研究、社会に対する啓蒙、提言、これに携わる産学の情報連絡を第一義とし、併せて懇親を図ることを目的とする。	本会は、インターンシップに係わる諸問題の研究の推進・普及、社会に対する啓蒙、提言、これに携わる産学の情報連絡、ならびに会員相互の研究上の連絡・交流に寄与することを目的とする。			本会は、インターンシップに係る諸問題の研究の推進・普及、社会に対する啓発、提言、これに携わる産学の情報連絡、ならびに会員相互の研究上の連絡・交流に寄与することを目的とする。
（事業） 第3条	本会は前条の目的を達するため、次の非営利事業を行う。 ①毎年1回の大会及び毎年2回以上の部会の研究発表並びに討議 ②インターンシップ学会会報その他インターンシップに関する諸問題のための資料作成並びに頒布 ③内外の関連学会並びに団体等との連絡及び情報の交換 ④その他本会の目的を達成するために必要な事業	本会は前条の目的を達するため、次の非営利事業を行う。 ①年次大会及び研究会の開催 ②学会誌その他インターンシップに関する諸問題のための資料作成並びに頒布 ③内外の関連学会並びに団体等との連絡及び情報の交換 ④その他本会の目的を達成するために必要な事業			
（事業年度） 第4条	本会の事業年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。			本会の事業年度は毎年7月1日に始まり、翌年6月30日に終わる。	
（会員） 第5条	本会の会員の種類は次の通りとする。 （1）個人会員 ①大学・短期大学・高等専門学校・専修学校・高等学校、その他教育・研究機関において教授、助教授、講師、助手並びに教育者・研究者としてインターンシップに係わる諸問題の研究並びに教育活動に携わる者 ②企業、学校、各団体役職員でインターンシップの実践の任にあたる者、及び実践となった場合に関係する役職にある者（学校職員、人事担当者、経営者等） ③大学院生、研究生であってインターンシップに係わる諸問題の研究に携わる者 ④インターンシップについての研究歴、実践歴がある者 ⑤その他、理事会において適格者として認められた者 （2）法人・団体会員 ①インターンシップの研究に賛助する学校、企業、若しくは団体 ②賛同する学校、企業、若しくは団体に属する役職員2名迄を個人会員扱いとする。	本会の会員の種類は次の通りとする。 （1）個人会員 ①インターンシップに関わる研究ならびに実践活動に携わる者、若しくは関心を持つ者 ②大学院生、研究生等、理事会の承認を受けた個人会員は、学生会員とする ③その他、理事会において適格者として認められた者 （2）法人・団体会員 インターンシップの研究に賛助する学校、企業、若しくは団体。なお、法人・団体会員の扱いは別途理事会で定める。			

2011.9.17改訂	2013.9.7改訂	2014.9.6改訂	2017.12.26.改訂	2018.9.3.改訂	2022.8.27.改訂
	本会は日本インターンシップ学会（The Japan Society of Internship and Work Integrated Learning）と称する。 学会のインターンシップの定義は「学生等が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と幅広くとらえ、学校と企業等との連携により行われる形態を基本とする。				
				本会は、インターンシップに係わる諸問題の研究の推進・普及、社会に対する啓発・提言、これに携わる産学及びその他関係諸機関の情報連絡、ならびに会員相互の研究上の連絡・交流に寄与することを目的とする。	

	2006.9.30	2007.9.29改訂	2008.9.27改訂	2009.10.10改訂	2010.10.2改訂
（入会） 第6条	本会の会員になろうとする者は、本会で定める入会申込書に所定の事項を記載し、個人会員2名の推薦並びに年額会費を添えて入会の申込をしなければならない。但し、法人・団体会員は必ずしも会員推薦を必要としない。 2．前項の入会の申込みがあった時は、理事会においてその諾否を決定する。				
（会費） 第7条	会費の年額は次の通りとする。 （1）個人会員 年間10,000円 但し、大学院生、研修生は年額 5,000円とする。	会費の年額は次の通りとする。 （1）個人会員 年間10,000円 但し、学生会員は年額 5,000円とする。		2．会員は毎年5月末までに当該事業年度の年会費を納入しなければならない。	2．会員は毎年9月末までに当該事業年度の年会費を納入しなければならない。
（退会） 第8条	退会を希望する会員は、書面を持って毎年3月末までに理事会に申し出るものとする。				
（役員） 第10条	本会に次の役員を置く。 理事 30名以内 うち 会長1名 副会長3名 常任理事10名以内 監事2名 事務局長1名	本会に次の役員を置く。 理事 30名以内 うち 会長1名、 副会長 3名、 常任理事 10名以内 監事2名 事務局長1名			
（役員の選任） 第11条	4．理事のうち、若干名は大会開催予定校より会長が指名する。	理事は、総会において、原則として個人会員の中から選出する。 2．会長、副会長、常任理事は原則として理事の互選とする。 3．監事は、総会において個人会員の中から選任する。 4．理事のうち若干名を大会開催予定校より会長が指名することができる。 5．事務局長は会長が指名する。	理事は、会員による選挙及び会長による指名によって、原則として個人会員の中から選出し、これを総会で承認する。 2．選挙による理事は20名とし、選挙の手続は別に定める。 3．会長、副会長、常任理事は原則として選挙による理事の互選とする。 4．会長指名の理事は若干名とする。 5．幹事は、総会において個人会員の中から選任する。 6．事務局長は、会長が指名する。		
（役員の職務） 第12条	5．事務局長は、会長、副会長、常務理事、理事を補佐する。	5．事務局長は、会長、副会長、常任理事、理事を補佐する。			
（役員の任期） 第13条	役員の任期は2事業年度とする。但し、再任を妨げない。 2．補欠の役員の任期は前任者の残任期間とする。				
（名誉会長） 第15条	理事会の推薦により、総会の決議をもって本会に名誉会長を置くことができる。 名誉会長は特に本会に功労があった会長の中からこれを選ぶ。 2．前条第2項の規定は名誉会長にこれを準用する。				
（名誉会員） 第15条の2					
（総会） 第17条	5．総会の議事録は議長が作成し、議長及び出席副会長2名が署名捺印しなければならない。				

2011.9.17改訂	2013.9.7改訂	2014.9.6改訂	2017.12.26.改訂	2018.9.3.改訂	2022.8.27.改訂
				本会の会員になろうとする者は、本会で定める入会申込書に所定の事項を記載し、個人会員2名の推薦並びに入会を希望する年度の年額会費を添えて入会の申込をしなければならない。~~但し、法人・団体会員は必ずしも会員推薦を必要としない。~~ 2．前項の入会の申込みがあったときは、理事会においてその諾否を決定する。 3．入会が認められなかった場合は、申込時に納入された年額会費を返還する。	
				2. 会員は毎年6月末までに当該事業年度の年会費を納入しなければならない。	
退会を希望する会員は、書面を持って毎年6月末までに理事会に申し出るものとする。					
		本会に次の役員を置く。 理事 20名以内 うち 会長1名、 副会長3名以内、 常任理事5名以内 監事2名 事務局長1名			
3．会長、副会長、常任理事は原則として選挙によって選出された理事の互選とする。		2．選挙による理事は15名とし、選挙の手続は別に定める。 3．会長、副会長、常任理事は選挙によって選出された理事の互選とし、その手続は別に定める。		2．選挙による理事は15名とし、選挙の手続等は別に定める。 3．会長、副会長、常任理事は選挙によって選出された理事の互選とし、その手続等は別に定める。	
		役員の任期は2事業年度とする。但し、再任を妨げない。 2．役員の再任は2回を超えないものとし、連続在任期間は3期6事業年度を限度とする。 3．補欠の役員の任期は前任者の残任期間とする。			
				理事会の推薦により、総会の決議をもって本会に名誉会長を置くことができる。 2．名誉会長は特に本会に功労があった会長の中からこれを選ぶ。 3．前条第2項の規程は名誉会長にこれを準用する。	
	理事会の推薦により、総会の決議をもって本会に名誉会員を置くことができる。 名誉会員は特に本会に功労があった会員の中からこれを選ぶ。				
				5．総会の議事録は議長が作成し、理事会で承認された後に議長及び~~出席~~副会長~~2名~~が署名~~捺印~~しなければならない。	5．~~総会の~~議事録は、議長による確認・承認を得なければならない。

	2006.9.30	2007.9.29改訂	2008.9.27改訂	2009.10.10改訂	2010.10.2改訂
（理事会及び常任理事会） 第19条	4．理事会及び常任理事会の議事録は議長が作成し、議長及び出席副会長2名が署名捺印しなければならない。				
（理事会及び常任理事会の議決事項） 第20条	次に掲げる事項は、理事会の議決を経なければならない。 (1) 総会に提出する議案 (2) 諸規約の制定又は改廃 (3) その他会務の執行に関する重要事項 (4) 新入会員の承認 2．常任理事会は、会務の運営に当たり、且つ前項の規定による事項のうち緊急を要する事項について審議決定する。				
（委員会の設置等） 第21条	（部会及び委員会） 本会は、第3条に規定する事業の円滑なる運営を図るため、必要な支部及び委員会を置くことができる。 2．部会及び委員会の種類、構成及び運営等必要な事項は常任理事会で行う。	2．部会及び委員会の種類、構成及び運営等必要な事項は別途理事会で定める。			（支部及び委員会） 本会は、第3条に規定する事業の円滑なる運営を図るため、必要な支部及び委員会を置くことができる。 3．支部及び委員会の種類、構成及び運営等必要な事項は別途理事会で定める。
（支部の設置等） 第22条					
（会計） 第23条	（会計）第22条 3．会長は事業年度終了後2か月以内に、事業報告書、収支計算書、貸借対照表、財産目録を作成し、これを監事に提出しなければならない。	（会計）第22条 3．会長は事業年度終了後2か月以内に、事業報告書、収支計算書~~、貸借対照表、財産目録~~を作成し、これを監事に提出しなければならない。			
（会計年度） 第24条	（会計年度）第23条 本会の会計年度は事業年度と同様とし、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。			（会計年度）第23条 本会の会計年度は事業年度と同様とし、毎年7月1日に始まり、翌年6月30日に終わる。	
（改正） 第25条	第24条 本会則は常任理事会、総会を経て改正する。				（改正）第24条 本会則は常任理事会、総会を経て改正する。
（付則） 経過措置				2010度事業年度、会計年度は、平成2010年4月1日に始まり、平成2011年6月30日に終わる	2010度事業年度、会計年度は、平成22年4月1日に始まり、平成23年6月30日に終わる
（付則） 経過措置				2．本会の事務局は、以下に置く。 (2009.10.10～) 〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部キャリア教育支援室内	

2011.9.17改訂	2013.9.7改訂	2014.9.6改訂	2017.12.26.改訂	2018.9.3.改訂	2022.8.27.改訂
					4．~~理事会及び常任理事会の~~議事録は、理事会による確認・承認を得なければならない。
				次に掲げる事項は、理事会の議決を経なければならない。 (1) 総会に提出する議案 (2) 諸規約・規程の制定又は改廃 (3) その他会務の執行に関する重要事項 (4) 新入会員の承認 2．常任理事会は、会務の運営に当たり、且つ前項の規程による事項のうち緊急を要する事項について審議決定する。	
				(~~支部及び~~委員会の設置等) 本会は、第3条に規定する事業の円滑なる運営を図るため、理事会の議決により、~~必要な支部及び~~委員会を置くことができる。 2．委員会の委員長は、会員のうちから、理事会が選任する。 3．委員会の委員は、会員のうちから選任し、理事会が承認する。 4．委員会の任務、構成及び運営に関し必要な規程等は、理事会の決議により別に定める。 5．委員会は、理事会の権限である業務の執行の決定をすることはできない。	
				本会は、第3条に規定する事業の円滑なる運営を図るため、理事会の議決により、支部を置くことができる。 2．支部の任務、役員及び運営に関し必要な規程等は、支部役員会の決議により別に定める。但し、理事会の承認を得なければならない。 3．支部は、理事会の権限である業務の執行の決定をすることはできない。	
				(会計) 第23条	
				(会計年度) 第24条	
				(改正) 第25条	
	2．本会の事務局は、以下に置く。 (2013.9.7～) 〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101 鳥取大学大学教育支援機構キャリアセンター内		2．本会の事務局は、以下に置く。 (2017.12.26～) 〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 玉川大学キャリアセンター内		

2-5. 役員選挙の記録

➢ 役員選挙の開始

2008.3　役員選出規程WGの発足（～2008.9まで）
2008.8.31　理事会にて「理事選挙規程」を審議
2008.9.27　総会にて会則第11条の改訂ならびに「理事選挙規程」を承認

改正前	改正後
（役員の選任） 第11条　理事は、総会において、原則として個人会員の中から選出する。 ２．会長、副会長、常任理事は原則として理事の互選とする。 ３．監事は、総会において個人会員の中から専任する。 ４．理事のうち若干名を大会開催予定校より会長が指名することができる。 ５．事務局長は会長が指名する。	（役員の選任） 第11条　理事は、会員による選挙及び会長による指名によって、原則として個人会員の中から選出し、これを総会で承認する。 ２．選挙による理事は20名とし、選挙の手続きは別に定める。 ３．会長、副会長、常任理事は原則として選挙による理事の互選とする。 ４．会長指名の理事は若干名とする。 ５．監事は、総会において個人会員の中から選任する。 ６．事務局長は、会長が指名する。

理事選挙規程

１．選挙で選出される理事は20名とする。
２．理事選挙における選挙権は、選挙をおこなう学会年度の前年度末日までに、前学会年度分の会費を納入している個人会員および法人・団体会員にあるものとする。被選挙権は、選挙権を有する個人会員にあるものとする。
３．選挙は理事選挙管理委員会がこれを統括する。委員会は理事以外の会員を含む３名の会員を委員として組織する。
４．投票は無記名で行い、被選挙人の５名連記とする。投票は郵送で行う。
５．当選の決定は、得票数の順位とする。同点者が生じた場合は抽選による。

本理事選挙規程は、会則第11条に基づき平成20年10月から施行する。

2009.3　選挙管理委員会の発足
2009.4　第１回理事選挙の実施（選挙期間：2009.4～5）
2009.7　第１回会長選挙の実施（選挙により選ばれた理事による互選）

2009.10.10　総会にて理事選挙結果の承認
2009.10　理事選挙による役員体制の開始

➢ 理事選挙規程等の検討

2010.12.11　理事会において、「理事選挙規程」の見直し
「会長選挙規程」、「選挙管理委員会規程」の制定

日本インターンシップ学会　会長選挙規程

（会長の選出）

1．会長選挙における選挙権及び被選挙権は、当該選挙の直前に行われた理事選挙により選出された20名（以下「新理事候補」という）にあるものとする。
2．選挙は選挙管理委員会がこれを統括する。
3．投票は無記名で行い、被選挙人の中から１名を記入する。投票は郵送で行う。
4．最も得票数の多い者を当選者とする。同点者が生じた場合は抽選による。

本会長選挙規程は、会則第11条に基づき平成22年12月11日から施行する。

日本インターンシップ学会　選挙管理委員会規程

1．選挙管理委員会（以下、「委員会」という）は、理事以外の会員を含む３名の会員を委員として組織する。
2．委員会に、委員長１名を置く。
3．委員長及び委員は理事会において決定する。
4．委員会は、理事選挙規程及び会長選挙規程に基づき、これらの選挙を統括する。

本選挙管理委員会規程は、会則第11条に基づき平成22年12月11日から施行する。

➢ 役員の体制・選出の検討

2014.9.6　総会にて会則第10条（役員人数の変更）、第11条（選挙による理事人数の変更）、第13条（役員再任規程の導入）の改訂、「会長、副会長、常任理事選出規程」、「選挙管理委員会規程」の改訂を承認

【会則】

	改正前	改正後
（役員）	（役員） 第10条　本会に次の役員を置く。 理事30名以内 うち 会長１名、副会長３名、常任理事10名以内 監事　　２名 事務局長　１名	（役員） 第10条　本会に次の役員を置く。 理事20名以内 うち 会長１名、副会長３名以内、常任理事５名以内 監事　　２名 事務局長　１名
（役員の選任）	（役員の選任） 第11条　理事は、会員による選挙及び会長による指名によって、原則として個人会員の中から選出し、これを総会で承認する。 ２．選挙による理事は20名とし、選挙の手続は別に定める。 ３．会長、副会長、常任理事は原則として選挙によって選出された理事の互選とする。 ４．会長指名の理事は若干名とする。 ５．監事は、総会において個人会員の中から選任する。 ６．事務局長は、会長が指名する。	（役員の選任） 第11条　理事は、会員による選挙及び会長による指名によって、原則として個人会員の中から選出し、これを総会で承認する。 ２．選挙による理事は15名とし、選挙の手続は別に定める。 ３．会長、副会長、常任理事は選挙によって選出された理事の互選とし、その手続は別に定める。 ４．会長指名の理事は若干名とする。 ５．監事は、総会において個人会員の中から選任する。 ６．事務局長は、会長が指名する。

	改正前	改正後
（役員の任期）	（役員の任期） 第13条　役員の任期は２事業年度とする。但し、再任を妨げない。 ２．補欠の役員の任期は前任者の残任期間とする。	（役員の任期） 第13条　役員の任期は２事業年度とする。但し、再任を妨げない。 ２．役員の再任は２回を超えないものとし、連続在任期間は３期６事業年度を限度とする。 ３．補欠の役員の任期は前任者の残任期間とする。

【会長、副会長、常任理事選出規程】（※旧：会長選挙規程）

	改正前	改正後
（会長の選出）	日本インターンシップ学会　会長選挙規程 １．会長選挙における選挙権及び被選挙権は、当該選挙の直前に行われた理事選挙により選出された20名（以下「新理事候補」という）にあるものとする。 ２．選挙は選挙管理委員会がこれを統括する。 ３．投票は無記名で行い、被選挙人の中から１名を記入する。投票は郵送で行う。 ４．最も得票数の多い者を当選者とする。同点者が生じた場合は抽選による。 本会長選挙規程は、会則第11条に基づき平成22年12月11日から施行する。	（会長の選出） １．会長の選出は、選挙により行う。 ２．会長選挙における選挙権及び被選挙権は、当該選挙の直前に行われた理事選挙により選出された15名（以下「新理事候補」という）にあるものとする。 ３．選挙は選挙管理委員会がこれを統括する。 ４．投票は無記名で行い、被選挙人の中から１名を記入する。投票は郵送で行う。 ５．最も得票数の多い者を当選者として新会長候補とする。同点者が生じた場合は抽選による。 （削除）
（副会長、常任理事の選出）		（副会長、常任理事の選出） ６．副会長、常任理事の選出は、新会長候補を議長とし、原則として新会長候補の推薦に基づき新理事候補の合議によるものとする。 本規程は、会則第11条に基づき2014年９月６日から施行する。

【選挙管理委員会規程】

	改正前	改正後
	１．選挙管理委員会（以下、「委員会」という）は、理事以外の会員を含む３名の会員を委員として組織する。 ２．委員会に、委員長１名を置く。 ３．委員長及び委員は理事会において決定する。 ４．委員会は、理事選挙規程及び会長選挙規程に基づき、これらの選挙を統括する。 本選挙管理委員会規程は、会則第11条に基づき平成22年12月11日から施行する。	１．（同） ２．（同） ３．（同） ４．委員会は、理事選挙規程及び会長、副会長、常任理事選出規程に基づき、理事選挙ならびに会長選挙を統括する。 本規程は、会則第11条に基づき2014年９月６日から施行する。

【会則（役員の任期・再任回数）の改定にかかる経過規程】

（新設）
（会則改定前の連続在任期間に応じた再任可能回数の扱い） 2013－2014年度の任期満了時点での連続在任期間に応じて、次回選挙以降に再任可能な期間を次のとおりとする。 ①在任期間が連続３期６事業年度までの役員…再任は２回まで（次回選挙から数えて連続３回６事業年度を限度） ②在任期間が連続４期８事業年度の役員……再任は１回まで（次回選挙から数えて連続２回４事業年度を限度） ③在任期間が連続５期10事業年度以上の役員…再任なし（次回選挙から数えて１回２事業年度のみ） 本規程は、会則第13条に基づき2014年９月６日から施行する。

➢ 選挙管理委員会の組織ならびに投票方法の検討

2022.8.25　「理事選挙規程」（選挙管理委員会の構成員変更）の改訂
（改正前）理事以外の会員を含む３名
（改正後）理事、事務局長、理事以外の会員を含む３名以上

2022.8.25　「選挙管理委員会規程」の改訂
「会長、副会長、常任理事選出規程」（投票方法）の改訂
（改正前）投票方法を郵送で行う
（改正後）郵送または電子媒体等を用いて行う

日本インターンシップ学会　理事選挙規程

１．選挙で選出される理事は15名とする。
２．理事選挙における選挙権は、選挙をおこなう学会年度の３月末日までに、当該学会年度分の会費を納入している個人会員および法人・団体会員にあるものとする。被選挙権は、選挙権を有する個人会員にあるものとする。
３．被選挙権は、選挙権を有する個人会員にあるものとする。ただし、会則第13条の２．が該当する個人会員については、その選挙に限り被選挙権を停止する。
４．選挙は選挙管理委員会がこれを統括する。
５．投票は無記名で行い、被選挙人の５名連記とする。投票は**郵送または電子媒体等を用いて**行う。
６．当選の決定は、得票数の順位とする。同点者が生じた場合は抽選による。

（2022.8.25改訂）

日本インターンシップ学会　選挙管理委員会規程

１．選挙管理委員会（以下、「委員会」という）は、**理事、事務局長、理事以外の会員を含む３名以上**の会員を委員として組織する。
２．委員会に、委員長１名を置く。
３．委員長及び委員は理事会において決定する。
４．委員会は、理事選挙規程及び会長、副会長、常任理事選出規程に基づき、理事選挙ならびに会長選挙を統括する。

（2022.8.25改訂）

日本インターンシップ学会　会長、副会長、常任理事選出規程

（会長の選出）

1．会長の選出は、選挙により行う。

2．会長選挙における選挙権及び被選挙権は、当該選挙の直前に行われた理事選挙により選出された15名（以下「新理事候補」という）にあるものとする。

3．選挙は選挙管理委員会がこれを統括する。

4．投票は無記名で行い、被選挙人の中から１名を記入する。投票は**郵送または電子媒体等を用いて**行う。

5．最も得票数の多い者を当選者として新会長候補とする。同点者が生じた場合は抽選による。

（副会長、常任理事の選出）

6．副会長、常任理事の選出は、新会長候補を議長とし、原則として新会長候補の推薦に基づき新理事候補の合議によるものとする。

（2022.8.25改訂）

3

学会表彰の記録

（2008–2022年度）

3. 学会表彰の記録

3-1. 高良記念研究助成

インターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進を図るため、平成19（2007）年度から「高良記念研究助成」制度を設け、優れた研究課題への研究助成を行うことになりました。この制度は、高良和武名誉会長から学会へ寄付いただいた基金をもとに、また先生の学会設立からの多大な貢献を祈念し、本学会の研究助成事業として開始するものです。（2007年度No.1 News Letterより転載）

3-1-1. 高良記念研究助成　受賞者一覧

（*所属は受賞当時のもの）

		受賞者氏名・所属	委員長
第１回	平成19(2007)年度	江口　彰（北海道大学大学院生）	那須幸雄
		長尾博暢（追手門学院大学）	
第２回	平成20(2008)年度	眞鍋和博（北九州市立大学）	那須幸雄
		渡邊和明（九州大学大学院生）	
第３回	平成21(2009)年度	河野志穂（早稲田大学大学院生）	太田和男
第４回	平成22(2010)年度	田崎悦子（北海道大学大学院生）	太田和男
		酒井佳世（久留米大学 就職・キャリア支援課）	
第５回	平成23(2011)年度	高橋秀幸（北海道大学大学院生）	椿　明美
		手嶋慎介（愛知東邦大学・助教）	
第６回	平成24(2012)年度	鈴木　恵（横浜創英大学看護学部・助教）	冨田宏治
		張　　琳（九州大学大学院生）	
第７回	平成25(2013)年度	川端由美子（新潟大学 教育・学生支援機構キャリアセンター）	眞鍋和博
		松尾哲也（愛知淑徳大学 キャリアセンター・助教）	
第８回	平成26(2014)年度	五十畑浩平（香川大学研究戦略室・特命助教）	牛山佳菜代
		傅　振九（北海道大学大学院生）	
第９回	平成27(2015)年度	＜該当者なし＞	岸本喜久雄
第10回	平成28(2016)年度	川上あき（北海道大学 キャリアセンター・インターンシップ マネージャー）	岡本信弘
		坂巻文彩（九州大学大学院生）	
第11回	平成29(2017)年度	樫村真由（独立行政法人国立高等専門学校機構東京工業高等専門学校・准教授）	山口圭介
		岩井貴美（近畿大学大学院生）	
第12回	平成30(2018)年度	王　　佳（九州大学大学院人間環境学府・学術協力研究員）	牛山佳菜代
第13回	令和元(2019)年度	永川幸子（四天王寺大学・講師）	牛山佳菜代
第14回	令和2(2020)年度	柴田仁夫（岐阜大学）	古閑博美
第15回	令和3(2021)年度	宮田弘一（尾道市立大学→静岡産業大学）	古閑博美
第16回	令和4(2022)年度	桑畑夏生（宮崎大学・講師）	小林　純

3-1-2.「2023年度 高良記念研究助成」募集要項

（2023年９月時点、学会webサイトより）

１．応募資格と助成対象

応募資格者（研究代表者）は、本学会の個人会員（学生会員を含む）および法人・団体会員とし、単独および共同研究を申請できます。共同研究の場合、研究代表者以外研究分担者に本学会会員以外の者の参加を認めます。

助成対象の研究課題は、学術的研究のほか企業等のインターンシップの動向や取り組みなど実践的研究、シンポジウムおよび公開講座等の研究成果や普及活動を含みます。

特に、40歳未満の研究者、大学院生（年齢不問）、複数会員による共同研究の応募を歓迎いたします。他学会や研究機関に研究助成申請を行った研究課題も助成対象に含めます。

奮ってご応募ください。

２．助成条件

（１）１件あたり10万円を上限とし、合計２件までの研究助成を行います。

（２）2023年度の助成期間は2023年10月１日～ 2024年９月30日です。

（３）助成金の使途は、研究実施に必要な図書・備品などの物品費、旅費・交通費、謝金、その他経費（消耗品費、通信費など）とします。物品費、謝金はそれぞれ合計金額の２分の１を限度とします。

（４）助成研究者は、研究終了後１ヶ月以内に研究報告書を提出し、研究成果を2024年度の全国大会で発表すること、研究年報で報告することを義務とします。

３．応募書類の提出

「2023年度 高良記念研究助成申請書」（別添１、２）に必要事項を記載し、本委員会まで電子メール（E-mail）にファイルを添付し、応募してください。

応募締切：2023年６月30日（金）　23：59

件　　名：2023年度高良記念研究助成申請　氏名（所属）

４．審査と採否の決定

応募書類の審査は本委員会が行い、直近の理事会で報告し、その場で採否を決定します。助成対象者には、理事会終了後、本委員会から速やかに電子メール（E-mail）で通知します。

５．助成対象者と研究課題の公表

研究助成の対象者名と研究課題名は、９月開催予定の学会大会時に発表・表彰するほか、ホームページやニュースレター等を通じて公表します。

６．その他ご了解をいただく事項

一度提出した応募関係書類の差し替えおよび応募取り消しはお受けできません。応募関係書類は、いかなる場合も返却いたしません。ご了承ください。

７．応募書類送付先

日本インターンシップ学会 学会表彰委員会

E-mail：jsi.kourakinen+2023@gmail.com

日本インターンシップ学会　学会表彰委員会

委員長　小林　純

別添　1

2023年度　高良記念研究助成申請書

2023年　　月　　日

日本インターンシップ学会
会　　長　　吉本 圭一　様
学会表彰委員会委員長　　小 林　純　様

日本インターンシップ学会「2023年度 高良記念研究助成」による研究を以下の通り計画し、研究助成を申込みます。

会員氏名（ふりがな）	
所属機関・職名	
連絡先住所（自宅・勤務先）※どちらかを○で囲む	（郵便番号　〒　　）
生年月日	西暦　　年　　月　　日生まれ
電　話	
FAX	
Email	

研究課題名					
研　究　経　費	合　計（100千円を限度）	費目別内訳			
		物品費（図書・備品）	旅費・交通費	謝金	その他（消耗品・通信費等を含む）
＊物品費、謝金はそれぞれ合計の2分の1以下とする。	千円	千円	千円	千円	千円

共同研究の場合	共同研究者氏名（代表者を含む）	所属機関・職名	役割分担等

1．研究の目的
2．研究助成期間中の研究実施スケジュールおよび研究計画の詳細 （助成期間は2023年10月1日から2024年9月30日まで）

時期・期間	研　究　計　画

3．これまでの研究の準備状況（関連した研究業績などを含む）
4．本研究課題と関連する研究資金の助成をすでに受けている場合には研究課題名、助成団体、助成期間、金額等を記入してください。

応募書類送付・問い合わせ先
日本インターンシップ学会　学会表彰委員会
E-mail ：jsi.kourakinen+2023@gmail.com

別添　2

2023 年　　月　　日

高良記念研究助成申請者における関係業績

申請者氏名	
所 属 機 関	

申請の内容に関連する研究業績がある方は、下記に記載してください（ない方は以下空欄のままで提出してください）。審査において、過去の業績により必ずしも有利になるとは限りませんが、参考にさせていただきます。

1．　**研究申請に関係する業績**（新しいものから順に記載。残りは空欄のままとする。）
業績：著書、論文、研究ノート、レポートなどを含む。過去 5 年間に刊行されたもの。

業績番号	著書・論文の区分（○印）	単著・共著	題　　名	出版社・掲載の雑誌名・発行機関	刊行年月 年/月
1	著 ・ 論 他（　　）	単・共			
2	著 ・ 論 他（　　）	単・共			
3	著 ・ 論 他（　　）	単・共			
4	著 ・ 論 他（　　）	単・共			
5	著 ・ 論 他（　　）	単・共			

2．**上記のうち、代表的な業績についての内容の要旨**
1. で記載したもののうちどれでも構いませんので、1～3 つを選んで、その内容を記入してください。

要　　旨	今回の申請に関係する点
業績番号（　　）	
業績番号（　　）	
業績番号（　　）	

3-2. 槇本記念賞「秀逸なるインターンシップ」

［趣旨］

産学連携教育の柱としてのインターンシップにおいて、優れた取組みがどのように行われ、人材が育成されるのか、情報収集を行い、総合的に評価し、学会員に還元する。（2013年度No.1 News Letterより転載）

［槇本記念賞　第１回表彰］

元大阪経済大学教授の槇本淳子先生が理想とされた秀逸なインターンシップ事例を探し出そうという構想から、初代の加藤委員長、第２代田中委員長のもとで具体的な検討が進められ、槇本記念賞として選定する制度が実現しました。（2015年度No.1 News Letterより転載）

3-2-1. 槇本記念賞　受賞校・団体一覧

		受賞校・団体
第１回	平成27(2015)年度	**<最も秀逸な事例>** 京都産業大学「キャリア形成支援プログラムにおけるインターンシップ」
		<秀逸な事例> 亜細亜大学「アジア夢カレッジ－キャリア開発中国プログラム」 嘉悦大学 ビジネス創造学部「実践の場で学ぶインターンシップ教育」 東京大学大学院工学系研究科 化学システム工学専攻「革新的インターンシップモデルの構築と実践（プラクティカルスクール）」 小樽商科大学 商学部「商大性が小樽の活性化について本気で考えるマジプロ」 立命館大学「文理連携型コーオプ教育（総合大学モデル）」 北九州市立大学「地域創生実習」
第２回	平成29(2017)年度	**<最も秀逸な事例>** 近畿大学「低学年インターンシップ教育の取り組み評価－近畿大学を事例として－」
		<秀逸な事例> 九州インターンシップ推進協議会「産学官連携による地域の人材育成」 和歌山大学「インターンシップ実践例と質を向上するための仕組みづくり－学生向け・企業向けのワークシートの開発－」 西九州大学「体験型学修を通じてＤＰを具現化する取組－西九州大学におけるインターンシップの位置づけという観点から－」 ものつくり大学「インターンシップ事例報告－長期40日インターンシップと学生の将来についての一考察－」
第３回	令和元(2019)年度	**<最も秀逸な事例>** NPO法人ETIC.（エティック）「地域との連携強化とインターンシップの今後のあり方」
		<秀逸な事例> 立命館大学「大学の世界展開力強化事業　産学国際協働PBLの長期インターンシップ」 北九州市立大学「北九大オリジナルの課題解決型海外インターンシップ」 北海道教育委員会「小中高校一貫ふるさとキャリア教育推進事業」 長崎短期大学「大学教育再生加速プログラム『長期学外学習プログラム』」
第４回	令和3(2021)年度	**<最も秀逸な事例>** 工学院大学「低学年インターンシップの導入等、多様なインターンシップの展開」
		<秀逸な事例> 山形大学「インストラクショナルデザインによるオンライン・インターンシップの設計と運営―産学連携による取組み―」 京都産業大学「理工系専門教育に特化した中長期インターンシッププログラム－『理工系コーオプ教育プログラム』の実践－」 MiraiShip「MiraiShipによるオンラインインターンシップ」 名古屋産業大学「地域企業の魅力発見インターンシップ－地域企業を複数社体験するNPO法人G-netによるシゴトリップの事例より－」

3-2-2. 槇本記念賞「秀逸なるインターンシップ」 選考方法

（2023年９月時点、学会webサイトより）

本学会では、大阪経済大学元教授・初代関西支部長を務められた槇本淳子氏からのご寄付をもとに槇本記念賞を創設し、インターンシップの発展と高度化を願い「秀逸なインターンシップ」事例の収集に取り組んでおります。

2021年度以降も「秀逸な事例とは何か」についてさらなる検討を重ね、事例の選定を行います。

日本インターンシップ学会
学会表彰委員会

【選考の流れ】
＜表彰時期＞
学会大会にて表彰（２年毎１回）する。

＜選考スケジュール＞
→当該年度の５月に募集開始告知
→各支部にて４件を上限とし、学会表彰委員会に推薦
→学会表彰委員会による審査
→当該年度８月開催の理事会に審査結果を申告し、理事会の場で選定
→９月学会大会会場または電磁的方法を用いて表彰

＜選考対象＞
・大学・短大、高専、専門・専修学校、中学校・高等学校等の事例
・2021年６月から2023年５月末迄の２年間に各支部研究会ないし学会大会で発表された事例
・日本インターンシップ学会会員であり、学会大会、支部研究会で発表または講演等により披露した事例
・各支部は４件を上限として選択し、学会表彰委員会に推薦する

＜選定＞
・最も秀逸な事例：１例
・秀逸な事例：４例
　※所属支部は考慮しない

＜評価項目＞
１．制度・組織：教育としての位置づけやリスクマネジメント等の面からも、学校が制度として組織的に取り組んでいる。
２．運用：教員独自による運用ではなく、教職員、受け入れ先等を含めて、どのように組織的かつ熱心に取り組んでいる。
３．内容：事前事後指導や関連領域の学修等、内容が充実しており、そのことが、シラバスやプログラム説明の資料等から読み取れる。
４．期間：概ね１週間以上現場での活動が含まれている。
５．受入先との連携：協働先として適切な受入先が確保されており、継続性がある。
６．醸成される力：専門能力または汎用能力など学生のどのような能力等が醸成されたのかが、具体的な事象やデータ、証言などから認められる。
７．受入先からの評価：学生の行動力や能力等について受入先から高い評価を受けているもしくは具体的な事象やデータ、証言などが認められる。
８．参加した学生から高い評価を受けているもしくは具体的な事象やデータ、証言などが認められる。

＜評価方法＞
・評価項目８項目のうち、2.運用、4.期間を除く６項目を各５点満点として、全体として30点満点で評価
・最も合計点が高いものを「最も秀逸」、２位～５位までを「秀逸」として選定
・同点の場合は審査員の合議で決定
・審査員は学会表彰委員会メンバーとする

＜広報、その他＞
・同賞の概要について学会Webサイトに掲載する
・募集開始時に募集について学会Webサイトに掲載する。その際にエントリーフォームを公開する
・受賞した取組みについては、学会Webサイトに掲載する

4

学会大会の記録

（2008–2022年度）

回	開催日	開催校	開催校所在地	大会テーマ	基調講演／シンポジウム等		研究発表件数	大会実行委員長
第9回	2008年 9月27日(土)	豊橋創造大学	愛知県	インターンシップにおける地域連携のあり方 －産学官の地域連携の緊密化に向けて－	【基調講演】 「東三河の地域開発と産学官の連携について－地域の時代と産学官の果たす役割－」 神野信郎（社団法人中部経済連合会副会長／中部ガス株式会社取締役会長）	【シンポジウム】 「インターンシップにおける地域連携のあり方－産学官の地域連携の緊密化に向けて－」 中野和久（株式会社サイエンス・クリエイト） 西島篤師（西島株式会社） 吉本圭一（九州大学） 坂田広峰（三重県立北星高等学校） ［司会］ 亀野淳（北海道大学）	25	石田宏之 （豊橋創造大学）
第10回	2009年 10月10日(土)	嘉悦大学	東京都	経済大転換期におけるインターンシップと人材育成 －学び、働き、生き抜く力の強化に向けて－	【基調講演】 「地盤沈下する日本経済を再生するか－インターンシップ－」 加藤寛（嘉悦大学学長） 「すべての大学・学部に3年次後期インターンシップの義務付けを！」 坂本恒夫（明治大学副学長） 【特別講演】 「英語、コンピュータ、会計」 Morgan Chaudeler（シャドレール　モルガン）（新日本有限責任監査法人 Ernst & Young 米国公認会計士）	【シンポジウム】 「インターンシップの10年－将来を見据えて－」 白井啓能（東京経営者協会） 金田昌司（中央大学） 駒橋恵子（東京経済大学） 高野恭子（富士通株式会社） ［司会］ 横山修一（工学院大学／日本インターンシップ推進協会）	29	古閑博美 （嘉悦大学）
第11回	2010年 10月2日(土)・3日(日)	佐世保市ハウステンボス	長崎県	地域の人材育成とインターンシップ	【基調講演】 「地域の人材育成と大学の役割」 潮谷義子（長崎国際大学学長・前熊本県知事）	【シンポジウム】「高等教育と地域の人材育成－地域連携のインターンシップの現状と課題－」 受入側：北島正一（電通九州） 行政仲介側：浜民夫（若者自立支援長崎ネットワーク） 大学側：米倉幸生（長崎純心大学） ［コメンテーター］ 亀野淳（北海道大学） ［コーディネーター］ 吉本圭一（九州大学）	17	安部恵美子 （長崎短期大学）
第12回	2011年 9月17日(土)・18日(日)	鳥取大学	鳥取県	インターンシップの「成果」を考える	【特別講演】 「乾燥地科学と人材育成―国際人育成の取り組み―」 恒川篤史（鳥取大学 乾燥地研究センター長）	【シンポジウム】「インターンシップの『成果』を考える」 シンポジスト①（高校教員の視点：高校から大学・社会へ） 大森順子（百合学院高等学校） シンポジスト②（大学教員の視点：学生生活のなかへ） 土肥眞琴（追手門学院大学） シンポジスト③（産業界の視点：大学から社会へ） 西村善和（京都経営者協会） ［コメンテーター］ 吉本圭一（九州大学） ［コーディネーター］ 稲永由紀（筑波大学）	16	長尾博暢 （鳥取大学）
第13回	2012年 9月8日(土)・9日(日)	玉川大学	東京都	インターンシップのこれまでとこれから －秋入学は人材育成の起爆剤となるのか？－	【基調講演】 「雇用のミスマッチをどう解消するか―インターンシップを活用しながら」 前原金一（公益社団法人 経済同友会　副代表幹事・専務理事）	【シンポジウム】「秋入学を考える」 パネリスト①　前原金一（公益社団法人経済同友会副代表幹事・専務理事） パネリスト②　横山隆俊（ビー・エス・パートナーズ株式会社　代表取締役、「アジア人材資金構想」プロジェクト　サポートセンター・プロジェクトリーダー（元）） パネリスト③　塚原修一（国立教育政策研究所高等教育研究部部長） ［モデレーター］ 坂野慎二（玉川大学）	18	折戸晴雄 （玉川大学）

回	開催日	開催校	開催校所在地	大会テーマ	基調講演／シンポジウム等		研究発表件数	大会実行委員長
第14回	2013年 9月7日(土)・ 8日(日)	北海道武蔵女子短期大学	北海道	体験の先へ行くインターンシップ －これからの広がりを考える－	【基調講演】 「観光人材育成における阿寒の取り組み」 大西雅之（鶴雅グループ代表）	【シンポジウム】「インターンシップの広がりを考える」 「商店街学生アイディアコンテストについて」 平野誠（札幌市経済局産業振興部産業振興課長） 「商業高校の体験的・実践的な学習について」 藤田和秀（北海道札幌東商業高等学校教諭） 「商大生が小樽の活性化について本気に考えるマジプロ」 大津晶（小樽商科大学准教授） ［コーディネーター］ 亀野淳（北海道大学）	21	髙橋秀幸 （北海道武蔵女子短期大学）
第15回	2014年 9月6日(土)・ 7日(日)	北九州市立大学北方キャンパス	福岡県	地域協働・産学連携教育のかたち	【学生による活動成果発表会】 「キャリアスクーププロジェクト」 福岡中小企業経営者協会 「猪倉農業関連プロジェクト」 北九州市立大学地域創生学群 「YAHATA HAHAHA PROJECT」 北九州市立大学地域共生教育センター 「小倉ハロウィンプロジェクト」 北九州まなびと ESD ステーション	【シンポジウム「地域協働・産学連携のかたち」】「地域型「Work Integrated Learning」の実体に迫る！」 古賀正博（九州インターンシップ推進協議会事務局長） 井上龍子（八幡駅前開発株式会社 代表取締役） 片岡寛之（北九州市立大学地域創生学群准教授） ［コメンテーター］ 長岡健（法政大学 教授） 吉本圭一（九州大学 主幹教授） ［コーディネーター］ 見舘好隆（北九州市立大学 准教授）	27	眞鍋和博 （北九州市立大学）
第16回	2015年 9月12日(土)・ 13日(日)	近畿大学東大阪キャンパス	大阪府	地域協働・産学連携 －関西のかたち－	【基調報告会】 大学コンソーシアム京都 多田実（同志社大学 教授） 大学コンソーシアム大阪 深瀬澄（大阪経済法科大学 教授） 田崎悦子（大阪教育大学 特任准教授） 南大阪地域大学コンソーシアム 難波祐美（コーディネータ） 大学生協 学びと成長事業協議会 山本求（事務局長） 中井傑（下関市立大学生協 専務理事）	【シンポジウム】「大阪・兵庫・和歌山での地域連携の実例」 杉本茂樹（羽曳野市商工会 事務局長） 阪本壮一（阪本織布株式会社 代表取締役） 箸本史朗（株式会社神戸新聞社 地域総研企画調査部 次長） 秋竹俊伸（株式会社早和果樹園 取締役専務） ［司会］ 新田和宏（近畿大学 准教授）	21	安孫子勇一 （近畿大学）
第17回	2016年 9月3日(土)・ 4日(日)	目白大学・目白短期大学部新宿キャンパス	東京都	インターンシップの多様化とその可能性	【基調講演】 「オリンピック・パラリンピックとボランティア －東京2020大会に向けた東京都の取組－」 田中彰（東京都オリンピック・パラリンピック準備局 運営担当部長） 【特別講演】 「地域連携組織によるインターンシップの推進に向けて」 橋本賢二（経済産業省経済産業政策局産業人材政策室 産業労働専門職）	【シンポジウム】「社会連携としてのインターンシップと人材育成」 「異なる視点から見たOMOTENASHIへの取り組み」 齋藤ゆき（株式会社八芳園グループ総本社総務部採用教育課） 「舞台芸術分野における専門型インターンシップの現状と課題－フェスティバル/トーキョーの現場から－」 横井貴子（フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局） 「西武信用金庫の産学官金連携とインターンシップの取組みについて」 和田夏彦（西武信用金庫 業務推進企画部推進役） 「文部科学省補助事業「首都圏におけるインターシップ等の拡大・高度化」の経験」 堀内正博（首都圏インターンシップ推進機構／青山学院大学） モデレーター：上岡史郎（目白大学短期大学部）	28	牛山佳菜代 （目白大学）

4. 学会大会の記録

回	開催日	開催校	開催校所在地	大会テーマ	基調講演／シンポジウム等		研究発表件数	大会実行委員長
第18回	2017年 8月31日(木)・ 9月1日(金)	札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部	北海道	社会から見たインターンシップ ―その役割の変化―	【基調講演】 「地域密着戦略と人材育成」 丸谷智保（株式会社セコマ 代表取締役社長）	【シンポジウム】「地域活性化に関わるインターンシップ」 前川孝也（四季ニセコ 副総支配人） 中川原尚人（アクサ生命保険株式会社 危機管理・事業継続部マネージャー） 千葉里美（札幌国際大学観光学部 准教授） ［学生報告者］ 近間友紀（札幌国際大学観光学部 観光ビジネス学科 4年） ［モデレーター］ 髙橋秀幸（北海道武蔵女子短期大学）	22	小林純 （札幌国際大学短期大学部）
第19回	2018年 9月3日(月)・ 4日(火)	香蘭女子短期大学	福岡県	地域との連携強化とインターンシップの今後のあり方	【基調講演】 「起業家型リーダー育成のインターンシップ―地域の起業力を育むエコシステムの構築に向けて―」 宮城治男（NPO法人 ETIC. 代表理事）	【シンポジウム】「起業とインターンシップ」 宮城治男（NPO法人 ETIC. 代表理事） 髙橋康徳（株式会社 カウテレビジョン 代表取締役 社長） 熊野正樹（九州大学 学術研究・産学官連携本部 准教授 / 起業部顧問） ［コメンテーター］ 吉本圭一（九州大学大学院 人間環境学研究院 主幹教授） ［ファシリテーター］ 古賀正博（（一社）福岡中小企業経営者協会 常務理事）	18	中濱雄一郎 （香蘭女子短期大学）
第20回	2019年 8月31日(土)・ 9月1日(日)	近畿大学東大阪キャンパス	大阪府	グローバルな産学連携	【基調講演】 「企業理念の実践を加速する人材戦略－人財アトラクション（オムロンのケース）－」 日戸興史（オムロン株式会社 取締役 執行役員専務 CFO 兼グローバル戦略本部長）	【シンポジウム】「グローバル社会におけるインターンシップのあり方」 村田弘司（株式会社日吉 代表取締役社長） 田中寧（京都産業大学 経済学部 教授） 田中穂徳（近畿大学キャリアセンター 次長） 廣瀬幸弘（前・立命館大学 教授） ［ファシリテーター］ 安孫子勇一（近畿大学 教授）	18	廣瀬幸弘 （前・立命館大学） 安孫子勇一 （大会実行委員長代行・近畿大学）
第21回	2020年 11月22日(日)	桜美林大学	東京都 （オンライン）	ワークスタイルの変容下におけるインターンシップ ―新型コロナウイルス禍がもたらしたもの―	【基調講演】 「社員がイキイキと働ける環境をめざして－日本航空が実践する働き方改革－」 小田卓也（日本航空株式会社 執行役員・人財本部長）		14	戸崎肇 （桜美林大学）
第22回	2021年 9月18日(土)	札幌国際大学	北海道 （オンライン）	ニューノーマルなインターンシップとポストコロナの新時代	【基調講演】 「自己成長を促すセルフリーダーシップ －大谷翔平が世界で活躍する理由－」 阿井英二郎（元 北海道日本ハムファイターズヘッドコーチ／現 札幌国際大学 教授）		17	原一将 （札幌国際大学）
第23回	2022年 8月27日(土)・ 28日(月)	久留米大学 御井学舎	福岡県 （オンラインと対面併用）	学校と社会をつなぐ職業統合的学習（WIL）	【会長講演】 「職業統合的学習（WIL）と学会のあゆみ」 吉本圭一（日本インターンシップ学会会長／滋慶医療科学大学 教授／九州大学名誉教授）	【シンポジウム】「多様な職業統合的学習（WIL）をめぐる横断的な対話からの学び」 看護：三橋睦子（久留米大学 教授） 教職：山口圭介（玉川大学 教授） 社会福祉：岡部由紀夫（西九州大学 准教授） インターンシップ：亀野淳（北海道大学 教授） ［ディスカサント］ 吉本圭一（滋慶医療科学大学 教授／九州大学名誉教授） ［司会］ 井本浩之（西九州大学 教授） ［コーディネータ］ 江藤智佐子（久留米大学 教授）	20	江藤智佐子 （久留米大学）

5

研究年報の記録

（2008–2022年度）

5. 研究年報の記録

5-1.『インターンシップ研究年報』第11号～第25号

第11号　2008（平成20）年　2008年６月20日発行（124頁）

＜巻頭言＞

「外国人留学生とインターンシップ」　田村 紀雄

Ⅰ　論文・研究の部

＜論文＞

「英国高等教育におけるエンプロヤビリティと就業経験の強調　－一元化された「多様な」大学と、大卒者の『就業機会保障』－」　稲永 由紀

「秘書教育におけるインターンシップ　－短大『企業研修』の歴史的展開－」　江藤 智佐子

「立命館大学におけるコーオプ教育手法と評価研究」　加藤 敏明

「工学系大学院における海外インターンシップ教育の展開　－北海道大学工学系研究科の取り組み－」　野口 徹、吉川 孝三

「大卒者の就業経験と初期キャリア形成　－日本、イギリス、ドイツ学卒者の比較から－」　山田 裕司

＜研究ノート＞

「地方短大の職業教育とインターンシップ　－長崎短期大学の実践報告から－」　安部 恵美子、牟田 美信

「国際インターンシップとビザについての一考察」　伊藤 滋子

「インターンシップ　－学生が作る会社説明会－」　井本 久子

「ドイツにおける学校　－職業移行過程でのキャリア教育とインターンシップ－」　岩井 清治

「フリーターを対象とする職業能力開発型インターンシップの導入とその課題」　小池 慎介

「大学生に対するメンタルヘルス支援の必要性　－インターンシップの成果をより高めるために－」　古閑 博美

「『若者自立・挑戦戦略会議』が追求してきた施策を改めて考える　－米国における職業指導・キャリア教育の系譜から学べるものはないか－」　田中 宣秀

「ワークショップによる事前授業とインターンシップ研修　－近畿大学生物理工学部におけるインターンシップ－」　新田 和宏

＜報告＞

「廣済堂国際インターンシッププログラム実践報告２　－WACEの場で発表した発展的KIIPプログラム－」　渡辺 正敏

Ⅱ　学会大会の部　於：北海道大学（2007年９月29日）

＜基調講演＞

「隗より始めよ」　横山 清

＜シンポジウム＞

テーマ　「インターンシップの多様化と体系化　－キャリア発達段階における位置づけと役割－」
シンポジスト　寺山 孝男、古川 豊記、石田 宏之
コメンテーター　吉本 圭一
コーディネーター　亀野 淳

第12号　2009（平成21）年　2009年7月30日発行（94頁）

＜巻頭言＞

「不況下、いまなにをなすべきか」　田村 紀雄

Ⅰ　論文・研究の部

＜論文＞

「文系大学院におけるプロジェクト型インターンシップ教育の有効性 －先進的事例であるコロンビア大学と本邦大学のケーススタディーによる比較の視点から－」　太田 和男

「東京大学化学システム工学専攻のインターンシップの概要と課題」　岡田 文雄夫、山口 由岐夫

「体験型インターンシップの役割の再検証と仮説の設定・検証による向上効果」　亀野 淳

＜研究ノート＞

「インターンシップ教育の無限の可能性と課題 －事前教育の効果に関する一考察－」　池田 憲彦

「インターンシップと正課外活動の経験比較」　江口 彰

「キャリア教育の基盤をなすものとは何か －学校から社会への移行を目指す真の職業指導・キャリア教育の方策を探る－」　田中 宣秀

「大学におけるインターンシップの教学的正統性 －正課科目・単位認定の経緯と論理をめぐって－」　長尾 博暢

「キャリア形成教育の効果測定 －日本福祉大学経済学部でのケース・スタディ－」　三輪 憲次

Ⅱ　学会大会の部　於：豊橋創造大学（2008年９月27日）

＜基調講演＞

「東三河の地域開発と産学官の連携について －地域の時代と産学官の果たす役割－」　神野 信郎

＜シンポジウム＞

テーマ　「インターンシップにおける地域連携のあり方 －産学官の地域連携の緊密化に向けて－」
シンポジスト　中野 和久、西島 篤師、吉本 圭一、坂田 広峰
司会　亀野 淳

第13号　2010（平成22）年　2010年９月25日発行（100頁）

＜巻頭言＞

「キャリアガイダンスの『義務化』を巡って」　吉本 圭一

Ⅰ　研究論文の部

＜論文＞

「インターンシップ経験が新入社員のキャリア適応力に及ぼす影響」　吉田 克利

「インターンシップタイプによる基礎力向上効果と就職活動への影響」　真鍋 和博

「インターンシップの評価枠組みに関する研究 －高校における無業抑制効果に焦点をあてて－」　吉本 圭一

＜研究ノート＞
「専門学校における日本版デュアルシステムの開発的研究 －A専門学校の事例を中心に－」 渡辺 和明

Ⅱ 資料の部

＜資料＞
「マーケティングの発想を生かしたキャリア形成支援の取り組み －離職者訓練および大学校におけるキャリア形成支援の現場からの実施報告－」 奥田 美都子
「インターンシップと自律的学生の育成に関して －川越市国際都市化への支援活動の事例を中心に－」 高橋 宏
「フィールド教育を活用した実践的な地域活性化の人材教育」 田中 廣滋

Ⅲ 学会大会の部 於：嘉悦大学（2009年10月10日）

＜基調講演＞
「地盤沈下する日本経済を再生するか －インターンシップ－」 加藤 寛
「すべての大学・学部に3年次後期インターンシップの義務づけを！」 坂本 恒夫

＜特別講演＞
「英語、コンピュータ、会計」 Morgan Chaudeler

＜シンポジウム＞
テーマ 「インターンシップの10年を振り返る －将来を見据えて－」
シンポジスト 金田 昌司、駒橋 恵子、臼井 啓能、高野 恭子
司会 横山 修一
総合司会 田中 宣秀

第14号 2011（平成23）年 2011年12月25日発行（58頁）

＜巻頭言＞
「地域との絆を育む教育」 吉本 圭一

Ⅰ 研究論文の部

＜論文＞
「インターンシップ参加学生の事後満足度と企業の学生評価との関連性に関する研究 －北海道大学の事例をもとに－」 亀野 淳

＜研究ノート＞
「文系大学生のインターンシップが大学での学びに与える効果 －早稲田大学を事例として－」 河野 志穂

Ⅱ 資料の部

＜資料＞
「イギリスにおけるキャリア教育・ガイダンスの系譜・現状・課題 －1970年代以降のキャリア教育を焦点にして－」 田中 宣秀

「大学日本語教員養成における海外日本語アシスタントの『社会人基礎力』の検証」　古別府 ひづる

Ⅲ　学会大会の部　於：ハウステンボス（2010年10月２日～３日）

＜基調講演＞

「地域の人材育成と大学の役割　－Think globally, Act locally－」　潮谷 義子

＜シンポジウム＞

テーマ　「高等教育と地域の人材育成　－地域連携のインターンシップの現状と課題－」
シンポジスト　北島 正一、浜 民夫、米倉 幸生
コメンテーター　亀野 淳
司会　吉本 圭一

第15号　2012（平成24）年　2012年11月20日発行（100頁）

＜巻頭言＞

「職業統合的学習に向けて」　吉本 圭一

Ⅰ　研究論文の部

＜研究ノート＞

「中国高等職業教育教員のための教育実習と企業実習　－教員養成課程発展の２つの方向－」　張 琳
「キャリア自信に対するインターンシップ経験とサークル活動の交互作用効果　－就職活動中の大学生に対するアンケート調査の分析を通じて－」　古田 克利

Ⅱ　資料の部

＜資料＞

「Technological Cooperative Education Programs for Postgraduates and Undergraduates in Colleges of the Social Science and the Science and Engineering」　Yukihiro Hirose and Toshiaki Kato
「港湾職業能力開発短期大学校における就職先への定着に向けた取り組み」　小池 慎介
「中小企業における、就職に結びつける回路としてのインターンシップ　－株式会社ディグの事例－」　古閑 博美・牛山 佳菜代
「都道府県庁における一般行政系インターンシップの受け入れについて」　林 美枝子

Ⅲ　学会大会の部　於：鳥取大学（2011年９月17日～ 18日）

＜特別講演＞

「乾燥地科学と人材育成　－国際人育成の取り組み－」　恒川 篤史

＜シンポジウム＞

テーマ　「インターンシップの『成果』を考える」
シンポジスト　大森 順子、土肥 眞琴、西村 善和
コメンテーター　吉本 圭一
コーディネーター　稲永 由紀

＜大会総括（ランチョンセッション）＞

話題提供「学会員に対するアンケート調査から見た研究と実践ニーズ」　亀野 淳

「総括コメント」　総括コメンテーター　舘 昭

Ⅳ　特別企画

緊急座談会「年報第15号の編集を終えて　－論文として認められる投稿とは何か、学会としての有効な取組はあるか－」　年報編集委員会

第16号　2013（平成25）年　2013年12月31日発行（58頁）

＜巻頭言＞

「教育の器から学習の成果へ」　吉本 圭一

Ⅰ　研究論文の部

＜研究ノート＞

「インターンシップと販売実習に関する比較研究　－商業高校の在学生調査から－」　高橋 秀幸

「職業選択に与えるインターンシップでの他者とのかかわりの影響」　田崎 悦子

「キャリア教育の視点による学生アルバイトとインターンシップの比較　－地方私立大学の学生アルバイトによる習得スキル調査と分析－」　酒井 佳世

Ⅱ　資料の部

＜資料＞

「明治学院大学における海外インターンシップ派遣業務プロセス」　早坂 寛子

Ⅲ　学会大会の部　於：玉川大学（2012年９月８日～９日）

＜基調講演＞

「雇用のミスマッチをどう解消するか　－インターンシップを活用しながら－」　前原 金一

＜シンポジウム＞

テーマ　「秋入学を考える」

パネリスト　塚原 修一、横山 隆俊、前原 金一

モデレーター　坂野 慎二

第17号　2014（平成26）年　2014年11月30日発行（64頁）

Ⅰ　研究論文の部

＜論文＞

「インターンシップ実習中の自律性充足が大学生のキャリア自己効力感に及ぼす影響」　古田 克利

＜研究ノート＞

「インターンシップ経験と就職活動の関連についての大学院生と企業の認識 －中国における文系大学院生と企業に対する調査から－」 傅 振九

Ⅱ　資料の部

＜資料＞

「インターンシップに参加しない理由 －大学３年生夏のアンケート調査から見えてくるもの－」 平尾 元彦・田中 久美子

「私立文系大学におけるインターンシップ、キャリア教育の意識 －大学・短期大学との差異からのアプローチ－」 小林 純

Ⅲ　学会大会の部　於：北海道武蔵女子短期大学（2013年９月７日～８日）

＜基調講演＞

「観光人材育成における阿寒の取り組み －観光学と職業実践における旅館の役割－」 大西 雅之

＜シンポジウム＞

テーマ　「インターンシップの広がりを考える」
シンポジスト　大津 晶、藤田 和秀、平野 誠
コーディネーター　亀野 淳

第18号　2015（平成27）年　2015年11月20日発行（62頁）

Ⅰ　研究論文の部

＜研究ノート＞

「中国高等職業教育教員の養成課程に関する研究 －教育実習と企業実習を中心として－」 張 琳

「学外農業インターンシップが農業高校出身学生の農業キャリアに果たす役割と可能性 －非農家出身農学系大学生の農村滞在職住一体の農業就業体験を通して－」 田崎 悦子

Ⅱ 資料の部

＜資料＞

「大学初年次生に対するインターンシップの意識調査」 川端 由美子

「企業におけるインターンシップ実施意義の一考察 －Ａ社インターンシップに参加後、入社した社員の実状を踏まえて－」 酒井 幸雄

「インターンシップ参加学生の否定的意見 －地方国立４大学合同調査に基づく報告－」 平尾 元彦・川端 由美子・本庄 麻美子・松坂 暢浩

Ⅲ　学会大会の部　於：北九州市立大学（2014年９月６日～７日）

＜シンポジウム＞　「地域協働・産学連携のかたち」

テーマ　「地域型『Work Integrated Learning』の実体に迫る！」
パネリスト　古賀 正博、井上 龍子、片岡 寛之

コメンテーター　長岡 健、吉本 圭一
コーディネーター　見舘 好隆

第19号　2016（平成28）年　2016年11月20日発行（58頁）

Ⅰ　研究論文の部

＜研究ノート＞
「インターンシップの教育効果についての分析 －学習意欲向上効果と就業意識向上効果の観点から－」
三浦 一秋

Ⅱ　資料の部

＜資料＞
「インターンシップを起点とする通年型キャリアプログラム －いしかわインターンシップの取り組みを事例として－」 門間 由記子

Ⅲ　学会大会の部　於：近畿大学（2015年９月12日～13日）

＜基調報告＞
司　　会　安孫子 勇一
基調報告１「大学コンソーシアム京都」 多田 実
基調報告２「大学コンソーシアム大阪」 田崎 悦子、深瀬 澄
基調報告３「南大阪地域大学コンソーシアム」 難波 祐美
基調報告４「大学生協」 山本 求、中井 傑

＜シンポジウム＞
テーマ　「大阪・兵庫・和歌山での地域連携の実例」
パネリスト　杉本 茂樹、阪本 壮一、箸本 史朗、秋竹 俊伸
司会　新田 和宏

第20号　2017（平成29）年　2017年12月31日発行（80頁）

Ⅰ　研究論文の部

＜研究ノート＞
「学生の主体的な学習を促す地域連携活動の取り組み方に関する考察 －より効果的な実践型教育の確立を目指して－」 石谷 百合加

Ⅱ　資料の部

＜資料＞
「工学系大学における就業観醸成型インターンシップの質保証に関する取り組み －工学院大学の事例－」 二上 武生
「中小企業におけるインターンシップ導入の課題 －いしかわインターンシップを事例として－」 門間 由記子

＜活動紹介＞　2015年度槙本記念賞「秀逸な事例」受賞校の取組紹介

「北九州市立大学 －地域の日常へ正統的に参加する実践的学習の展開と成果－」　眞鍋 和博

＜書籍紹介＞

「『インターンシップ実践ガイド　大学と企業の連携』の概要と出版の経緯 －学会『設立趣意書』に示された理念の実現を目指す東日本支部の取り組み－」　折戸 晴雄、根木 良友、山口 圭介

＜その他＞　論文作成のためのセミナー

「日々の実践からの研究企画と論文作成に向けて －年報編集委員会・企画研究ワーキンググループ・九州支部共催セミナー－」　年報編集委員会

Ⅲ　学会大会の部　於：目白大学・目白大学短期大学部（2016年９月３日～４日）

＜基調講演＞

「オリンピック・パラリンピックとボランティア －東京2020大会に向けた東京都の取組－」　田中 彰

＜特別講演＞

「地域連携組織によるインターンシップの推進に向けて」　橋本 賢二

＜シンポジウム＞「インターンシップの多様化とその可能性」

テーマ　「社会連携としてのインターンシップと人材育成」
パネリスト　齋藤 ゆき、横井 貴子、和田 夏彦、堀内 正博
モデレーター　上岡 史郎

第21号　2018（平成30）年　2019年３月31日発行（48頁）

Ⅰ　研究論文の部

＜研究ノート＞

「インターンシップ体験の意味深さに影響を及ぼす要因の検討」　古田 克利

「大学生低学年におけるインターンシップの考察 －職場の他者からの支援と自ら学ぶ意欲との関連性－」　岩井 貴美

Ⅱ　学会大会の部　於：札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部（2017年８月31日～９月１日）

＜基調講演＞

「地域密着戦略と人材育成」　丸谷 智保

＜シンポジウム＞

テーマ　「地域活性化に関わるインターンシップ」
シンポジスト　前川 孝也、中川原 尚人、千葉 里美
学生報告者　近間 友紀
モデレーター　高橋 秀幸

第22号　2019（令和元年）年　2019年12月28日発行（42頁）

Ⅰ　資料の部

＜資料＞

「保育士及び幼稚園教員養成サポート校におけるインターンシップ経験の効果と課題 －インターナショナルプリスクールでの実習を事例として－」　井上 敏孝

Ⅱ　学会大会の部　於：香蘭女子短期大学（2018年９月３日～４日）

＜基調講演＞

「起業家型リーダー育成のインターンシップ －地域の起業力を育むエコシステムの構築に向けて－」　宮城 治男

＜シンポジウム＞

テーマ　「起業とインターンシップ」
シンポジスト　宮城 治男、高橋 康徳、熊野 正
コメンテーター　吉本 圭一
ファシリテーター　古賀 正博

Ⅲ　特別企画

＜特別企画＞　年報編集委員会

「査読者はどんな人か？　そして何をチェックしているのか？」
「査読を終えて」

第23号　2020（令和２年）年　2020年11月28日発行（50頁）

Ⅰ　研究論文の部

＜研究ノート＞

「法学部における職業統合的学習をもとにした大学の類型的考察 －修得が期待される能力、正規科目としての位置づけ、担当教員の特徴に着目して－」　坂巻 文彩

Ⅱ　学会大会の部　於：近畿大学（2019年８月31日～９月１日）

＜基調講演＞

「企業理念の実践を加速する人材戦略/人財アトラクション －オムロンのケース－」　日戸 興史

＜シンポジウム＞

テーマ　「グローバル社会におけるインターンシップのありかた」
シンポジスト　村田 弘司、田中 寧、田中 穂徳、廣瀬 幸弘
ファシリテーター　安孫子 勇一

Ⅲ　特別企画

「『インターンシップ研究年報』　研究論文一覧（第７号～第21号）」　吉本 圭一

第24号　2021（令和３年）年　2021年11月30日発行（114頁）

Ⅰ　特集の部　　職業統合的学習（Work Integrated Learning）

＜特集論文＞

「日本的インターンシップから職業統合的学習へ －研究視座の総合と体系化に向けて－」　吉本 圭一

「インターンシップから職業統合的学習（Work Integrated Learning）への展開可能性 －研究誌からみた学会の研究動向に着目して－」　江藤 智佐子・手嶋 慎介・椿 明美

「インターンシップを通じた『学びと成長』の実証分析の枠組み」　古田 克利

「職業統合的学習の視点による教員養成の再検討 －大学における教員養成の職業的な経験の機会に着目して－」　山口 圭介

「企業側からの視点によるインターンシップ研究の発展可能性に関する一考察」　亀野 淳

Ⅱ　資料の部

＜資料＞

「入社前のインターンシップ、アルバイト経験と入社後のリアリティ・ショック、早期離職行動との関連性 －大卒社会人３年目（2016年・2017年入社）調査に基づいて－」　本庄 麻美子

「大学におけるインターンシップ研究の動向と課題」　宮田 弘一

「フルリモート型インターンシップの開発におけるコーディネートのプロセス」　伊藤 文男・大串 恵太

＜書評＞

吉本 圭一著『キャリアを拓く学びと教育』　和田 佳子

Ⅲ　学会大会の部　於：桜美林大学　オンライン（2020年11月22日）

＜基調講演＞

小田 卓也　「社員がイキイキと働ける環境を目指して －日本航空が実践する働き方改革－」（記録：戸崎　肇）

第25号　2022（令和４年）年　2022年10月28日発行（29頁）

Ⅰ　資料の部

＜資料＞

「地域中小企業の魅力発見に向けた体験学習プログラムの効果 －NPO 法人 G-net による『オンラインシゴトリップ』の事例より－」　今永 典秀・棚瀬 規子・南田 修司

「事前・事後研修に SDGs を取り入れた低学年インターンシップの取組」　伊藤 文男・大串 恵太・中井 咲貴子

Ⅱ　学会大会の部　於：札幌国際大学　オンライン（2021年９月18日）

＜基調講演＞

「自己成長を促すセルフリーダーシップ」　阿井 英二郎

5-2.『インターンシップ研究年報』編集規程

（2022年９月19日改訂）

１．『インターンシップ研究年報』（以下、『年報』という）は、日本インターンシップ学会が発行する学術雑誌である。

２．『年報』は、年１回刊行する。

３．『年報』の編集は、年報編集委員会がおこなう。

４．『年報』には、以下の(1)～(4)を掲載する。
(1)「研究論文」
①「論文」（科学論文として実証性、論理性、独創性があり、学術的価値があると認められるもの）
②「研究ノート」（学術的に萌芽的な内容で今後の展開が期待され、かつ価値があると認められるもの）
(2)「資料等」
①「資料」（学術活動に貢献する価値のある情報、重要な知見などを整理したもの）
②「事例紹介」（インターンシップ実践をもとに記述し、価値ある提言、結論を導き出したもの）
③「書評」
④「その他」
(3)「学会大会」
(4)「その他」

５．「研究論文」及び「資料等」の掲載は、年報編集委員会の審議を経て決定するものとする。「研究論文」については、専門分野の会員に査読を依頼する。

６．掲載予定の「研究論文」及び「資料等」について、年報編集委員会は投稿者に内容の変更を求めることがある。

７．『年報』に掲載される「研究論文」及び「資料等」の電子公開および著作権については、次のように取り扱う。
(1) 著作権については、本学会に帰属する。
(2) 著作者自身が、自己の著作物を利用する場合には、本学会の許諾を必要としない。
(3) 採択された研究論文等は国立研究開発法人科学技術振興機構科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）等に公開される。

８．「研究論文」の査読に必要な事項は、年報編集委員会が別途定める。

5-3.『インターンシップ研究年報』研究論文・資料等投稿規程（第26号）

（2022年９月19日更新）

『インターンシップ研究年報』第26号に投稿する「研究論文」及び「資料等」は、次の規程に従うものとする。

1．「研究論文」及び「資料等」の投稿者は、以下の者であること。
ⅰ．日本インターンシップ学会の会員であり、2022年度の会費を2023年１月20日までに納入していること。
ⅱ．共著の場合、全員がⅰ．を満たしていること。
ⅲ．ただし、年報編集委員会から投稿を依頼した場合はこの限りではない。

2．投稿者は、それぞれ（1）「研究論文」（「論文」、「研究ノート」）、（2）「資料等」（「資料」、「事例紹介」、「書評」、「その他」）に当初から分けて、投稿すること。「研究論文」については、専門分野の会員に査読を依頼する。
ⅰ．「論文」：科学論文として実証性、論理性、独創性があり、学術的価値があると認められるもの
ⅱ．「研究ノート」：学術的に萌芽的な内容で今後の展開が期待され、かつ価値があると認められるもの
ⅲ．「資料」：学術活動に貢献する価値のある情報、重要な知見などを整理したもの
ⅳ．「事例紹介」：インターンシップ実践をもとに記述し、価値ある提言、結論を導き出したもの

3．「研究論文」及び「資料等」は、以下であること。
ⅰ．他の学術雑誌に発表されたことがない、未発表のものであること。
ⅱ．他誌へ投稿中の論文等または投稿する予定のある論文等でないこと（二重投稿の禁止）。
ⅲ．研究倫理を遵守し、執筆すること。
ⅳ．調査研究の場合は、調査対象者のプライバシーの保護を最大限尊重し、調査対象者が特定されないよう配慮するなど適切な予防策を講じること。
ⅴ．調査対象者に実施した倫理的配慮の内容を、本文中に明記すること。

4．使用言語は日本語とする。

5．「研究論文」を投稿する場合には、「拙著」「拙稿」などの表現や、研究助成、共同研究者への謝辞など、投稿者名が判明もしくは推測できるような表現は避けること。ただし、必要な場合は、採択決定後に加筆することができる。

6．原稿は、次の点を厳守し、作成すること。
ⅰ．原則として、パソコンのワープロで作成することとする。アプリケーションは MS-WORD で作成することが好ましい。
ⅱ．和文の場合、句点は全角の「。」（マル）、読点は全角の「、」（テン）を、英文ならびに引用等で用いる欧文の場合、句点は半角の「.」（ピリオド）、読点は半角の「,」（カンマ）を、使用する。
ⅲ．タイトル、氏名、所属、要旨、キーワード、図、表、注、参考文献を含めて、A4判横書きで、ページ数は、次のとおりとする。ただし、年報編集委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。
①「研究論文」４ページ以上８ページ以内
②「資料等」２ページ以上８ページ以内
ⅳ．次項以降特に指定がない場合、文字は、MS明朝（欧文の場合は Times New Roman）、10ポイントとする。欧文は、半角文字を使用する。数字は、半角文字のアラビア数字を使用する。
ⅴ．本文は２段組で、１頁を24字×50行×２段＝2,400字とする。余白は、左右、上下20mmとする。ただし、第

１ページのレイアウトについては、別項で指示する。

vi．第１ページは、第１行目から、タイトル、英文タイトル、氏名（所属）、要旨、キーワード（５つまで）、の順に、１段組で記載する。タイトルは、MSゴシック（英文タイトルは Times New Roman）、12ポイントで、中央揃えとする。タイトルの次行に、氏名と所属（かっこ付）を右詰めに書く。要旨は、氏名（所属）の後に１行空けて、600字以内で記載する。

vii．本文の章立ては、章、節、項目の３分類を原則とし、MSゴシック、10ポイントで左詰めとする。章は、全角文字のアラビア数字、節、項目は、半角のアラビア数字を使用する。

（例）＜章＞ １．、２．、３．、･･･

＜節＞ 1-1.、1-2.、･･･

＜項目＞（1)、(2)、･･･

viii．文体は「・・である」調の記述とする。

ix．文献を示す割注の提示は、以下の例に従い、原則として、著者の姓、出版年、始頁、終頁の順に記載する。翻訳文献を示す場合には、著者の姓、原典出版年、翻訳出版年、始頁、終頁の順に記載する。

（例）「……という指摘がある（吉本2008、McIntyre and Hagger 1992)。」

「舘（2006）によれば、…」

「…と定義されている（Becker 訳書 1976)。」

x．注は、原稿の中の該当箇所に（注１)、(注２）のように、MS明朝、８ポイントで表記し、原稿末尾にまとめて記載する。なお、注と参考文献の両方がある場合は、注、参考文献の順に、MS明朝、８ポイント、左詰めで記載すること。参考文献は、まず邦文を五十音順で記載し、次に欧文をアルファベット順に記載する。参考文献には、本文または注で触れた文献のみを記載する。

xi．参考文献は、以下の例に従って記載する。

＜図書の場合＞

著者名、発行年、書名、出版社名の順に記載する。

（例）舘昭（2006)『原点に立ち返っての大学改革』東信堂

高良和武（監修)、石田宏之、太田和男、古閑博美、田中宣秀（編）(2007)『インターンシップとキャリア－産学連携教育の実証的研究』学文社

Green, M. E. (1997), “Internship Success”, VGM Career Horizons

＜論文の場合＞

著者名、発行年、論文名、雑誌名、出版元、巻号、ページの順に記載する。

（例）吉本圭一（2006)「インターンシップ制度の多様な展開とインターンシップ研究」、『インターンシップ研究年報』第９号、日本インターンシップ学会、38-44頁

（例）McIntyre, D. and Hagger, H. (1992) “Professional Development through the Oxford Internship Model”, British Journal of Educational Studies, vol.40, No.3, pp. 264-283

＜翻訳書・論文の場合＞

原典書誌情報（図書・論文の場合に準ずる）の後に、（＝翻訳出版年、訳者名訳、図書・論文名、出版社名）を記載する。

（例）Becker, G. S. (1964), Human Capital: A Theoretical and Empirical Analysis, with Special Reference to Education, University of Chicago Press.（＝1976，佐野陽子訳『人的資本－教育を中心とした理論的・経験的分析－』東洋館出版社）

＜新聞記事、雑誌、辞典など＞

可能な限り、上記文献記載方法にしたがい、執筆者名がわかる場合は記事名の後に執筆者を、新聞記事の場合は掲載年月日を追加する。

＜ウェブサイトから引用する場合＞

可能な限り、上記文献記載方法に従い、末尾にURLと最終アクセス日を（　）内に記載する。

xii．図表を使用する場合は、図や表の標題の頭に、図、表の別に通し番号をつける。表題はMSゴシック、10ポイント、番号のみ半角文字を使用し、表の場合は表の上に、図の場合は図の下に、それぞれ中央揃えで記載する。出所、注記は、図表の下に付記する（オリジナルの図表の場合は、出所を記さない）。

（例）図１、表１、図２、図３、表２、表３、…なお、図表は白黒で作成するのが望ましい。

xiii．年号の表記は原則として西暦とする。但し、引用文献・論文などの資料名については、元号（昭和、平成など）で記入されている時には、それを用いること。

xiv．明らかな誤字、脱字、余字、熟語など用語の統一については、編集委員会で修正する場合があるので、留意すること。

７．締切日は2023年１月20日とする。

８．原稿は、投稿者（共同執筆の場合は代表者）が、原則として電子メールに電子ファイルを添付して、投稿者の連絡先（住所、電話番号、メールアドレス）と共に、下記メールアドレスへ送信すること。

＜送信先＞

日本インターンシップ学会 年報編集委員会

E-mail：jsi-bec@js-internship.jp

９．原稿は返却しない。

10．「研究論文」として採択された場合には、本文とは別に、英文で、タイトル、氏名、所属、アブストラクト、キーワードを、また、「資料等」として採択された場合には、本文とは別に、英文で、タイトル、氏名、所属を記載したものを作成し、編集委員会で指定した期日までに、８．の送信先へ電子ファイルで提出すること。タイトル中の名詞は、冒頭を大文字にする。アブストラクトは200～300語とする。ネイティブチェックは投稿者の責任でおこなうこととする。

11．掲載予定の「研究論文」及び「資料等」の取り扱いについては、投稿時点で次のことを承諾したものとみなす。

ⅰ．著作権については、本学会に帰属する。

ⅱ．著作者自身が、自己の著作物を利用する場合には、本学会の許諾を必要としない。

ⅲ．採択された「研究論文」及び「資料等」は国立研究開発法人科学技術振興機構科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）等に公開される。

6

支部活動／研究会の記録

北海道支部　13年のあゆみ

北海道支部長
小林　純
（札幌国際大学短期大学部）

日本インターンシップ学会北海道支部は、2010年３月に設立記念大会を開催し、学会第４の支部として活動を開始しました。支部設立当初から現在に至るまで、年１回の支部総会と１～２回の研究会を開催しており、開催はすべて札幌、またはオンライン上で行われています。研究会の参加者は10～20名程度とあまり規模は大きくありませんが、個別の意見を表明しやすく、活発な議論が行われる環境となっています。これまで支部長には３名が就任しており、設立時～2015年度が亀野淳会員（北海道大学）、2016～2019年度が髙橋秀幸会員（北海道武蔵女子短期大学）、2020～現在は小林が担当しております。

これまで北海道支部で行われた研究会については、学会所属会員による研究発表を中心に、支部総会とともに行われる研究会と、外部講演者の招聘による講演を中心とした研究会を交互に行っています。

所属会員による研究発表については、各会員の関心ある研究課題を中心に発表が行われており、毎年９月に行われている全国大会に向けて、支部でのディスカッションを通じて、発表内容の更なる向上を図っています。2020年のコロナ禍以降はオンライン形式での発表が続いていましたが、今後は対面での発表を再開する予定です。

また講演については、その時々の会員からの意見やインターンシップを取り巻く環境などを考慮しながら企画しています。これまで中小企業家同友会や地元企業の人事担当者、また学生と企業をつなぐNPO団体などに講演を依頼してまいりました。加えて大学でのインターンシップ活動に限定せず、北海道教育庁や北海道の高等学校関係者による、初・中等教育での職業体験や高大接続、また産業界での体験・研修の実践報告なども企画しており、「広義」のインターンシップといえる、職業統合学修･体験と社会の関わりについても、広く議論を行ってまいりました。

2018年には日本キャリアデザイン学会他３学会の北海道支部との共催による「キャリアデザインライブ」の開催や、日本労務学会北海道支部との研究会共催なども行い、隣接分野の他学会との連携活動を通し、研究交流を広げていく段階にありましたが、その後のコロナ禍で支部活動・研究会活動が縮小しております。そのため、今後の支部活動の拡大に向けて、検討を進めています。

2023年現在、北海道を中心に活動する会員は20名弱しかおらず、会員の拡大が以前から課題となっています。近年はzoomなどのオンライン会議システムの普及により、北海道以外に在住の方にも研究会に参加しやすい環境となっており、2022年の研究会においては、対面方式と合わせて、zoomを用いたハイブリッドでの研究会開催も実施いたしました。今後も運営委員の態勢や配信環境等も考慮しながら、より多くの方に参加いただける研究会の形式を検討してまいります。

今後の支部活動は、北海道で活動する会員の研究支援を進めるとともに、北海道という地域性を特徴とした情報の発信や講演の企画などを行ってまいります。

【北海道支部　歴代支部長、副支部長】（敬称略）

2010年度～2011年度　支部長：亀野淳　副支部長：沢田隆・椿明美
2012年度～2017年度　支部長：亀野淳　副支部長：椿明美・和田佳子
2018年度～2019年度　支部長：高橋秀幸　副支部長：小林純・森谷一経
2020年度～2023年度　支部長：小林純　副支部長：高橋秀幸・原一将

【北海道支部】（2010年3月6日設立）

No	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
1	2010年3月6日	北海道大学	北海道支部設立記念研究集会 基調講演：「観光人材養成講座」と鶴雅の取り組み	大西雅之（株式会社阿寒グランドホテル）
			発表1．地産地消の就業体験～７ヶ月のキャリア支援プログラム～	田崎悦子（札幌大学女子短期大学部）
			発表2．商業高校におけおる企業と連携した部活動における人材育成	髙橋秀幸（北海道札幌啓北商業高等学校）
			発表3．バングラデシュでのインターンシップ体験	伊藤良平（北海道大学大学院）
2	2011年2月26日	北海道大学	テーマ『インターンシップを経験した社会人からインターンシップの効果を探る』	学生時代にインターンシップを体験した社会人/卒業生）4名を交えた座談会 ［司会］田崎悦子（札幌大学女子短期大学部）
3	2011年6月26日	札幌市男女共同参画センター	テーマ『インターンシップがつなぐ中小企業と大学生』 基調講演：中小企業における人材育成とインターンシップ	細川修（北海道中小企業家同友会）、 ［講師紹介］沢田隆（札幌国際大学）
			発表1．実践型インターンシップ（P.I.P.）の可能性	濱中裕之（ピオネイロ）
			発表2．インターンシップを通じて見えてきた社会参画	北向和也（札幌市立大学）
			パネルディスカッション	金田日悟（株式会社アイドウ）、北向和也（札幌市立大学）、濱中裕之（ピオネイロ）
4	2012年3月8日	札幌国際大学経済センターキャンパス	発表1．北海道内の大学・短期大学におけるキャリア教育の現状と課題	椿明美（札幌国際大学短期大学部）・ 和田佳子（北海道武蔵女子短期大学）
			発表2．中国の文系大学院生のインターンシップに関する調査について	傳振九（北海道大学大学院）
			発表3．英国における若者のエンプロイアビリティ政策	沢田隆（札幌国際大学）・小林純（札幌国際大学短期大学部）
5	2012年6月16日	北海道大学	発表.札幌市白石区による初中等教育での職場体験システム	山田翔子（北海道大学大学院）、 ［コーディネーター］徳井美智代（北海道大学）
			発表報告．農業インターンシップ“取り組みの変遷と現状”について	田崎悦子（大阪教育大学）、大塚裕樹（大塚オーガニックファーム）
6	2013年3月8日	札幌国際大学経済センターキャンパス	発表1．フィンランドの高等教育機関におけるキャリア教育とその規定要因に関する分析―日本との比較を視野に―	亀野淳（北海道大学）
			発表2．高等教育におけるキャリア教育とインターンシップの考え方～キャリア教育とインターンシップに関するアンケートから	小林純（札幌国際大学短期大学部）
7	2013年6月30日	北海道武蔵女子短期大学	テーマ「短期派遣型インターンシップの先を目指して」 講演：人材派遣業から見たインターンシップ	田中希久代（キャリアバンク株式会社）、 ［コーディネーター］徳井美智代（北海道大学）
			トークセッション 採用直結・長期インターンシップの受入と展望・課題	中山英朗（札幌通運株式会社）・長谷川修（札幌国際大学）
8	2014年3月25日	札幌国際大学経済センターキャンパス	発表なし。活動方針および研究・実践活動に関する情報交換会	
9	2014年6月8日	北海道武蔵女子短期大学	発表1．インターンシップとキャリア教育の体系化～科研調査から見えてきたこと	椿明美（札幌国際大学短期大学部）
			発表2．産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業	大津晶（小樽商科大学）、 ［研究課題提起］亀野淳（北海道大学）

No	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
10	2015年3月24日	札幌国際大学経済センターキャンパス	発表1．大学職員におけるインターンシップ推進専門人材を育成するための調査研究について	齋藤麻美世（北海道武蔵女子短期大学）
			発表2．中小企業における雇用のミスマッチに関する一考察	徳井美智代（北海道大学）
11	2015年5月31日	札幌国際大学	シンポジウム「中小企業でのインターンシップ」 報告1．中小企業でのインターンシップの現在	高岡幸生（リージョンズ株式会社）
			報告2．かばん持ちインターンシップ：社長弟子入りプロジェクト	内池秀敏（株式会社内池建設）
			発表1．中小企業の従業者に求められる『行動能力（コンピテンシー）』に関するアンケート調査	徳井美智代（北海道大学）
12	2016年3月17日	札幌国際大学経済センターキャンパス	発表1．高校普通科におけるキャリア教育のコーディネーターの有用性についての実践研究―進路多様校での効果的なキャリア教育の実践的検証	森順子（株式会社ハッピーアロー）
			発表2．短期大学におけるインターンシップについて	齋藤麻美世（北海道武蔵女子短期大学）
13	2016年5月29日	北海道大学	シンポジウム「インターンシップにおける課題の解消に向けて」	中原慎二（明治安田生命保険相互会社）、綿谷美樹（大丸藤井株式会社）
			発表1．各大学のインターンシップ要望等について（報告）	森谷一経（北海道文教大学）
14	2017年3月26日	札幌国際大学経済センターキャンパス	発表1．経済同友会と連携した低学年長期インターンシップ―北海道大学の事例―	亀野淳（北海道大学）・川上あき（北海道大学）
			発表2．公募型と大学経由型インターンシップの比較考察を通じた今後のインターンシップの可能性」 【高良記念助成研究中間報告】	川上あき（北海道大学）
15	2018年3月8日	札幌国際大学経済センターキャンパス	発表1．グローバル人材育成としての国際インターンシップの取組	高橋彩（北海道大学）
			発表2．地方文系大学の学修とつながるインターンシップ―職業統合的学習の可能性を探る―	椿明美（札幌国際大学短期大学部）
16	2018年6月17日	北海道武蔵女子短期大学	講演：大学生のキャリア構築に与える要因の分析―インターンシップ、アルバイト、価値観ワークショップによる検討―	石山恒貴（法政大学大学院）
17	2019年3月11日	札幌国際大学経済センターキャンパス	報告．北海道教育委員会における地域と高校が連携した取組	諸橋宏明（北海道教育庁学校教育局）
			発表．ハタモク北海道での実践について	中田隆太（NPO法人ハタモク北海道）
18	2019年6月16日	札幌国際大学	テーマ：高等学校でのインターンシップ・社会体験の取組 報告1．三笠高校食物調理科の取り組み	遠藤直樹（北海道三笠高等学校）
			報告2．札幌市立高校普通科の職場体験学修について	三関直樹（市立札幌旭丘高等学校）
			報告3．札幌東商業高等学校のインターンシップ	森慶介（北海道札幌東商業高等学校）
19	2020年2月25日	札幌国際大学経済センターキャンパス	発表1．非難関大学における必修キャリア教育科目の課題～2大学を対象とした実証研究から	樋原智恵（北海道武蔵女子短期大学）
			発表2．文系学部教育の社会的効用―卒業生アンケート調査結果から	椿明美（札幌国際大学短期大学部）、和田佳子（札幌大谷大学）
20	2021年3月21日	オンライン（Zoom）	発表1．コロナ禍におけるWEB型インターンシップの現状報告	原一将（札幌国際大学）
			発表2．混合研究法を用いた、文系学部卒業生調査分析の試み	椿明美（札幌国際大学）・和田佳子（札幌大谷大学）

No	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
21	2022年3月13日	オンライン（Zoom）	発表1．高学歴学生による若年無業者回避の実情と課題	樋原智恵（北海道武蔵女子短期大学）
			発表2．文系大学におけるジョブ型採用に対応し得るインターンシップの模索～コロナ禍のインターンシップ調査から	椿明美（札幌国際大学）・和田佳子（札幌大谷大学）
22	2022年9月25日	札幌国際大学（ハイブリッド）	講演：インターンシップを採用・企業研修活動に積極的に活用している企業から～ヤマチマネジメント	二瓶百花（株式会社ヤマチマネジメント）
23	2023年6月18日	オンライン（Zoom）	講演：北海道における企業インターンシップの実情―三省合意で変化はあるか	菅野万里子（株式会社ジェイ・ブロード）

東日本支部　12年のあゆみ

東日本支部長
松坂　暢浩
（山形大学）

日本インターンシップ学会東日本支部は、主として関東ならびにその周辺地域（中部地域から東北地域）に住所を有する会員有志を中心に２年の準備期間を経て、2011年３月12日に関東支部として発足した。その後2017年３月６日からは、関東地域以外の会員増加に伴い、実態に合わせた形で支部名称を「東日本支部」に変更し、以降、支部会員のご協力のもと、活発に支部活動に取り組んできた。支部の体制としては、支部総会で選出された支部長を中心に、副支部長、運営委員、事務局からなる運営委員会で支部活動の企画・運営を行い、監事からは、適正な運営を行っているか監査いただいている。

本支部の主な活動としては、各年度に設定するテーマを基に、年３回研究会を開催している。産学官でインターンシップに携わる方々からの実践的な取組事例や研究活動の発表をいただき、意見交換を行う等、会員同士の交流や研究成果を共有する機会を積極的に提供している。東日本支部への名称変更後は、関東地域以外での研究会を企画し、これまで、青森県、岩手県、山形県、新潟県で開催した。各地域でインターンシップに取り組む会員等の講演や意見交換を通じて、地域の実情に合わせた実践事例について深く学ぶ機会となった。2022年からは、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式での運営にも取り組み、全国から多くの皆様に研究会へ参加いただけるようになった。

また、支部地域内で取り組まれている先進的なインターンシップの事例や研究について、東日本支部の運営委員が中心となり、支部監修の基、『インターンシップ入門』（2015）と『インターンシップ実践ガイド』（2017年）を玉川大学出版部より出版した。本書籍では、変化する国内におけるインターンシップの動向を踏まえ、各大学の取り組みや受入側の事例を紹介し、インターンシップに関する基本用語等についても解説している。インターンシップの実践と研究内容を広く社会に紹介することで、国内におけるインターンシップのさらなる発展に貢献することができた。

そして、東日本地域で開催された全国大会が2008年からの５年間に４回あり、大会校と支部とが協力し、実行委員会を組織して企画・運営に取り組んだ。そのなかで、桜美林大学が開催校であった2020年の第21回大会は、新型コロナウイルス感染症の影響から、初めて対面形式ではなくオンライン形式（Zoom）での開催となった。当日は、全国から90名を超える皆様に参加をいただき、合計14件の研究発表が行われ、活発な討論が行われた。大会運営にあたり、大きなトラブルなく、無事に大会を終えることができたのは、本部および東日本支部運営委員によるサポートが大きく、本大会の企画・運営を通じて、支部運営委員の連携をさらに深めることができた。また、本大会で得られた運営のノウハウは、その後の全国大会の運営へと引き継がれた。

今後も、東日本支部の皆様のご協力を仰ぎながら、支部活動について一層の充実を目指していきたい。

【関東支部　歴代支部長、副支部長、事務局長】（敬称略）

2011年度～2016年度　支部長：折戸晴雄　副支部長：大島慎子・田中宣秀・那須幸雄・薬師丸正二郎
事務局長：根木良友

【東日本支部　歴代支部長、副支部長、事務局長】（敬称略）

2017年度～2018年度　支部長：古閑博美　副支部長：松坂暢浩・薬師丸正二郎　事務局長：牛山佳菜代
2019年度～2020年度　支部長：松坂暢浩　副支部長：高瀬和実・薬師丸正二郎・山口圭介　事務局長：牛山佳菜代
2021年度～2022年度　支部長：松坂暢浩　副支部長：上岡史郎・高瀬和実・山口圭介　事務局長：牛山佳菜代

【関東支部】（2011年3月12日設立）⇒【東日本支部】（2017年3月6日名称変更）

No	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
1	2011年5月28日	工学院大学新宿キャンパス	テーマ：国際インターンシップの展望と課題―職業指導導（キャリアガイダンス）を念頭において―（共催：日本インターンシップ推進協会） 基調講演：国際インターンシップの展望と課題～海外インターンシップ10年の経験から考える～	佐藤勝彦（立命館大学）
			研究発表：日本におけるインターンシップ経験	J Henning Buchholz（デロイト・コンサルティング GmbH）
			研究発表：英国のインターンシップ	及川舞（文京学院大学外国学部生）
			研究発表：中国でのインターンシップ実例	福井彩香（学習院大学経済学部生）
			研究発表：米国大学のインターンシップ	伊藤瑛二（JIPC）
			研究発表：ドイツインターンシップの実態とその就職への効果	山崎織江（ジェトロ海外調査部）
			研究発表：フランスのインターンシップと就職	大久保公人（Euro RSCG TOKYO）
			研究発表：外国人留学生受け入れ大国スペイン	金関あさ（スペイン大使館経済商務部）
			研究発表：国際インターンシップで体験できる業種・職種とプログラム事例	伊藤滋子（JIPC）
2	2011年10月8日	玉川大学	テーマ：観光インターンシップの課題と展望 ―新しい国づくりのために― 基調講演1：観光インターンシップの今後の展望 基調講演2：わが国の観光行政とインターンシップ	折戸晴雄（玉川大学） 志村格（国土交通省観光庁観光地域振興部）
			研究発表：ホテル業界のインターンシップとキャリア教育効果の実態	塩島賢次（日本ホテル株式会社）
			研究発表：航空業界のインターンシップとキャリア開発効果	伊藤滋子（JIPC）
			研究発表：旅行業界のインターンシップの現状	矢嶋敏郎（東洋大学大学院）
			研究発表：観光インターンシップとキャリア育成効果	那須幸雄（文教大学）
3	2012年5月26日	東洋大学白山第2キャンパス	テーマ：先端的分野のインターンシップ－グローバル化に対応する接続効果と実践上の課題－ 基調講演：PBL型インターンシップのキャリア形成効果	岡田文雄（東京大学大学院）
			研究発表：日本におけるグローバル型インターンシップ経験	Andreas Seidler（元ブレーメン経済工科大学生）
			研究発表：工学分野におけるインターンシップとキャリア選択	小田部明（日本大学生産工学部）
			研究発表：聖徳大学における長期インターンシップの接続効果	斉藤良雄（日本インターンシップ推進協会）
			研究発表：CA人材育成におけるインターンシップの役割－桜美林大学の事例から	塩谷さやか（桜美林大学）
			研究発表：欧米における観光インターンシップの接続効果	太田和男（帝京平成大学）・那須幸雄（文教大学）・千葉隆一（文京学院大学）
4	2012年12月1日	中央大学駿河台記念館	テーマ：インターンシップと就業力の醸成 基調講演：インターンシップの可能性～GLACの成果検証とインプリケーション～	江田佳子（株式会社リクルートキャリア　雇用創出支援グループ）
			報告：エンプロイヤビリティを育むインターンシップの構築～就職とインターンシップに関するアンケート調査結果を踏まえて～	田中宣秀（電気通信大学）
5	2013年3月24日	目白大学	テーマ：インターンシップのキャリア開発効果と就職 基調講演：社会人基礎力の深化とキャリア形成	奈須野太（経済産業省経済産業政策局産業人材政策）
			研究発表：フランスのインターンシップによるキャリア開発効果の検証	五十畑浩平（中央大学）
			シンポジウム：インターンシップのキャリア開発効果と就職	モデレーター：横山修一（工学院大学）、 シンポジスト：渡辺裕二（拓殖大学）・千葉隆一（文京学院大学）・牛山佳菜代（目白大学）
6	2013年6月22日	文京学院大学本郷キャンパス	テーマ：先端的分野のインターンシップ―グローバル化に対応する接続効果と実践上の課題― 基調講演：新卒応援ハローワークにおける大学生等への就職支援	吉田勉（厚生労働省職業安定局若年者雇用対策室）
			シンポジウム：インターンシップとキャリア開発	司会：高橋保雄（アニモプラス株式会）、 シンポジスト：久保田優（筑波大学学生部就職課）・小野展克（嘉悦大学キャリアセンター）・那須幸雄（文教大学）
			研究発表：筑波大学におけるキャリア教育の取り組みについて	久保田優（筑波大学学生部就職課）
			研究発表：実践の場で学ぶ～嘉悦大学のインターンシップ教育～	小野展克（嘉悦大学）
7	2013年12月7日	目白大学	テーマ：長期インターンシップの導入に向けての検討 基調講演：お薦めしたいIAESTE 海外インターンシップの活用～グローバル人材の育成に向けて	奥浩昭（電気通信大学）
			学生によるインターンシップ研修成果発表 「JTB東北福島支店法人営業の実習から学んだこと」 「編集業務、イベント企画を通して出版のしくみを学ぶ」 「自治体でのインターンシップから得られたもの」 「長期インターンシップで学んだこと」 「取材して書く～ジャーナリズムの実践教育～」	堀川健太朗（文教大学国際学部3年）、高階彩（目白大学社会学部メディア表現学科3年）、陣内まゆみ（玉川大学経営学部観光経営学科3年）、竜沢恵（山梨学院大学現代ビジネス学部3年）、木下範之・山本圭祐・安斎勇登（嘉悦大学ビジネス創造学部2年）
8	2014年3月15日	玉川大学	テーマ：長期インターンシップ導入の検討 基調講演：長期インターンシップの受入れの背景と展望	末吉孝弘（渋谷エクセルホテル東急）
			研究発表：長期インターンシップの展望	島田薫（聖徳大学）
			研究発表：文部科学省の長期インターンシップの取組みと課題	薬師丸正二郎（立教学院短期大学）・田中宣秀（電気通信大学）
			研究発表：教育分野における就業体験の現状と課題	山口圭介（玉川大学）

6. 支部活動／研究会の記録

No	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
9	2014年6月28日	中央大学駿河台記念館	テーマ：長期インターンシップ導入に向けての検討 基調講演：若年雇用を取り巻く現状と課題	臼井啓能（東京経営者協会）
			研究発表：『夢カレッジ』の海外インターンシップの取り組みと現状	西澤正樹（亜細亜大学）
			研究発表：山梨学院大学が取り組む長期インターンシップについて	数住伸一（山梨学院大学）
			研究発表：長期海外インターンシップの教育実践報告	高橋修一郎（神田外語大学）
			研究発表：大学におけるキャリア教育と先進校の長期インターンシップの動向	那須幸雄（文教大学）
10	2014年10月11日	玉川大学	テーマ：インターンシップの推進と就職問題を考える 基調講演：国内10,000名、海外900名の長期・有給ホテルインターンシップ派遣実績に見る、効果的なインターンシップ導入に関する諸課題	石塚勉（一般財団法人日本ホテル教育センター）
			シンポジューム：ホンネでトーク インターンシップの推進と就職問題を考える	パネリスト：石塚勉（一般財団法人日本ホテル教育センター）、中村裕（元 一般社団法人日本ホテル協会、ロイヤルパークホテルズアンドリゾーツ）、磯野彰彦（昭和女子大学 キャリア支援センター）、高橋修一郎（神田外語大学 グローバル推進室） コーディネーター：横山皓一氏（株式会社SKY経営研究所）
11	2015年2月21日	工学院大学	テーマ：長期インターンシップの可能性を探る 基調講演：教職大学院における長期の教育実習を巡って	坂野慎二（玉川大学大学院）
			シンポジウム：長期インターンシップの可能性を探る	パネリスト：坂野慎二（玉川大学大学院）、長期の教育実習の受け手である学校関係者、数住伸一（山梨学院大学）、長期のインターンシップの受け手である企業担当者 コーディネーター：山口圭介（玉川大学）
12	2015年6月27日	中央大学駿河台記念館	テーマ：長期インターンシップに関する諸活動の総括 基調講演：長期インターンシップの課題と展望	横山修一（元 工学院大学、特定非営利活動法人日本インターンシップ推進協会）
			シンポジウム：長期インターンシップの課題と展望	パネリスト：横山修一（元 工学院大学、特定非営利活動法人日本インターンシップ推進協会）、古閑博美（嘉悦大学）、田中宣秀（電気通信大学）、那須幸雄（文教大学） コーディネーター：山口圭介（玉川大学）
13	2015年11月28日	目白大学	テーマ：企業がインターンシップ生を受け入れるメリットを考える 基調講演：職業能力評価基準と効果的なインターンシップ・プログラム策定の可能性について	高久訓一（中央職業能力開発協会（JAVADA）能力開発支援部評価制度開発課）
			シンポジウム：企業がインターンシップ生を受け入れるメリットを考える	―
14	2016年3月26日	大学コンソーシアムやまがた	基調講演：地方大学のインターンシップの可能性と課題	高瀬和実（岩手県立大学）
			シンポジウム：地方大学のインターンシップの可能性と課題	パネリスト：高瀬和実（岩手県立大学）、佐藤啓（株式会社サニックス 代表取締役社長）、田中伸吾（山形大学人文学部2年） コーディネーター：松坂暢浩氏（山形大学）
			研究発表：地方大学における中長期型インターンシップの取組み	粟野武文（山形大学） 高澤陽二郎（新潟大学）
15	2016年7月9日	文化学園大学	基調講演：地域連携による効果的な低学年インターンシップの事例、および大学生の地元志向の傾向と課題	松坂暢浩（山形大学）
			講演：事例報告 長期40日インターンシップと学生の将来についての一考察	宮本伸子（ものつくり大学）
16	2016年12月11日	ガレッソホール新潟	テーマ：教育改革におけるインターンシップへの期待 講演1：新たにスタートする協創経営プログラムとインターンシップ 講演2：地域と連携したPBL型インターンシップ	田邊裕治（新潟大学） 森樹男（弘前大学）
			事例報告1：海外インターンシップの取り組み 事例報告2：COC＋インターンシップ事業の取組み	佐藤宗幸（新潟工科大学） 古俣清勝（新潟大学）
17	2017年3月5日	玉川大学	基調講演：インターンシップによる学習意欲向上効果と就業意識向上効果に関する考察	三浦一秋（山梨英和大学 学生サービス部）
			講演：大学と社会とを結ぶ架け橋である、キャリア形成としてのインターンシップの役割	新目真紀生（職業能力開発総合大学校）
	2017年3月6日		東日本支部に名称変更	
18	2017年12月17日	岩手県立大学アイーナキャンパス	講演：東北インターンシップ推進コミュニティによる3年間の取り組みについて	髙橋郁磨（岩手県立大学）
			シンポジウム：地方圏の大学連携事例からインターンシップの在り方を考える	パネリスト：髙橋郁磨（岩手県立大学、松坂暢浩（山形大学）、渡辺一馬（一般社団法人 ワカツク） コーディネーター：高瀬和実（岩手県立大学）
			研究発表：インターンシップにおけるメンターの役割～インターンシップ参加学生の調査結果から～	村上正夫（嘉悦大学）
19	2018年3月3日	ものつくり大学	基調講演：インターンシップから学び、インターンシップを通じて教えること	伊藤嘉男（有限会社 伊藤建設・ものつくり大学第1期卒業生）
			提案発表：インターンシップ受入企業の開拓と継続に関する提案	宮本伸子（ものつくり大学）
			車座討論会：インターンシップの持続的発展について～受入企業の視点を踏まえて～	パネリスト：伊藤嘉男（有限会社 伊藤建設・ものつくり大学第1期卒業生）、宮本伸子（ものつくり大学） 司会進行：薬師丸正二郎（立教大学）

No	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
20	2018年7月8日	筑波学院大学	テーマ：地方都市の産業活性化とインターンシップ 基調講演：留学生のインターンシップへの取り組み	金久保紀子（筑波学院大学）
			インターンシップの受け入れ企業による実情と展望	黒岩賀津子（いばらきコープ生活協同組合 管理部） 川村昂弘（株式会社カスミ 人事部）
			パネルセッション：地域活性化におけるインターンシップの役割	パネラー：黒岩賀津子（いばらきコープ生活協同組合 管理部）、川村昂弘（株式会社カスミ 人事部）、金久保紀子（筑波学院大学）、岡本俊一（株式会社関彰商事 人事部） モデレーター：大島愼子（筑波学院大学）
			研究発表：日本人学生の参加するインターンシップについて	樫村真由（国立東京工業高等専門学校）
			研究発表：「インターンシップ論」における学生のコメントにみる事前教育の重要性	古閑博美（元 嘉悦大学）
21	2018年12月1日	青森中央短期大学	テーマ：地方都市における共育型インターンシップの可能性 基調講演：地方都市における共育型インターンシップの可能性	曽我亨（弘前大学）、小寺将太（一般社団法人 tsumugu）
			研究発表：学年別インターンシップ体験のモデル化へ向けた検討 －1・2年次で体験した大学生へのデプスインタビュー調査から－	野村尚克（株式会社 MOVER & COMPANY）
			研究発表：教育分野における就業体験の現状と体系化の試み －山口県教育委員会と青森県教育委員会の取組を手がかりとして－	山口圭介・川崎登志喜（玉川大学）
			研究発表：キャリア教育におけるキャリア・マーケティングの視点～プロバスケット球団創立インターンの事例から	篠崎雅春（東京未来大学）
			バズ・セッション	曽我亨（弘前大学）、小寺将太（一般社団法人 tsumugu）、春日一心（弘前大学農学生命科学部2年）
22	2019年5月18日	立教大学	テーマ：「公務員インターンシップの現状と課題 基調講演1：東京都インターンシップの現状と課題 基調講演2：国家公務員におけるインターンシップの現状	東京都 橋本賢二氏（人事院）
23	2019年7月21日	目白大学	テーマ：東日本支部の目指す方向性について考える 地方圏の事例紹介：山形大学における地域の中小企業団体と連携した低学年インターンシップの取組み 首都圏の事例紹介：目白大学における企業・地域と連携したインターンシップの取組み テーマを踏まえた意見交換会	松坂暢浩・山本美奈子（山形大学） 牛山佳菜代（目白大学）
24	2019年12月14日	大学コンソーシアムやまがた	テーマ：地方圏の中小企業が取組むインターンシップ・プログラム事例から学ぶ 報告：インターンシップに取組む山形県内の中小企業経営者および担当者からの実践報告	佐藤啓（株式会社サニックス）、前盛直人（株式会社エム・エス・アイ 経営企画室）
			研究発表：産学連携インターンシップを活用した人材育成―受入企業の社員に対する予備的調査―	松坂暢浩・山本美奈子（山形大学）
25	2020年7月26日	オンライン（Zoom）	テーマ：コロナ禍におけるインターンシップを考える 講演：ミライシップによるオンラインインターンシップの取組み―目白大学メディア学部の事例を中心に	野村尚克・眞野目悠太（Mirai Ship）
26	2021年2月27日	オンライン（Zoom）	テーマ：インターンシップ研究の意義と手法 基調講演：インターンシップ研究の手法	古田克利（立命館大学大学院）
			研究発表：ドイツの専門大学（Fachhochschule）におけるインターンシップ（実習 セメスター）の研究とその意義	佐藤勝彦（ブレーメン経済工科大学）
27	2021年6月19日	オンライン（Zoom）	企画研究委員会・東日本支部 共催セミナー：実践を学術研究・論文作成に結びつけるために～研究年報掲載論文を題材に論文の書き方、研究の進め方を考える～ 第1部：検討論文の構造を把握する 第2部：検討論文の問題意識を共有し、日々の実践・研究に活かす	ファシリテーター：薬師丸正二郎（立教大学）、稲永由紀（筑波大学）、見舘好隆（北九州市立大学）
28	2021年12月5日	オンライン（Zoom）	テーマ：秀逸なインターンシップの事例から学ぶ 第4回槙本記念賞 最も秀逸な事例 受賞大学による事例発表 事例発表：低学年インターンシップの導入等、多様なインターンシップの展開	二上武生（工学院大学）
29	2022年3月23日	オンライン（Zoom）	テーマ：秀逸なインターンシップの事例から学ぶ 第4回槙本記念賞 秀逸な事例 受賞大学による事例発表 事例発表1：インストラクショナルデザインによるオンライン・インターンシップの設計と運営 -産学連携による取組み- 事例発表2：地域企業の魅力発見インターンシップ -地域企業を複数社体験するNPO法人G-net によるシゴトリップの事例より	山本美奈子（山形大学） 今永典秀（名古屋産業大学）
30	2022年6月12日	目白大学＋ オンライン（Zoom）	テーマ：秀逸なインターンシップの事例から学ぶ 企業によるインターンシップ取組事例から学ぶ 事例発表1：Mirai Shipによるオンラインインターンシップ 事例発表2：インターンシップ、誰のため?何のため? ～現在のインターンシップを問いなおす大川印刷の取り組み	眞野目悠太（Mirai Ship） 大川哲郎（株式会社大川印刷）
31	2023年1月28日	目白大学＋ オンライン（Zoom）	テーマ：インターンシップの実践事例を研究につなげる パネルディスカッション：実践から研究につなげるためのポイントについて	コーディネーター：二上武生（工学院大学） パネリスト：山本美奈子（山形大学）
			研究発表：複数部署の体験が可能となるインターンシッププログラムの開発－愛知県瀬戸市役所の事例より－	若村和輝（瀬戸市役所 行政管理部人事課人材育成係）、今永典秀氏（名古屋産業大学）
32	2023年3月30日	オンライン（Zoom）	テーマ：インターンシップの実践事例を研究につなげる パネルディスカッション：実践から研究につなげるためのポイント Part2	コーディネーター：二上武生（工学院大学） パネリスト：山本美奈子（山形大学）
33	2023年3月30日	オンライン（Zoom）	テーマ：インターンシップの実践事例を研究につなげる パネルディスカッション：実践から研究につなげるためのポイント Part3	コーディネーター：松坂暢浩（山形大学） パネリスト：山本美奈子（山形大学）
			研究発表：インターンシップが口コミに及ぼす要因：プログラムの重要性	児子正治（岡山大学）

関西支部　18年のあゆみ

関西支部長
安孫子　勇一
（近畿大学）

関西支部は2005年12月、全国最初の支部として設立された。発足時には、初代関西支部長の槇本淳子会員（当時は大阪経済大学教授、現在は顧問・名誉会員）を中心に、副支部長の加藤敏明会員（当時は立命館大学教授、現在は非会員）や副支部長の私（現在と同じ）などが支部運営を担った。設立記念フォーラムは、大阪経済大学 北浜キャンパス（ビジネス街の立派なサテライト教室）で開催され、高良和武会長（当時、初代会長）にご挨拶いただき、松下電器グループ（現・パナソニック）の採用担当課長に基調講演をお願いするなど、盛大な催しだった。

もっとも、関西支部は、授業負担が非常に重い私立大学の教員が主体で、研究発表ニーズの強い国公立大学の教員・大学院生が殆どいなかったことから、身の丈にあった支部活動を標榜してきた。例えば、当初より支部研究会の開催を原則年１回とすることを申し合わせ、今日まで継続している。設立当初は、法人会員に大阪経済大学、京都産業大学、関西学院大学、近畿大学が名を連ね、各校事務部門の積極的支援もあり、支部研究会などの会場選びには困らなかった。しかし、現在でも法人会員に残るのは大阪経済大学と京都産業大学だけである（両校は全国大会の運営協力や研究報告を意欲的に続けてくださり、関西支部として深く感謝）。これに対し、関西学院大学と近畿大学は法人会員から退会したうえ、両校の個人会員も退職等による退会が相次いでおり、学校法人の間で温度差が広がっている。

関西支部研究会では、当初、第２代支部長・加藤敏明会員の提唱により、学校種ごとのインターンシップに焦点をあてた。具体的には、第１回（2006年）の総合大学、第２回（2007年）の大学院、第３回（2007年）の工業高等専門学校、第４回（2008年）の女子大学である。一応の区切りを迎えて、第５回（2009年）は「教養教育に位置づけたインターンシップ キャリア教育」に注目し、第６回（2010年）以降は、インターンシップの教学の現場から秀逸なインターンシップを紹介してきた。例外として、第10回（2015年）の「WACE第19回世界大会の模様」（同年８月に京都産業大学で開催されたWACE＜the World Association for Cooperative & Work-Integrated Education＞第19回世界大会の模様を紹介）と、第14回（2019年）の「中小企業とインターンシップ」（日本政策金融公庫とネットワーク多摩のお取り組みを紹介）が目立っている。また、第14回（2019年）以降、大阪府内地域連携プラットフォームを標榜されている大学コンソーシアム大阪（非会員）との共催とし、第15回（2020年）以降は同コンソーシアム（コロナ禍でオンライン授業による単位互換等を積極化）のシステムサポートを受けて、Zoomと対面のハイブリッド方式で開催している。他支部や外国在住の会員の参加もあり、実り多い研究会となっている。

全国大会については、第12回大会（2011年）を長尾博暢会員のご尽力により鳥取大学で開催し、第16回大会（2015年）を近畿大学諸会員のご尽力により近畿大学で開催した。第20回大会（2019年）は当時の支部長・廣瀬幸弘会員（当時は立命館大学教授）主導のもと立命館大学での開催準備を進めていたが、同会員の体調不良等により、急遽会場を近畿大学に変更し、支部会員のご助力に支えられて開催した。第24回大会（2023年）は伊藤文男会員・大串恵太会員のご尽力と支部会員のご助力に支えられて、追手門学院大学で４年ぶりに対面で開催した。

【関西支部　歴代支部長、副支部長】（敬称略）

2005年12月～2007年３月　支部長：槇本淳子　副支部長：加藤敏明・安孫子勇一
2007年４月～2010年３月　支部長：加藤敏明　副支部長：槇本淳子・安孫子勇一
2010年４月～2011年３月　支部長：加藤敏明　副支部長：松澤孝明・安孫子勇一
2011年４月～2012年３月　支部長：加藤敏明　副支部長：槇本淳子・安孫子勇一

2012年４月～2015年３月　支部長：安孫子勇一　副支部長：長尾博暢・廣瀬幸弘・松高政
2015年４月～2017年３月　支部長：安孫子勇一　副支部長：廣瀬幸弘・松高政
2017年４月～2019年９月　支部長：廣瀬幸弘　副支部長：松高政・安孫子勇一
2019年10月～2023年６月　支部長：安孫子勇一　副支部長：廣瀬幸弘・松高政

【関西支部】（2005年12月2日設立）

No	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
1	2005年12月2日	大阪経済大学 北浜キャンパス	＜日本インターンシップ学会関西支部設立記念フォーラム＞ テーマ：産学連携の新たな歩み	
			基調講演：インターンシップを通じた産学連携の在り方 ～松下の事例をもとに～	井上猛（松下電器産業）
			事例発表1．学生を指導しつつ社員が成長するインターンシップを目指す	木須弘二（グルメ杵屋）
			事例発表2．人間的実学教育の柱に据えたインターンシップの全学的展開	福岡健一（大阪経済大学）
			事例発表3．文科省高度人材育成プラン選定プログラムの全容と可能性	鈴鹿周正（堀場製作所）
2	2006年11月10日	関西学院大学 大阪梅田キャンパス	テーマ：発展型インターンシップの実践的研究 ～日本型コーオプ教育を考える Part-Ⅱ～	
			発表1．日本型COOP教育の構築を目指して　～新たな夢とチャレンジ～	松澤孝明（神戸大学）
			発表2．オンオフキャンパスフュージョンの発展的展開	後藤文彦（京都産業大学）
			発表3．オムロンコーオプ演習における実践的研究	田村陽子（立命館大学）
3	2007年3月29日	大阪経済大学 北浜キャンパス	テーマ：大学院生のインターンシップを考える	
			発表1．日本銀行における大学院生インターンシップの経験	石川大輔（京都大学経済研究所）
			発表2．産学共同教育　企業法務プロフェショナル育成とインターンシップ	佐藤鉄男（同志社大学）
			発表3．大学院生対象インターンシップの現状、課題とその方向性	西垣葵（大阪大学）
4	2007年12月15日	関西学院大学 大阪梅田キャンパス	テーマ：工業高等専門学校におけるインターンシップ、キャリア教育	
			基調コメント：人材育成と産学連携	二タ村森（経済産業省）
			発表1．徳山高専におけるキャリア育成教育とインターンシップ	田村隆弘（徳山工業高等専門学校）
			発表2．海外研修旅行と銘打つキャリア教育	松本勉（熊本電波工業高等専門学校）
			発表3．阿南高専における低学年からの職業指導の実践	奥本良博（阿南工業高等専門学校）
5	2008年12月13日	キャンパスプラザ京都	テーマ：女子大学におけるインターンシップ、キャリア教育	
			発表1．安田女子大における地域Jリーグ活動と連携したキャリア教育	染岡慎一（安田女子大学）
			発表2．京都女子大学におけるキャリア教育の実践	槇村久子（京都女子大学）
6	2009年12月5日	キャンパスプラザ京都	テーマ：教養教育に位置づけたインターンシップ、キャリア教育	
			発表1．教養教育としてのキャリア教育とプロジェクト・リテラシー	圓月勝博（同志社大学）
			発表2．教養教育としてのライフデザイン・プログラムの取り組み ―インターンシップ関連科目を中心に―	富田宏治（関西学院大学）

No	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
7	2010年12月10日	大阪企業家ミュージアム会議室	〈関西支部設立5周年記念フォーラム〉 テーマ：秀逸なインターンシップに共通するもの	
			基調講演：インターンシップに期待すること	坂上義明（大阪商工会議所）
			パネルディスカッション 「商工会議所が手掛ける半年間に及ぶ課題解決型長期インターンシップ」 「即戦力型研修で教育効果を発揮する長期インターンシップ」 「大学間連携による中小企業支援リンカーンプロジェクト」 「理系大学院生対象の課題解決型高度人材育成長期インターンシップ」	熊谷悟（大阪商工会議所・大阪企業家ミュージアム） 上田久雄（有限会社上田） 難波祐美（大学連携キャリア教育センター） ラウパッハ・ヨーク（NEC SCHOTTコンポーネンツ）
8	2012年8月24日	キャンパスポート大阪	テーマ：インターンシップ教学の現場から	
			発表1．インターンシップから日本型コーオプ教育を目指して ～京都産業大学におけるインターンシップの現状と課題～	松高政（京都産業大学）
			発表2．学部や研究科を越えた教養教育としてのインターンシップ運営 ～事前・事後研修を中心に 国際プログラムも踏まえて～	加藤敏明・廣瀬幸弘（立命館大学）
9	2013年8月23日	追手門学院大学大阪梅田サテライト	テーマ：インターンシップ教学の現場から	
			発表1．大学におけるインターンシップ教育の現状と企業から見た評価 ～近畿大学経営学部の取組を事例として～	辻隆久（近畿大学）・酒井幸雄（帝人）
			報告2．大阪府立大学生協の出発（たびだち）サポートプログラム実施状況報告 ～下級生を支える先輩サポーターの活動と、生活ポートフォリオの活用について～	吉川育宏（大学生協阪神事業連合）・ 田原靖之（全国大学生協）
10	2014年8月30日	京都産業大学むすびわざ館	テーマ：産学協働教育におけるインターンシップの多様性	
			発表1．産官学連携による岐阜大学PBL型長期インターンシッププログラム（GULIP）における基盤的能力に対する評価について	廣瀬幸弘（岐阜大学）
			発表2．キャリア教育を実践できる教員養成のためのインターンシッププログラムの開発へ	田崎悦子（大阪教育大学）
			発表3．大阪大学大学院経済学研究科『研究・調査インターンシップ講義』における実践的インターンシップへの挑戦	尾崎雅彦（大阪大学）
11	2015年12月4日	キャンパスプラザ京都	テーマ：WACE第19回世界大会の模様	
			報告1．WACE世界大会の全体像	松高政（京都産業大学）
			報告2．WACEと立命館大学（WACEでの活動報告）	廣瀬幸弘（立命館大学）
			報告3．WACE第19回世界大会参加報告（2）	五十畑浩平（徳山大学）
12	2016年8月10日	キャンパスプラザ京都	実践を学術研究・論文作成に結びつけるために（企画研究 WG・年報編集委員会・関西支部 共催セミナー）	
			発表1．日々の実践を学術研究に結びつける視点	古田克利（関西外国語大学）
			『インターンシップ研究年報』への投稿と査読の実際 ―査読の流れと査読のポイント―	亀野淳（北海道大学）
13	2016年8月10日	キャンパスプラザ京都	テーマ：インターンシップ教学の現場から	
			発表1．高い参加率を維持するインターンシッププログラムの実践内容 ―大阪経済大学の事例―	中島美佐穂（大阪経済大学）
			発表2．インターンシップの深化における豊橋創造大学の取り組み課題 ～事前・事後指導の改善と実習先企業の拡大～	見目喜重（豊橋創造大学）

No	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
14	2017年6月9日	キャンパスポート大阪	テーマ：インターンシップ教学の現場から	
			発表1．低学年インターンシップ教育の取り組み評価 ～近畿大学を事例として～	岩井貴美（近畿大学・院生）
			発表2．インターンシップ実践例と質を向上するための仕組みづくり ～学生向け・企業向けのワークシートの開発～	木村亮介（和歌山大学）
15	2018年8月10日	キャンパスプラザ京都	テーマ：インターンシップ教学の現場から	
			発表1．産学国際協働PBLの長期インターンシップにおける教育効果と企業評価について	廣瀬幸弘（立命館大学）
			発表2．インターンシップ専門人材育成プログラム ―WACE GLOBAL WIL MODULEに参加して―	田中寧（京都産業大学）
16	2019年12月6日	キャンパスポート大阪	テーマ：中小企業とインターンシップ（大学コンソーシアム大阪共催）	
			発表1．中小企業におけるインターンシップ ―急成長新規開業企業の事例から―	深沼光（日本政策金融公庫総合研究所）
			発表2．産官学金連携を通じたインターンシッププログラムの課題 ～ネットワーク多摩での経験から～	根本忠宣（中央大学）
17	2020年12月4日	オンライン（Zoom）およびキャンパスポート大阪	テーマ：インターンシップ教学の現場から（大学コンソーシアム大阪共催）	
			発表1．四天王寺大学のキャリア教育の取り組み ～インターンシップに焦点をあてて～	笠原幸子・隅田孝（四天王寺大学）
			発表2．実践報告：企業と作るオンラインインターンシップ	大串恵太（追手門学院大学）
18	2021年12月10日	オンライン（Zoom）およびキャンパスポート大阪	テーマ：コロナ禍の下での実践型インターンシップの模索（大学コンソーシアム大阪共催）	
			発表1．コロナ禍における地域をフィールドとした実践型インターンシップの模索 ～地域と若者を繋ぐグラデーションある実践機会の設計～	南田修司（NPO法人 G-net）
			発表2．実践型インターンシップのユニバーサル化の模索 ～下準備としてのＰＢＬの活用～	木村亮介（和歌山大学）
19	2022年12月16日	オンライン（Zoom）およびキャンパスポート大阪	テーマ：インターンシップにおける連携のあり方を考える（大学コンソーシアム大阪共催）	
			発表1．『大学生期における消費者教育推進事業』の大学横断的な取り組み ～大阪府消費生活センターや大学コンソーシアムと連携して～	岡崎裕（和歌山大学）
			発表2．これまでのインターンシップを振り返り、これからのインターンシップを考える ～企業、中間支援組織、それぞれの立場から～	伊藤文男（追手門学院大学）

九州支部　15年のあゆみ

九州支部長
眞鍋　和博
（北九州市立大学）

日本インターンシップ学会九州支部は、2008年６月27日に支部設立総会と第１回研究会を開催し、その活動をスタートしました。そして、2022年度まで29回もの研究会重ねてきました。

九州支部設立にあたっては、初代の九州支部長であり、その後長きにわたって支部長を歴任することになる吉本圭一会員、そして初代副支部長として学会運営体制の礎を築いた中原淳二会員の貢献がなくては語ることができません。特に吉本会員は、支部の組織づくり、研究会の企画など、支部運営にかかわるほぼすべてのタスクについて、先生の知見と未来への展望を擁して取り組まれ、支部設立に尽力されました。また、事務局は当初九州大学人間環境学研究院がその役割を担っていましたが、2012年度から北九州市立大学に移り、2018年度から久留米大学に置かれています。そして裏方として支部運営をサポートされ続けてきた江藤智佐子会員の獅子奮迅のご活躍は余人をもって代え難いといえます。

九州支部は運営委員会を組織し、年に数回支部運営委員会を開催し、主として研究会の企画などについて協議を行っています。監事には、年間の支部会計のチェックをお願いし、運営全体を支部事務局がバックアップしています。運営委員の任期は２年間となっています。また、年に１回九州支部総会を開催し、決算報告に続き、活動計画、予算などについて審議、承認を得ながら支部運営を進めています。

九州支部研究会はこれまでおおよそ年間２回のペースで開催してきました。インターンシップの効果、受け入れ側の成果、長期インターンシップ、海外インターンシップ、短期大学や高等学校でのインターンシップ、専修学校の職業教育、地域でのボランティア活動、中間支援団体の役割等々、多種多様なテーマを設定してきました。登壇者の顔ぶれも、九州支部を主な活動場所とする学会員はもちろん、大学等でインターンシップの実践に係わる方、それを受け入れている地元企業の方、インターンシップや就職活動に関するビジネスセクターの方、海外からのゲストスピーカーなど多彩な顔触れです。また、その形式も、研究発表、事例報告、パネル討論など様々です。

この15年間に、第11回大会（2010年度ハウステンボス：長崎短期大学）、第15回大会（2014年度北九州市立大学）、第19回大会（2018年度香蘭女子短期大学）、第23回大会（2022年度久留米大学）と４回の大会を九州エリアで開催しました。

新型コロナウィルスのパンデミックに見舞われた期間も、九州支部では開催形式を工夫し、研究会を継続的に開催してきました。2020年７月に実施した第25回ではいち早くオンライン（Zoom）形式での研究会を開催し、2022年３月の第28回までの４回は、遠隔地域の会員も参加しやすいように、オンラインと対面の併用など、テーマに応じて開催形式を柔軟に対応してきました。

また、2022年度は「学会へGO！」をキーワードとして、研究を始めて間もない会員やインターンシップ実践者の研究能力向上を目的として、学会大会での発表を目指すための育成型研究会を開催しました。スタートアップとして研究の萌芽を発表いただき、ベテラン支部会員が様々なアドバイス、サポートを行う仕組みです。模索中ではありますが、実際に大会発表につながっただけでなく、高良記念研究助成採択や、槇本記念賞受賞などへの成果にもつながっています。このような、研究のすそ野を拡げる取り組みは、九州支部のみならず学会全体でも重要となっていると考えています。

三省合意改正とほぼ時を同じくしてスタートした九州支部での研究会ですが、2022年の「新三省合意」を受けてインターンシップが新たな段階に移行していく中、今後どのように研究会を進めていくのか知恵を絞っていかなければなりません。移行期というのは、学校・企業の対応の遅れなどさまざまな課題や齟齬が生じることが予想されますが、それらはまさに研究の種になるでしょう。九州支部では研究会を通じて今後も積極的に「教育としてのインターンシップ」の在り方を模索していきたいと考えています。

【九州支部　歴代支部長、副支部長、事務局長】（敬称略）

2008年度～2011年度　支部長：吉本圭一　副支部長：中原淳二・眞鍋和博
2012年度～2017年度　支部長：吉本圭一　副支部長：古賀正博・眞鍋和博　事務局長：眞鍋和博
2018年度～2020年度　支部長：吉本圭一　副支部長：古賀正博・眞鍋和博　事務局長：江藤智佐子
2021年度～2022年度　支部長：眞鍋和博　副支部長：古賀正博・江藤智佐子　事務局長：江藤智佐子

【九州支部】（2008年6月27日設立）

No.	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
1	2008年6月27日	九州大学箱崎キャンパス文・教育・人環研究棟2F会議室	『学会九州支部設立に寄せる期待』	田村紀雄（東京経済大学）
			テーマ：『事例に学ぶ3-winインターンシッププログラム』	
			発表1.「学生イニシアティブの展開」	真鍋和博（北九州市立大学）
			発表2.「専門学校のワーキングスタディ」	渡邊和明（福岡カレッジオブビジネス）
			発表3.「普通高校のキャリア教育」	米原光昭（福岡県立公立古賀高校）
			発表4.「CSRとキャリア教育」	澤田和知（コクヨ九州販売株式会社）
			パネルディスカッション：『3-winのインターンシップ構築をめざして』	パネリスト：事例報告者4名及びコーディネーター・吉本圭一（九州大学）
2	2008年11月22日	電気ビル7号会議室	第1部『インターンシップが深める地域連携』	（福岡県インターンシップ推進協議会共催）
			発表1.「地方行政の地域連携の取り組み－行政とインターンシップ－」	櫻木祐宏（長崎県インターンシップ推進協議会）
			発表2.「地域が持つ資源を利用した教育の事例と成果」	竹内裕二（東海大学福岡短期大学）
			第2部『インターンシップ九州場所』	福岡県インターンシップ推進協議会学生スタッフ
3	2009年1月13日	九州大学箱崎キャンパス人環会議室	テーマ：『地域と連携した有報酬インターンシップ』	（社団法人 福岡県専修学校各種学校協会共催）
			「長崎短大のインターンシップ－ハウステンボスと連携しながら－」	安部恵美子・牟田美信（長崎短期大学）
4	2009年6月27日	九州大学西新プラザ	テーマ：『九州からグローバルなインターンシップを考える』	
			発表1.「受け入れ側のメリットとなる留学生インターンシップへの取組み」	太神みどり（大学コンソーシアムおおいた事務局長代理）
			発表2.「アジア人財資金構想プログラムにおける留学生インターンシップ」	馬場研二（九州アジア人財協議会事務局長）
			発表3.「海外インターンシップの現状と課題」	高畠一郎（ライトハウスキャリアエンカレッジ株式会社代表取締役）
5	2009年11月13日	電気ビル5号会議室	テーマ：『インターンシップ、新しいステージ－マッチングから産官学連携教育へ－』	
			発表1.「インターンシップ受入側（企業）の取り組みについて－株式会社ミドリ印刷」	三戸伸一（株式会社ミドリ印刷）
			発表2.「教職連携ですすめるインターンシップ－筑紫女学園大学2008年度取り組みを中心に－」	竹山優子（筑紫女学園大学）
			発表3.「インターンシップタイプによる基礎力向上効果と就職活動への影響について」	眞鍋和博（北九州市立大学）
			発表4.「専門学校における日本版デュアルシステムの開発的研究－ワーキングスタディ科の事例を中心に－」	渡邊和明（福岡カレッジ・オブ・ビジネス）
6	2010年6月19日	中村学園大学	テーマ：『教育プログラムとしてのインターンシップ－振り返りを通して体験から経験へ－』	
			発表1.「福岡県インターンシップ推進協議会のボランティアスタッフ育成プログラムについて」	中原淳二（福岡県インターンシップ推進協議会・事務局長）
			発表2.「流通科学部のインターンシップ」	浅岡由美（中村学園大学）
			発表3.「資格取得型実習とインターンシップの違いの比較考察」	酒井佳世（久留米大学）
7	2011年3月5日	九州大学箱崎キャンパス文・教育・人環研究棟2F会議室	テーマ：『海外インターンシップの可能性』	司会・進行：眞鍋和博（北九州市立大学）
			発表1.「海外インターンシップの現状と課題」	ジーナ・ウィットル（株式会社 Gina & Partners 代表取締役）
			発表2.「専門学校における海外インターンシップ」	渡邊和明（福岡カレッジ・オブ・ビジネス）
			発表3.「大卒者の海外経験と能力・キャリア形成」	米澤彰純（名古屋大学大学院）
8	2011年8月23日	アクロス福岡6F　608会議室	テーマ：『学生と地域が注目するインターンシップ』	九州インターンシップ推進協議会10周年記念事業共催
			発表1.「福岡トヨタ自動車株式会社」	千原剛（福岡トヨタ自動車株式会社）
			発表2.「株式会社 談」	内空閑裕子（株式会社 談）
			発表3.「株式会社NTT西日本－九州」	服部篤紀（株式会社NTT西日本－九州）
9	2012年3月16日	九州大学　西新プラザ	テーマ：『インターンシップ、海外動向についての研究報告』	（日本キャリア教育学会合同研究会） 進行：亀野淳（北海道大学）
			発表1.「産学連携によるキャリア教育・専門教育推進政策」	名子学（文部科学省 高等教育局 専門教育課 企画係長）
			発表2.「京都産業大学における日本型コーオプ教育の展開」	中川正明（京都産業大学理事）
			発表3.「独・大学・専門大学・ベルーフアカデミーにおける産学連携教育」	坂野慎二（玉川大学）
			発表4.「豪州における高等教育政策と産学連携」	杉本和弘（東北大学）
			発表5.「英国における若者のエンプロイアビリティ政策」	沢田隆（札幌国際大学）・小林純（札幌国際大学短期大学部）

6. 支部活動／研究会の記録

No.	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
10	2012年3月17日	九州大学西新プラザ	『実社会と対話する大学教育－インターンシップから職業統合的学習へ－』	（日本インターンシップ学会九州支部協賛高等教育国際セミナー）
			発表1.「北米のコーオプ教育と豪州の職業統合的学習」	Judie Kay（ビクトリア大学　学習・キャリア部門所長　オーストラリア）
			発表2.「大学におけるエンプロヤビリティ育成と産業・地域の参画」	Brenda Little（公開大学　高等教育研究情報センター研究員・英国）
			パネルディスカッション：「インターンシップの充実に向けて英独豪米日の実践と政策に学ぶ」	コーディネーター：吉本圭一（九州大学）／亀野淳（北海道大学） パネリスト：中川正明（京都産業大学）／坂野慎二（玉川大学）／杉本和弘（東北大学）／稲永由紀（筑波大学）／宮川敬子（NPO法人WIL）／飯田直弘（九州大学）
11	2013年11月16日	九州大学箱崎キャンパス 文・教育・人環研究棟 2階会議室	『インターンシップはどこにいくのか?』	司会進行：眞鍋和博（北九州市立大学）
			パネル討論『インターンシップの今後の方向性について』	吉本圭一（九州大学）・杉江達也（文部科学省高等教育局専門教育課 専門官）
			事例発表1. 山口大学「他県出身者の地元インターンシップ支援」	平尾元彦（山口大学）
			事例発表2. 北九州市立大学「学生が主体となるPBL、サービスラーニング」	見舘好隆（北九州市立大学）
12	2014年5月10日	九州大学箱崎キャンパス 文・教育・人環研究棟 2階会議室	テーマ:『高大接続の視点でみるインターンシッププログラム』	
			講演：「インターンシップ活動の効果を高めるために求められる高大接続の観点」	野村徳之（ベネッセ教育総合研究所 高等教育研究室　アナリスト）
			大学事例発表：「京都産業大学におけるコープ教育の現状と課題」	松高政（京都産業大学）
13	2014年11月29日	九州大学箱崎キャンパス 文学部会議室	講演：「就活の後ろ倒しによる新卒採用とインターンシップ」	江田佳子（株式会社リクルートキャリア就職みらい研究所　主幹研究員）
			大学事例発表：「職業統合的学習（WIL）と海外インターンシップの試み」	酒井佳世（久留米大学）
14	2015年3月27日	福岡商工会議所ビル	テーマ：『効果的なインターンシップを追求する』	司会進行：眞鍋和博（九州支部副支部長）
			基調講演：「インターンシップ終了後も続く関係作り－小さな会社の社会貢献と人材育成－」	高橋康徳（株式会社カウテレビジョン代表取締役社長）
			事例発表1. 福岡女子大学「学びを生み出し、深める『ふりかえり』：国内外体験学習の実践から」	和栗百恵（福岡女子大学）
			事例発表2. 福岡工業大学「中長期実践型インターンシップの取り組み」	宮本知加子（福岡工業大学）
			事例発表3. 北九州市立大学「海外インターンシップの展開事例と効果」	永田公彦（北九州市立大学）
15	2015年12月4日	福岡工業大学 FITホール	九州インターンシップ推進協議会設立15周年記念事業分科会	司会進行：吉本圭一（九州大学）
			報告1.「地域活性化につながる戦略的インターンシップ」	古賀正博（九州インターンシップ推進協議会）
			報告2.「震災復興の現場で社会的課題に取り組む長期インターンシップ【東北】」	眞鍋和博（北九州市立大学）
16	2016年6月4日	九州大学箱崎キャンパス 人環会議室	講演：「就職時期変更によるインターンシップと就職活動への影響」	松田和也（株式会社リクルートキャリア西日本地域活性営業部リクナビ副編集長）
17	2016年10月8日	大博多ビル11階 1109会議室	テーマ：『教育改革の時代的背景とインターンシップの関係性』	九州インターンシップ推進協議会主催・日本インターンシップ学会九州支部共催
			1. 実践型インターンシップ　＜参加学生による成果報告＞ 2. 通常型インターンシップ　＜受入企業・団体による事例紹介＞ 3. 受入内容（プロジェクト設計）の検討および情報交換	
			「教育改革の時代背景およびアクティブラーニングとインターンシップの重要性」	吉本圭一（九州大学）
18	2016年12月10日	九州大学箱崎キャンパス	『日々の実践に基づいた研究企画と論文作成に向けて』	企画研究WG・年報編集委員会共催セミナー 安孫子勇一（企画研究WG委員長・近畿大学）進行：眞鍋和博（北九州市立大学）
			「日々の実践をどう研究論文にするか」	見舘好隆（北九州市立大学）
			「『インターンシップ研究年報』への投稿と査読の実際」	亀野淳（北海道大学）
19	2017年6月3日	九州大学 箱崎キャンパス 文・教育・人環研究棟 2階会議室	テーマ：『多様なインターンシップ実践事例共有会』	
			発表1：実践型インターンシップ＜西九州大学＞ 「体験型学修を通じてDPを具現化する取組－西九州大学におけるインターンシップの位置づけという観点から－」	井本浩之・石川聖子（西九州大学）
			発表2：中間支援組織のインターンシップ＜九州インターンシップ推進協議会＞ 「産学官連携による地域の人材育成」	崔耿美（一般社団法人九州インターンシップ推進協議会）
			発表3：ギャップイヤー型インターンシップ＜長崎短期大学＞ 「短期大学におけるギャップイヤー型インターンシップの導入と実践」	藤原由衣子・中野明人・牟田美信（長崎短期大学）
			発表4：正課型長期インターンシップ＜北九州市立大学＞ 「地域創生学群チャレンジプログラム」	片岡寛之（北九州市立大学）
20	2017年12月17日	佐賀女子短期大学 131教室	『地域との繋がりを活かした短期大学の職業・キャリア教育』	（短期大学コンソーシアム九州共催）
			基調講演：「短大生の成長段階と職業・キャリア教育の事例報告」	中濱雄一郎（香蘭女子短期大学）・久保知里（佐賀女子短期大学）・桑原哲章（福岡女子短期大学）・平田孝治（西九州大学短期大学部）・渡邊和明（精華女子短期大学）・濱口なぎさ（長崎女子短期大学）・牟田美信（長崎短期大学）

No.	開催日	開催場所	テーマ／概要	発表者・講演者（所属）
20	2017年12月17日	佐賀女子短期大学 131教室	パネルディスカッション テーマ：地域との繋がりを活かした短期大学の職業・キャリア教育を考える	コーディネーター：中濱雄一郎（香蘭女子短期大学） コメンテーター：亀野淳（北海道大学） パネラー：濱口なぎさ（長崎女子短期大学）・牟田美信（長崎短期大学）・藪俊晴（佐賀女子短期大学） 総括：安部恵美子（長崎女子短期大学）
21	2018年4月28日	九州大学箱崎キャンパス 文・教育・人環研究棟 2F 会議室	テーマ：『職業統合的学習（WIL）とコンピテンシー』	
			研究発表1.「大学文系の職業統合的学習とホワイトカラーの初期キャリア」	吉本圭一（九州大学）
			研究発表2.「ビジネス分野における職業能力評価基準とコンピテンシー」	江藤智佐子（久留米大学）
			コメンテータ「企業におけるコンピテンシー・ディクショナリーの構築をめぐって」	古賀正博（福岡中小企業経営者協会）
22	2018年11月23日	久留米大学福岡サテライト	研究スタートアップ支援セミナー『高良記念研究助成受賞からのその後のキャリア』	企画研究WG・高良研究助成委員会共催
			基調講演「インターンシップ研究分野と科研申請について」	吉本圭一（九州大学）
			パネルディスカッション	眞鍋和博（北九州市立大学）・渡邊和明（精華女子短期大学）・酒井佳世（久留米大学）・坂巻文彩（九州大学大学院生）
			ワークショップ：「授業や実践をテーマにとした研究計画の立て方」	ファシリテータ：江藤智佐子（久留米大学）
			総括討議：「実践を研究に－客観性と相対化－」	
23	2019年3月9日	リファレンスはかた近代ビル貸会議室	テーマ：『グローバルに往還するインターンシップ』	
			＜海外インターンシップを受け入れる＞ 報告1.「韓国の就職事情と国際インターンシップの派遣アプローチ」	崔耿美（（一社）九州インターンシップ推進協議会）
			報告2.「海外インターンシップコーディネートの現状と課題」	元美和（（一社）地域企業連合会九州連携機構）
			報告3.「海外インターンシップ受入先企業としてのグローヴノーツの取組み」	深野慧甫（㈱グルーヴノーツ）
			＜海外インターンシップに送り出す＞ 報告4.「海外インターンシップ設計の秘訣とその成果」	見舘好隆（北九州市立大学）
			＜留学生インターンシップの事例＞ 報告5.「ＡＰＵ留学生インターンシップの現状と今後の方向性」	松井かおり（立命館アジア太平洋大学）
24	2019年11月1日	久留米大学福岡サテライト	テーマ：『大学の学びと地域を結びつける職業統合的学習』	司会：安田麻希代（4TuneShape株式会社）
			発表1.「長崎県立大学地域創造学部における長期インターンシップについて」	綱辰幸（長崎県立大学）
			発表2.「学科の学びと関連した課題解決型学習―地域医療機関をフィールドとした文医連携プログラム―」	江藤智佐子（久留米大学）
25	2020年7月3日	オンライン（Zoom）	情報交換会：『コロナ時代のインターンシップ・就職活動の現在と未来』	司会：安田麻希代（4TuneShape株式会社）
			話題提供1.「企業の現状」	高橋康徳（株式会社カウテレビジョン）
			話題提供2.「大学の現状」	眞鍋和博（北九州市立大学）・出雲有紗（北九州市立大学・4年）
			話題提供3.「仲介組織の現状」	古賀正博（福岡中小企業経営者協会／九州インターンシップ推進協議会）
26	2021年7月31日	オンライン（Zoom）	テーマ：『教育と職業の接続に対してインターンシップが果たせる役割』	司会・進行：眞鍋和博（北九州市立大学）
			報告1.「教育としてのインターンシップ再考」	吉本圭一（滋慶医療科学大学）
			報告2.「インターンシップ研究のあゆみ」	江藤智佐子（久留米大学）
			ディスカサント：「企業におけるインターンシップの位置づけ」	古賀正博（九州インターンシップ推進協議会）
27	2022年3月19日	オンライン（Zoom）	テーマ：『「実践」を「研究」につなげるには　－スタートアップ支援研究会－』	司会・進行：江藤智佐子（久留米大学）
			発表1.「インターンシップ・PBLにおけるプログラム制度と専門人材の動静－アセスメントによる教育効果の検証と実践型教育の意義と課題－」	嶋田文広（熊本学園大学）／指定討論者：平尾元彦（山口大学）
			発表2.「企業・施設側からみる大学生インターンシップの成熟の段階と負担の構造－受け入れ担当者のインタビュー調査より－」	角光通子（宇部フロンティア大学）／指定討論者：吉本圭一（滋慶医療科学大学）
			発表3.「コーディネータとしての仲介組織の実践事例」	濱本伸司（（一社）フミダス代表理事）／指定討論者：江藤智佐子（久留米大学）
28	2023年2月4日	久留米大学福岡サテライトキャンパス／対面とオンライン（Zoom）の併用	テーマ：『地域の人材育成コーディネーターからみるインターンシップ』	司会：坂田美和子（九州インターンシップ推進協議会）
			報告1：「実践型長期インターンシップの効果について」	岡野涼子（一般社団法人NINAU）
			報告2：「限界集落におけるインターンシップの可能性」	土屋望生（株式会社日添）
			報告3：「熊本での実践事例から見る地域人材育成コーディネーターの役割」	濱本伸司（一般社団法人フミダス）
			パネルディスカッション	ファシリテータ：古賀正博（九州インターンシップ推進協議会）
29	2023年3月27日	久留米大学福岡サテライトキャンパス／対面とオンライン（Zoom）の併用	テーマ：『「実践」と「研究」との対話－スタートアップ支援研究会（2）』	司会・進行：江藤智佐子（久留米大学）
			発表1．2022年度高良記念研究助成　中間報告 「選択必修科目における実践型インターンシップ経験による教育効果の検証－宮崎大学地域資源創成学部『国内インターンシップ』の事例をもとに－」	桑畑夏生（宮崎大学）／コメンテーター：平尾元彦（山口大学）
			発表2.「地方創生インターンシップが地元就職に及ぼす影響について」	小嶋紀博（別府大学）／コメンテーター：渡邊和明（鹿児島大学）
			総括	吉本圭一（滋慶医療科学大学）

謝　辞

本記念誌編纂に際し、記録確認等では吉本圭一会長を始め、2022年度に各委員会を担当されていた委員長や委員の皆様、支部の皆様、そして過去の記録確認にご協力いただいた関係会員の皆様に多大なご協力とご尽力を賜った。任期後にもかかわらず何度も原稿確認等をいただいたことに深く感謝申し上げたい。

以下の方々が本記念誌編纂の記録作成・確認等にご協力いただいた会員諸氏である。

＜創設25周年記念誌の記録作成等に協力いただいた会員の皆様＞

・会長	吉本 圭一会員
・年報編集委員会	古田 克利会員
・広報委員会	眞鍋 和博会員、上岡 史郎会員、見目 喜重会員
・企画研究委員会	稲永 由紀会員
・学会表彰委員会	小林 純会員、古閑 博美会員、松坂 暢浩会員
・選挙管理委員会	手嶋 慎介会員
・北海道支部	小林 純会員、和田 佳子会員
・東日本支部	松坂 暢浩会員、牛山 佳菜代会員
・関西支部	安孫子 勇一会員
・九州支部	眞鍋 和博会員、古賀 正博会員、江藤 智佐子会員
・事務局	亀野 淳会員、山口 圭介会員

編集後記

「記憶」が残っている会員にコンタクトが取れるうちに「記録」を残すことができたのが本記念誌の最大の成果である。前回の10周年記念事業で刊行された「10年の記録」では、当時の田中宣秀委員長や学会創設時の諸先輩方から学会創設時の歴史を伺いながら執筆に参加させていただいた。しかし、創設から25年経つと、歴史を知る会員が少なくなってしまった。そのため、途絶えた「記録」を探し出すことに多くの時間を費やすこととなった。「10年の記録」には2007年度（一部2008年度）までの記録が掲載されていたため、途絶えず「記録」をつなぐことをコンセプトに、本記念誌では「2008～2022年度」までの15年間の記録を残すこととした。ただし、支部の設立年度が異なるため、支部の記録のみ創設時から2022年度までを掲載することになった。

学会活動の正確な記録の拠り所となったのは、広報委員会が発行するNews Letterであった。すべてのNews Letterの記録を紐解き、15年間の変遷が分かるような一覧表を編集委員会で作成する作業から始まった。委員会メンバーが所持していない資料は、当時の関係者に芋づる式に問合せをしていきながら、抜けた情報の一つ一つを埋めていく地道な作業となった。多くの関係者の方々には、突然の連絡で過去の資料探しを手伝っていただくことになったが、快く応じていただき貴重な情報提供をいただけた。散逸した情報をつなぎ合わせ、取りまとめていく煩雑な作業を粘り強く、誠実に取り組んでいただけた和田委員、山口委員には編集委員会のたびに毎回助けられてきた。

会員となって20年の節目に、記念誌編纂を通して多くの方々に支えられ、ご縁をいただき、お知恵をいただきながら、無事に記念誌を発行することができた。ご協力いただいた関係者の皆様には、この場を借りて深く感謝申し上げたい。

「歴史は繰り返さないが韻を踏む」。学会の未来につながる基礎資料として、本記念誌が活用されることを心から願っている。

委員長　江藤智佐子（久留米大学）

1999年の設立以来、我が国におけるインターンシップの発展とともに成長し続けてきた当学会の歴史は、まさに疾風怒濤の歩みであったと言っても過言ではないだろう。委員として編纂に携わる過程において、本記念誌で取り上げた2008年度以降の当学会の歩みがとりわけ飛躍的・発展的なものであったことを強く実感することができたが、これは、まさに歴代会長をはじめ、さまざまな立場にある多くの会員による活動への熱意と努力を抜きには、感じ得ないものであると言えよう。

編纂作業の中で、見出すことが困難な記録、残念ながら喪失されてしまった記録の大部分を補完することができたことは、長きにわたりこの学会の発展に尽力されてきたオブザーバーの吉本圭一会長、さらには、江藤委員長、和田委員の尽力によるものである。これまでの本学会の歴史の核心に少しではあるが触れることができたという喜びと、拓かれた未来に歩み続ける本学会の確かな記録を残し継承していくという課題を得ることのできた編纂作業であった。

最後に、この記念誌の完成に様々なご助力をいただいた歴代の会長、さらには各支部・各委員会の長として編集にご協力いただいた多くの先生方に心からお礼を申し上げたい。

委員　山口　圭介（玉川大学）

2011年に『日本インターンシップ学会～10年の記録～』が発行されてから13年。その後の動向について、宝探しをするように記録場所を探り、パズルをつなぎ合わせるような作業となったが、江藤委員長のリーダーシップの下、無事、「創設25周年記念誌」が完成した。事務局の移転や引継ぎの際に紛失してしまった書類もあり、段ボールの中からファイルを探し出したり、古いパソコンからデータを引っ張り出したりするなど、年数、日時、人名、場所、出来事を確認することに思いのほか四苦八苦した。人の記憶とはいかに曖昧なものか（特に自分自身の記憶力の弱さ）を痛感する場面が多々あった。今さらながら、「記録すること」と「記録するためのシステムを整えておくこと」の重要性を再認識されられた。

その意味で、事実を辿るための拠り所となったのは広報委員会が25年間、１号も欠けることなく発行し続けてきたNews Letterの存在である。年２回発行されるNews Letter原稿を、代々の会長や事務局長、大会実行委員長、各委員会の委員長、各支部長が着実に執筆し続けてくださっていたことが救いとなった。また、どうしてもパズルの穴が埋まらないときに、「学会の記憶（生き字引）」として力を貸してくださった先生方にも感謝したい。

本記念誌の発行によって、今後、時代が移り行き、人が代わっても、この学会の基を辿ることが可能となったのではないかと、編集委員の一人として自負している。

委員　和田　佳子（札幌大谷大学）

日本インターンシップ学会　25周年事業
25周年記念誌刊行WG

委員長	江藤智佐子（久留米大学）
委　員	山口　圭介（玉川大学／事務局長）
	和田　佳子（札幌大谷大学）
オブザーバー	吉本　圭一（滋慶医療科学大学／会長）

日本インターンシップ学会
創設25周年記念誌

2024年６月18日

発　行　日本インターンシップ学会
会長　吉本　圭一

編　者　日本インターンシップ学会 25周年事業 25周年記念誌刊行WG

事務局　日本インターンシップ学会事務局
〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 玉川大学 大学研究室棟内 山口研究室
㈱ガリレオ学会業務情報化センター内 日本インターンシップ学会 会員管理事務局
TEL：03-5981-9824　FAX：03-5981-9852
E-mail：g035jsi-support@ml.gakkai.ne.jp

印刷　城島印刷
〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6

禁無断転載　©日本インターンシップ学会2024 Printed in Japan

JSI
Japan Society of Internship and Work Integrated Learning

25th Anniversary